

授業コード・授業名	100101 仏教と文化A	教室	303教室
授業表題	仏教とは何か、その日本における文化的展開について知る。		
担当教員	清水 海隆	実務経験	○

英語名称	仏教と文化A (Buddhism and Culture A)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜4限
必修・選択	必修	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	2500年前に、インドに誕生されたブッダ（仏陀・おしゃかさま）によって開かれた仏教が、日本に伝来して、1500年ほどの時間が経過しています。その教えが、どのように受けとめられてきたのかを、日本の文化や、歴史上の人物像をとおして考えます。
授業の到達目標	東京立正短期大学の教育理念の根本は仏教にあります。大乘仏教や日本仏教史の中で最も大切にされてきた『法華経』、それを拠り所とした鎌倉時代の日蓮聖人<1222-82>、その末に連なる本学開学の岡田日歸上人です。授業を通して、本学の教育理念の基本を理解できるようになります。

◆授業計画	
1回	はじめに 東京立正短期大学の教育理念・教育目標について講義します。 事前学習：各種の配布物などにより、本学の教育理念や教育目標を確認してください（2時間）
2回	仏教の定義は何か 仏教とは何か。「仏教」はどのように定義されているか考えます。 事前学習：「仏教とは何か」に考えておいてください。（2時間）
3回	仏教徒は何を信じているのか 「仏・法・僧」の三宝について講義します 事前学習：「三宝」について調べておきましょう。（2時間）
4回	仏像を知ろう 仏宝の内容としての仏像について講義します。 事前学習：「あなたの好きな仏像・菩薩像」について調べておきましょう。（2時間）
5回	お経を知ろう 法宝の内容としての経典について講義します。 事前学習：「あなたが知っているお経」について調べておきましょう。（2時間）
6回	お寺を知ろう 僧宝の内容としての寺院や教団について講義します。 事前学習：あなたのうちの宗教（宗派）は何ですか。確認して調べてみましょう。（2時間）
7回	仏教の教えと何か 「戒・定・慧」の「三学」について講義します。 事前学習：いろいろな宗教の「戒律」について調べてみましょう。（2時間）
8回	仏教の伝来はいつ 日本への仏教伝来と日本仏教の展開について講義します。 事前学習：日本の古代史について調べてみましょう。（2時間）
9回	日本仏教の代表的な思想① 日本仏教最初期の人物である聖徳太子について講義します。 事前学習：日本の古代史について調べてみましょう。（2時間）
10回	日本仏教の代表的な思想② 日本仏教の頂点である鎌倉仏教について講義します。 事前学習：日本の中世について調べてみましょう。（2時間）

11回	法華経と日蓮聖人について 日蓮聖人とそのより所である『法華経』について講義します。 事前学習：「法華経」（妙法蓮華経）について調べてみましょう。（2時間）
12回	仏教の生活倫理を知ろう 江戸時代に慈雲が重視した「十善戒」について講義します。 事前学習：「江戸時代」ってどんな時代ですか、調べてみましょう。（2時間）
13回	仏教の死者儀礼を知ろう 仏教の中心的な儀礼である「死者儀礼」について講義します。 事前学習：現代社会のお葬式では、どんなことをするのか、調べてみましょう。（2時間）
14回	仏教と文学 現代でも人気のある宮沢賢治の作品は仏教文学だった。 事前学習：宮沢賢治ってどんな人？作品と生涯について調べてみましょう。（2時間）
15回	仏教と現代社会 現代社会で仏教はどのような意味があるか、一緒に考えます。 事前学習：あなたの周りにはどんな「仏教」がありますか？調べてみましょう。（2時間）

評価方法	試験<おおむね70%>と提出物・受講態度<おおむね30%>により総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	講義中に資料を配布します。
参考書（必要に応じて購入）	必要に応じて、授業内において紹介します。
受講条件・ルール	受講の際、私語や態度等、他者への配慮を忘れないこと。

授業時間外の学習（予習・復習等）	仏教、釈尊、日蓮聖人、宮沢賢治など、各回の項目で示したテーマについて、事前および事後に、毎時の授業に関する書物や資料を読み、授業内容の理解を深めてください。（合計60時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	必要に応じて、直近の授業の冒頭においてコメントする。

授業と関連する実務経験	日蓮宗僧侶
-------------	-------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）		
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力		
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢		
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術		

授業コード・授業名	101401 自己理解と他者理解 [1]	教室	303教室
授業表題	適切なコミュニケーションの為の自他の理解		
担当教員	有泉 正二、横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	自己理解と他者理解 (Self & Others Understanding)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜2限
必修・選択	必修	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	自己理解・他者理解のための諸理論を学ぶ。 適切なコミュニケーションスキルを身につけるため、適宜エクササイズを取り入れる。
授業の到達目標	自分および他人を理解し、尊重する意識を持つ。 そのための諸理論を学び、適切なコミュニケーションスキルを身につける。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション： 授業の進め方、留意点などの説明
2回	自分を知ろう 自分のこれまでの半生を振り返り、今の自分がどのような人間なのかを見つめ直す。
3回	自己概念を広げよう 長所も短所も含め自分の様々な側面を知ることが、他者とのコミュニケーションにおいては重要であることを理解する。
4回	価値観は人それぞれ（1） 人は皆、それぞれに価値観を持っている。世の中には様々な価値観があることを知るとともに、自分はどのような価値観を持つ人間なのかを見つめ直す。
5回	価値観は人それぞれ（2） 人は自分の価値観で物事を解釈している。自分の価値観が他者とどのように違うのかを検討するとともに、価値観の違いを超えて互いに理解し合うことについて考える。
6回	「伝える」こと 普段の生活の中で、自分の伝えようとしてることが、どれほど正確に相手に伝わっているだろうか？ 伝え手と受け手のそれぞれの価値観や思い込みによって生じるミスコミュニケーションを防ぐためにはどのようなことに気をつけたらよいかを考える。
7回	葛藤とのつきあい方 人間関係におけるトラブルの状況を仮定し、同じ状況でも人によって考え方が様々であることを体験する。
8回	「わかり合う」こと これまでの講義で体験した内容を踏まえ、人が人を理解することについて考える。共感的理解とはどのような理解の仕方なのかを知り、多様な価値観を認めつつ自分を大切にするコミュニケーション方法について学ぶ。
9回	「他者」は理解が必要である 私にとって「他者」とはどのような存在だろうか。「私とは別な存在」と言える「他者」は、一方で、全く異なる構成体とは違い、「私と同類の者」でもある。このような「他者」同士のコミュニケーションにおいて必要なことを考える。
10回	「他者の体験」から理解する コミュニケーションにおける「障害」は能力の優劣ではなく関係性の問題であるという立場に立ち、自閉症や発達障害・精神障害の人々の「当事者研究」に注目して、他者の生きる現実感覚を知り、「ニューロダイバーシティ」を理解する。

11回	「支援という発想」から抜け出す 私たちが気づけず知らずの誰かを助けたり、支えたり、逆に助けられたり、救われたり、といった行為を、一方的な「善意」や「優しさ」とは異なる「関わり方」の視点から考える。
12回	「介護における気づき」を楽しむ たとえば認知症のように、自分の身内が「他人」のようになってしまう現実を、気に病んで心身ともに疲弊してしまうこと無く、身内を「他者」としてきちんと受け入れる術を介護の経験談から学ぶ。
13回	「障害」イメージを転換させる 視覚や聴覚の「障害」イメージを転換させ、視覚障害者やろう者と呼ばれる人たちを、「私たちとは異なる仕方で感覚を利用した（同じようには感覚を利用しない）暮らし方や文化を持つ人々」として捉え直す。
14回	「差別の恐ろしさ」を感じる 私たちが差別を社会悪だと理解していても、残念ながら無自覚のうちに「差別」は生じている。しかし、マイノリティと呼ばれる特定の人種や移民、難民、特定の性別や身体的・精神的特徴を持つ人々が不条理な目に遭っている現実を肌で感じることで、相手次第では自分も理不尽な目に遭うかもしれないといった「無理解の恐ろしさ」を自覚する。
15回	まとめ 「自己理解」と「他者理解」で学んだことを振り返る

評価方法	授業への参加態度（授業態度・提出課題・Formsの内容など）および課題レポート（中間・前期末）により、総合的に評価する。ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	星野欣生『人間関係づくりトレーニング』金子書房、2003年。 綾屋紗月編『ソーシャル・マジョリティ研究』金子書房、2018年。 村上靖彦編『すき間の子ども、すき間の支援』明石書店、2021年。
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①各回の講義で提示した考察課題に取り組む。 ②講義で学んだことを意識して、ピアサポートの精神をもって普段の生活を送る。 ③副教材として授業内で紹介した映像作品を視聴する。 ④他者を理解するために行われているイベントに参加する。 ⑤自宅周辺を散策して認知症や障害に配慮した「地域の工夫」を調査する。 ⑥中間レポートおよび期末レポートに向けて、授業内容に関して考察を深め、まとめる。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	横尾： (1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー 有泉： (1)15年 (2)通信制高校サポート校 (3)不登校・ひきこもり在宅指導
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎

共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	。
現ミ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現ミ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現ミ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	101702 基礎演習B	教室	301教室
授業表題	現代社会の諸問題を理解する		
担当教員	有泉 正二	実務経験	○

英語名称	基礎演習B (Basic Study B)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜3限
必修・選択	必修	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	現代社会の諸課題を取り上げ議論する 資料収集、分析、発表の仕方を学ぶ グループで行う研究発表の流れを理解する
授業の到達目標	社会の一員であることを自覚し、各自が社会に対する視角を獲得する グループの研究成果をスライド等にまとめ、発表できるようになる 2年生での就活・編入試験に向けた準備を整える

◆授業計画	
1回	ガイダンス、自分シート作成
2回	文化祭準備
3回	学習発表会への準備：テーマ設定に向けた話し合い
4回	SPI模擬試験
5回	発表準備（1）：テーマ決定、調査方法の策定（資料集め、文献調査、フィールドワーク計画等）
6回	発表準備（2）：テーマに沿った調査活動
7回	発表準備（3）：調査結果の発表、内容共有、グループワーク
8回	社会人基礎力講座（1）
9回	発表準備（4）：発表内容の確定、発表方法の選定
10回	社会人基礎力講座（2）
11回	発表準備（5）：原稿、スライド等の作成

12回	発表準備 (6)：プレゼン資料の完成、発表練習
13回	発表準備 (7)：リハーサル
14回	発表テーマについてのレポート作成
15回	まとめ（個別相談、レポート提出等）

評価方法	1. 発表レポート 2. 授業への参加状況（発表に向けた討論、役割分担）
テキスト（必ず購入）	『SPI基礎からはじめる問題集』実務教育出版.
参考書（必要に応じて購入）	新聞各紙 その他、適宜授業内で紹介します
受講条件・ルール	インターネットは重要なツールですが、これだけに頼らず必ず文献を調べたり、自分で分析したりする力を身につけましょう。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・必ず新聞には目をとおしてください（毎日15分～30分程度）。自宅で購読していない場合は、図書館にあるので、授業の合間や放課後を利用して読んでおくこと。 ・学習発表会の準備が停滞しないように、自分の調査内容だけでなく、共有したチームの調査内容も毎回よく読んで理解しておく（週2時間～3時間程度）。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	○
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現11：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現12：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現13：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	102301 心理学概論A	教室	403教室
授業表題	心理学の基礎知識		
担当教員	横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	心理学概論A (General Psychology A)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	水曜3限
必修・選択	選必修	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	基本的な心のメカニズムについて学ぶ。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行う。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説する。
授業の到達目標	心理学の基礎的な諸理論を理解し、説明することができる。 自己や他者への理解を深め、考えたことを自分の言葉で表現することができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション：授業の進め方、留意点などの説明
2回	知覚と認知の心理①：様々な人間の知覚の基礎知識を学び、その特徴を知る。
3回	知覚と認知の心理②：錯覚などの知覚の不思議な特徴について体験的に学ぶ。
4回	知覚と認知の心理③：知覚の働きや認知プロセスを理解し、その特徴を体験的に学ぶ。
5回	感情と情緒の心理①：感情の種類や特徴などの基礎知識を学び、その意味について考える。
6回	感情と情緒の心理②：感情の要素を細分化し、それぞれの特徴を理解する。
7回	感情と情緒の心理③：感情生起のプロセスの諸理論を学び、その妥当性を体験的に検討する。
8回	欲求と動機の心理①：欲求に関する諸理論を体験的に学ぶ。
9回	欲求と動機の心理②：欲求に関する諸理論を体験的に学ぶ。
10回	欲求と動機の心理③：動機づけ、原因帰属に関する諸理論を学ぶ。
11回	欲求と動機の心理④：ストレスと葛藤に関する諸理論を学ぶ。

12回	学習と記憶の心理①：学習理論におけるインプリンティング、条件付けについて学ぶ。
13回	学習と記憶の心理②：様々な学習の種類（試行錯誤、洞察、観察など）、学習に関連するメカニズム（学習性無力感など）について学ぶ。
14回	学習と記憶の心理③：記憶の貯蔵庫モデルについて学ぶ。
15回	学習と記憶の心理④：記憶の特徴（忘却曲線、意味ネットワークなど）について学ぶ。 まとめ

評価方法	授業への参加態度（授業態度、リアクションフォームなど）、筆記試験（小テスト・期末試験）の結果により、総合的に評価する。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	「史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本」 大井晴策（監修）、ナツメ社、2012年 「イラストレート 心理学入門 第2版」 齊藤 勇（著）、誠信書房、2010年
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①各回、テーマに応じた考察課題に取り組む ②毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめる。 ③授業内容（キーワード）を復習する。 ④授業内テストのための各单元ごとの復習 ⑤定期試験のための授業内容の復習 ⑥日常生活において、授業内容を活かせる機会を探し、理解を深める。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	(1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること		
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力		

幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	202801 臨床心理の基礎A	教室	303教室
授業表題	臨床心理学		
担当教員	横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	臨床心理の基礎A (Introduction to Clinical Psychology A)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	前期	曜日・時限	水曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	心の問題とその症状の現れ方、心の状態を把握する方法について学ぶ。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行う。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説する。
授業の到達目標	心の問題とその診断方法に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。 心の在り様は人それぞれで異なることを理解するとともに、自分の心を見つめ、心の問題について自分の頭で考え、表現することができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション： 授業の進め方、留意点などの説明
2回	心の健康とストレスマネジメント： ストレスに関する基礎知識を学んだうえで、その対処法について実践的に理解する。
3回	心の発達について： 発達心理学の基礎知識を学んだうえで、アイデンティティについて検討する。
4回	性格の捉え方： 性格心理学について、その基礎知識を学んだうえで、実践的に理解する。
5回	心の状態を把握する方法： 心理アセスメントの意義や分類について学ぶ。
6回	心の状態を把握する方法： 質問紙法について、その基礎知識を学んだうえで、実践的に理解する。
7回	心の状態を把握する方法： 作業法について、その基礎知識を学んだうえで、実践的に理解する。
8回	心の状態を把握する方法： 投影法について、その基礎知識を学んだうえで、実践的に理解する。
9回	心に現れる症状： 統合失調症の定義、特徴、治療法などを学ぶ)
10回	心に現れる症状： 気分障害（うつ病）の定義、特徴、治療法などを学ぶ)
11回	心に現れる症状： 神経症（不安障害、パニック障害）の定義、特徴、治療法などを学ぶ

12回	心に現れる症状： 神経症（摂食障害、強迫性障害）の定義、特徴、治療法などを学ぶ
13回	心に現れる症状： 自閉症スペクトラムの定義、特徴、治療法などを学ぶ
14回	心に現れる症状： AD/HDの定義、特徴、治療法などを学ぶ
15回	まとめ： 現代社会における心の問題

評価方法	授業への参加態度（授業態度、リアクションフォームなど）および定期試験の結果により、総合的に評価する。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	「完全カラー図解 よくわかる臨床心理学」 岩壁 茂 監修 ナツメ社 2020年 「図解雑学 臨床心理学」 松原達哉 編著 ナツメ社 2002年
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめること。 ②毎回のテーマに応じた考察課題に取り組むこと。 ③定期試験に向けて、授業内容を理解し、考察を深め、説明できるようになっておく。 ④日常生活において、授業内容を活かせる機会を探し、理解を深める。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	(1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	203501 人間関係の心理学	教室	303教室
授業表題	人間形成と対人関係のあり方		
担当教員	横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	人間関係の心理学 (Psychology of Interpersonal Relation)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	社会心理学の中でも対人関係にかかわる分野を中心に学ぶ。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行う。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説する。
授業の到達目標	対人関係にかかわる諸理論を学び、よりよい人間関係を築けるようになる。 自分が他人とどのようにかかわっているかを客観的に評価できるようになる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション：授業の進め方と留意点
2回	人との出会いの心理学：第一印象、印象形成
3回	人との出会いの心理学：対人認知、対人不安
4回	人を好きになる心理学：対人魅力
5回	人を好きになる心理学：恋愛の心理、つり橋効果
6回	人を好きになる心理学：友情の心理、孤独のメカニズム
7回	対人コミュニケーションを円滑にする心理学：ノンバーバルコミュニケーション、パーソナルスペース、自己呈示、認知的バイアス
8回	円滑なコミュニケーションのための技法：自己主張訓練法（アサーショントレーニング）
9回	円滑なコミュニケーションのための技法：アサーティブな自己表現の実践
10回	他者から受ける影響：態度、認知的不協和理論、認知的均衡理論
11回	他者から受ける影響：説得

12回	対人関係の諸問題：攻撃
13回	対人関係の諸問題：援助行動
14回	集団の心理：同調、服従、権力
15回	集団の心理：社会的促進、社会的抑制、社会的ジレンマ まとめ

評価方法	授業への参加態度（授業態度、リアクションフォームなど）、筆記試験（小テスト・期末試験）の結果により、総合的に評価する。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	「ワークショップ 人間関係の心理学」藤本忠明、東正訓（編）、ナカニシヤ出版、2004年
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①各回、テーマに応じた考察課題に取り組む ②毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめる。 ③授業内容（キーワード）を復習する。 ④授業内テストのための各单元ごとの復習 ⑤定期試験のための授業内容の復習 ⑥日常生活において、授業内容を活かせる機会を探し、理解を深める。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	(1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること		
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		
現ミ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）		○
現ミ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		
現ミ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力		
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢		

授業コード・授業名	102401 心理学概論B	教室	303教室
授業表題	心理学の基礎知識		
担当教員	横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	心理学概論B (General Psychology B)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	基本的な心のメカニズムについて学ぶ。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行う。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説する。
授業の到達目標	心理学の基礎的な諸理論を理解し、説明することができる。 自己や他者への理解を深め、考えたことを自分の言葉で表現することができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション：授業の進め方、留意点などの説明
2回	無意識と深層の心理①：精神分析
3回	無意識と深層の心理②：分析心理学・夢分析
4回	無意識と深層の心理③：個人心理学
5回	無意識と深層の心理④：様々な心理療法
6回	性格の心理①：類型論と特性論
7回	性格の心理②：性格を規定する要因（遺伝と環境）
8回	性格の心理③：性格検査法
9回	発達と成長の心理①：発達段階
10回	発達と成長の心理②：発達の要因（遺伝と環境）
11回	発達と成長の心理③：発達に関連する諸理論（性、感情、自己意識、愛着など）

12回	発達と成長の心理④：知能の発達
13回	認知の心理学①：パターン認識
14回	認知の心理学②：文脈効果、選択的注意、プライミング効果、ストループ効果など
15回	まとめ

評価方法	授業への参加態度（授業態度、リアクションフォームなど）、筆記試験（小テスト・期末試験）の結果により、総合的に評価する。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	「史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本」 大井晴策（監修）、ナツメ社、2012年 「イラストレート 心理学入門 第2版」 齊藤 勇（著）、誠信書房、2010年
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①各回、テーマに応じた考察課題に取り組む ②毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめる。 ③授業内容（キーワード）を復習する。 ④授業内テストのための各单元ごとの復習 ⑤定期試験のための授業内容の復習 ⑥日常生活において、授業内容を活かせる機会を探し、理解を深める。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	(1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	

幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	104001 手話	教室	403教室
授業表題	身ぶり、手ぶり、表情を使ったコミュニケーション		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	手話 (Sign Language)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜1限
必修・選択	選択	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	○ 手話は手話言語、会話は音声言語 手話言語を身につけることで、表現力が向上する ○ 手話は手だけではなく、表情も使います。コミュニケーション力が向上します。 ○ 手話や聴覚障害（難聴、中途失聴）について、基礎知識を身につけましょう。
授業の到達目標	○ 手話や指文字を使ってあいさつや自己紹介ができるようになる ○ 受講生同士手話だけの会話ができるようになる ○ 手話や聴覚障害について、正確な基礎知識を身につける

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 入門課程 ■ 聴覚障害の基礎知識 ■ 聴覚障害者の生活 ■ 手話の基礎知識 基礎課程 ■ 障害者福祉の基礎 ■ 聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉 ■ ボランティア活動 ○ 指文字の練習 自宅学習 自分の名前や住所など、指文字でできるようにしましょう（1時間）
2回	入門課程 ■ 聴覚障害者福祉の基礎：その1 聴力について① ○ 自己紹介をしましょう：その1 自宅学習 教科書88ページ95ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
3回	入門課程 ■ 聴覚障害者福祉の基礎：その2 聴力について② ○ 自己紹介をしましょう：その1 自宅学習 教科書88ページ95ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
4回	入門課程 ■ 聴覚障害者の生活：その1 私の大切な家族 ① ○ 数字を使って話しましょう 自宅学習 教科書96ページ102ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
5回	入門課程 ■ 聴覚障害者の生活：その2 私の大切な家族 ②

	○ 趣味について話しましょう 自宅学習 教科書96ページ102ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
6回	入門課程 ■ 手話の基礎知識：その1 手話・音声日本語・身振り ① ○ 仕事のこと、一日の過ごし方について話しましょう 自宅学習 教科書103ページ110ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
7回	入門課程 ■ 手話の基礎知識：その2 手話・音声日本語・身振り ② ○ 指文字、手話を交え自己紹介をしましょう 自宅学習 教科書103ページ110ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
8回	基礎課程 ■ 障害者福祉の基礎：その1 障害者福祉の基礎を深めるにあたって ① ○ 1か月の出来事を話しましょう 自宅学習 教科書112ページ121ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
9回	基礎課程 ■ 障害者福祉の基礎：その2 障害者福祉の基礎を深めるにあたって ② ○ 1年の出来事を話しましょう 自宅学習 教科書112ページ121ページまでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
10回	基礎課程 ■ 聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度：その1 障害者権利条約と障害者基本法 ① ○ 1か月の出来事を話しましょう 自宅学習 教科書122ページ131ページでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
11回	基礎課程 ■ 聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度：その2 障害者権利条約と障害者基本法 ② ○ 映像（DVD）を見て読む力をつけましょう 自宅学習 教科書122ページ131ページでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
12回	基礎課程 ■ ボランティア活動：その1 今日のボランティア活動の特徴 ① ○ 映像（DVD）を観て学びを深めましょう ① 自宅学習 教科書132ページ137ページでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）
13回	基礎課程 ■ ボランティア活動：その2 今日のボランティア活動の特徴 ② ○ 映像（DVD）を観て学びを深めましょう ② 自宅学習 教科書132ページ137ページでを読み、わからない単語や言葉を調べましょう（1時間）

14回	○ 手話通訳 手話で絵本の語りをしましょう。まとめ 自宅学習 試験に向けて復習しましょう（1時間）
15回	授業理解の確認 確認内容：手話表現、指文字、読み取り

評価方法	授業態度、課題提出、授業への取り組み50% 確認テストまとめ50%
テキスト（必ず購入）	「手話を学ぼう 手話で話そう」（一般社団法人 全日本ろうあ連盟） ※学生はDVDを使用しません
参考書（必要に応じて購入）	手話辞典があると便利です。例えば、下記のものがおすすめです。 『わたしたちの手話 学習辞典』（全日本ろうあ連盟出版局・ISBN：4904639022）
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机の上に置かない ○ 講義、演習を行います 安心して参加してください

授業時間外の学習（予習・復習等）	○ 手話や指文字の復習をしましょう ○ 資料を見ずに表現できるようにしましょう ○ 日ごろから受講生同士で手話や指文字、（声を出さずに）ジェスチャーや表情、口の形で相手に伝える練習をしましょう。 （予習、復習各15時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	15回目の確認テストが円滑にできるよう、日ごろから手話を用いて会話することをお勧めします。

授業と関連する実務経験	練馬区手話講習会（初級クラス）卒業 練馬区手話講習会（中級クラス）卒業 練馬区手話講習会（上級クラス）卒業 練馬区手話講習会（手話通訳者養成クラス）卒業 東京都立南花畑特別支援学校ボランティア活動経験1年 東京都立大塚ろう学校（幼児部、小学部）ボランティア活動経験1年 ○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、27年の経験がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育てまちづくり特別研究委員会 委員長 ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		◎

共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	。
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	202701 心理学史	教室	303教室
授業表題	心理学の歴史		
担当教員	勝山 幸	実務経験	○

英語名称	心理学史 (History of Psychology)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜1限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	心理学がどのように誕生し、発展してきたのかを学ぶ。特に、それぞれの時代背景を踏まえたうえで、心理学の変遷を理解することを目的とする。
授業の到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を身につける 2. 心理学が発展してきた流れを理解できる

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> 心理学史について概要を説明する 授業の進め方、成績評価等の説明 <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組みましょう 授業のレジュメを再度したうえで、今後の授業への取り組み方を計画しておきましょう（2時間）
2回	<u>心理学前史</u> 心理学が誕生するまでの時代に、心の問題はどう扱われていたのか 心理学が始まる以前の時代背景・学問の発展を学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
3回	<u>近代心理学の成立</u> 心理学が近接学問から独立する際に発展した、精神物理学と心理学実験室について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
4回	<u>20世紀の3大潮流(1) 行動主義</u> 心理学の誕生以降、20世紀には様々な心理学が発展していく 20世紀の心理学史における3大潮流の1つとされる行動主義について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
5回	<u>20世紀の3大潮流(2) ゲシュタルト心理学</u> 心理学の誕生以降、20世紀には様々な心理学が発展していく 20世紀の心理学史における3大潮流の1つとされるゲシュタルト心理学について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
6回	<u>20世紀の3大潮流(3) 精神分析</u> 心理学の誕生以降、20世紀には様々な心理学が発展していく

	20世紀の心理学史における3大潮流の1つとされる精神分析について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
7回	<u>3大潮流への批判(1) 認知心理学</u> 20世紀の後半になると、3大潮流に対して異を唱える心理学が誕生してくる時代背景やコンピューターの実用化とともに発展した認知心理学について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
8回	<u>3大潮流への批判(2) 人間性心理学</u> 20世紀の後半になると、3大潮流に対して異を唱える心理学が誕生してくる第三勢力としてその後の臨床心理学に大きな影響を与えた人間性心理学について学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト①に取り組みましょう（2時間）
9回	<u>心理学と社会</u> 20世紀後半には、学説の進展と同時に人間の理解について社会の要請が増加していく社会からの要請に基づく領域としての心理学の発展について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
10回	<u>心理学領域の拡大(1) 社会心理学</u> 社会からの要請に基づき発展した領域のうちの1つである、社会心理学についてその概要を学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
11回	<u>心理学領域の拡大(2) 臨床心理学</u> 社会からの要請に基づき発展した領域のうちの1つである、臨床心理学についてその概要を学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
12回	<u>心理学領域の拡大(3) 発達・教育心理学</u> 社会からの要請に基づき発展した領域のうちの2つである、発達心理学・教育心理学についてその概要を学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
13回	<u>日本の心理学史</u> 欧米を中心とした諸外国に追随するかたちで、日本でも心理学が発展していく日本における心理学という学範の成立から復興期まで、さらには現代日本における心理学の位置づけについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
14回	<u>心理学の現状と展望</u> 現代社会において心理学は学問としてだけでなく、一般市民にも身近なテーマとして触れられることが増えている 身近に取り扱われる心理学のテーマについて学び、その課題にも目を向ける <u>自宅学習</u> 小テスト②に取り組みましょう（2時間）

15回	<u>総括</u> 心理学の発展の流れから、心理学について再考する 今後心理学史への理解を深める上での心構えについて学ぶ <u>自宅学習</u> 授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間） 期末レポートに取り組みましょう
-----	--

評価方法	小テスト2回（40%）、期末レポート（40%）、事後課題（20%） ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	『流れを読む 心理学史』 サトウタツヤ・高砂美樹 著 有斐閣 『心理学史ははじめの一步』 高砂美樹 著 アルテ 『心理学史』 大芦治 著 ナカニシヤ出版
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。 なお、その場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内容に関する小テストを実施するため、授業内容について復習を行うこと。 また、本講義では、心理学に関する様々な概念、用語について扱う。 心理学の歴史的な流れが把握できるよう、他の心理学に関連する授業で習う知識と関連付けながら理解することが望ましい。 期末レポートは、学んだ知識を列挙するのではなく、自分なりの考察を踏まえて論じること。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	小テストについては翌回の授業で解説を行う。レポートについては、事前に評価基準について説明する（レポートの個別フィードバックは行わない）。

授業と関連する実務経験	(1)10年 (2)医療機関、行政機関、民間企業 (3)心理士、カウンセラー
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	○
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	203601 パーソナリティの心理	教室	303教室
授業表題	パーソナリティから人を理解する		
担当教員	勝山 幸	実務経験	○

英語名称	パーソナリティの心理 (Psychology of Personality)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	パーソナリティの形成過程やパーソナリティ理論について学ぶ。講義内容に加えて、ワークやディスカッションを行い、自己や他者について深く理解することを目的とする。
授業の到達目標	1. パーソナリティに関する基礎的な知識、考え方を身につける 2. 自分のパーソナリティ特徴を理解する 3. パーソナリティ心理学の観点から、他者や社会について考えられる

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> パーソナリティとは何かについての説明 授業の進め方、成績評価等の説明 <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組みましょう 授業のレジュメを再度したうえで、今後の授業への取り組み方を計画しておきましょう (2時間)
2回	<u>パーソナリティの捉え方 類型論と特性論</u> 第1回事後課題(ワーク)についての解説 パーソナリティの捉え方としての性格理論の基本である類型論と特性論について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう (2時間)
3回	<u>パーソナリティの形成 遺伝と環境</u> パーソナリティはどのように形成されるのか 遺伝と環境にまつわる議論について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう (2時間)
4回	<u>代表的なパーソナリティ理論(1) 精神分析</u> パーソナリティ理論の1つである精神分析について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう (2時間)
5回	<u>代表的なパーソナリティ理論(2) 交流分析</u> パーソナリティ理論の1つである交流分析について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう (2時間)

6回	<u>パーソナリティの理解と測定(1) 投影法</u> パーソナリティ理解のための方法と、検査法の1つである投影法について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
7回	<u>パーソナリティの理解と測定(2) 質問紙法・作業検査法</u> パーソナリティ理解のための方法と、検査法のである質問紙法・作業検査法について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
8回	<u>パーソナリティの発達的变化</u> パーソナリティは、人生の中で変化していくものである 人の生涯におけるパーソナリティの発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト①に取り組みましょう（2時間）
9回	<u>パーソナリティと文化</u> パーソナリティの捉え方は、国や文化によっても異なる 文化・社会がパーソナリティに及ぼす影響について学ぶ 第10回以降取り扱ってみたいパーソナリティに関連するテーマについて議論する <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
10回	<u>いろいろなパーソナリティ(1) 家族関係・友人関係</u> パーソナリティを捉えるうえでの家族きょうだい・友人との関係について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
11回	<u>いろいろなパーソナリティ(2) パーソナリティの正常/異常</u> パーソナリティを捉える際の正常/異常の考え方を学ぶ パーソナリティに関わる障害について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
12回	<u>いろいろなパーソナリティ(3) 恋愛関係</u> パーソナリティを捉えるうえでの恋愛対象との関係性について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
13回	<u>いろいろなパーソナリティ(3)-2 恋愛関係</u> パーソナリティを捉えるうえでの恋愛対象との関係性について学ぶ 関連するワークに取り組む <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間）
14回	<u>パーソナリティと適応</u> パーソナリティに関する身近な概念（自己肯定感・社交性不安等）とその臨床心理学的アプローチについて学ぶ

	<u>自宅学習</u> 小テスト②に取り組みましょう（2時間）
15回	<u>総括</u> パーソナリティに関する理論や考え方の整理を行う <u>自宅学習</u> 授業のレジュメや授業内で取り組んだワークを再度確認しておきましょう（2時間） 期末レポートに取り組みましょう

評価方法	小テスト2回（40％）、期末レポート（40％）、事後課題（20％） ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	『パーソナリティ心理学』 榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 著 有斐閣アルマ 『スタンダード自己心理学・パーソナリティ心理学』 松井豊・櫻井茂男 サイエンス社
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。 なお、その場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	本授業では、自己理解・他者理解のきっかけとなるようなワークを頻繁に行う。 必要に応じて、授業時間外に十分な時間を確保し、課題に取り組むこと。 また、日常生活の中でも自分や他者の行動、心理状態に目を向け、考察することが望ましい。 期末レポートは、上記を踏まえて自分なりの考察を踏まえて論じること。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	小テストについては翌回の授業で解説を行う。レポートについては、事前に評価基準について説明する（レポートの個別フィードバックは行わない）。

授業と関連する実務経験	(1)10年 (2)医療機関、行政機関、民間企業 (3)心理士、カウンセラー
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	○
現2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	203801 発達心理学	教室	303教室
授業表題	生涯を通した心理と身体発達		
担当教員	勝山 幸	実務経験	○

英語名称	発達心理学 (Psychology of Development)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	心理的・社会的機能が生涯に渡って変化していく過程から、人の心理について学ぶ。
授業の到達目標	1. 心理と身体発達について理解を深める 2. 発達心理学の観点と自身の経験を結びつけて考えられる

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> 心理学の1領域である発達心理学についての説明 授業の進め方、成績評価等の説明 <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組みましょう 授業のレジュメを再度したうえで、今後の授業への取り組み方を計画しておきましょう（2時間）
2回	<u>胎児期・新生児期・乳児期の発達(1) 身体運動機能</u> 私たちは誕生前の胎児の時期から様々な発達を遂げている 胎児期から乳児期における身体、運動機能の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
3回	<u>乳児期の発達(2) 知的機能</u> 私たちは乳児の時期から様々な発達を遂げている 乳児期における知的機能の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
4回	<u>乳児期の発達(3) 愛着</u> 私たちは乳児期の時期から様々な発達を遂げている 乳児期における他者との愛着の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
5回	<u>幼児期の発達(1) 知的機能</u> 乳児期以降の幼児期にも様々な発達を遂げていく 乳幼児期における知的機能の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
6回	<u>幼児期の発達(2) 社会性</u> 乳児期以降の幼児期にも様々な発達を遂げていく 乳幼児期における社会性の発達について学ぶ

	<u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
7回	<u>児童期の発達(1) 知的機能</u> 幼児期以降の児童期にも様々な発達を遂げていく 児童期における知的機能の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
8回	<u>児童期の発達(2) 社会性</u> 幼児期以降の児童期にも様々な発達を遂げていく 児童期における社会性の発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト①に取り組みましょう（2時間）
9回	<u>発達障害</u> 代表的な発達障害を取り上げその概要と社会的な支援について学ぶ （自閉症スペクトラム症（ASD）、ADHD、限局性学習症（LD）） <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
10回	<u>青年期の発達(1) 青年期前期～中期</u> 思春期（青年期前期～中期）の青年が抱える課題について学ぶ 不登校の定義とその支援について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
11回	<u>青年期の発達(2) 青年期後期</u> 青年期後期の自己と対人関係について学ぶ ワークを通してアイデンティティとその発達について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
12回	<u>成人期(1) 成人期前期～中期</u> 成人期前期～中期の発達課題と社会的役割としてキャリア選択・結婚について取り上げる <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
13回	<u>成人期(2) 成人期中期～後期</u> 成人期中期～後期（中年期）の発達課題と社会的役割として子育て・介護について取り上げる 中年期の危機について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
14回	<u>老年期</u> 老年期における発達について学ぶ 老いていくということ、サクセスフルエイジング（幸福な老い）について考える <u>自宅学習</u> 小テスト②に取り組みましょう（2時間）
15回	<u>総括</u> 胎児期～老年期における発達について総括する 生涯発達心理学の考え方について学ぶ <u>自宅学習</u> 授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間） 期末レポートに取り組みましょう

評価方法	小テスト2回（40%）、期末レポート（40%）、事後課題（20%） ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。

参考書（必要に応じて購入）	『問いからはじめる発達心理学』 坂口裕子・山口智子・林創・中間玲子 著 有斐閣ストゥディア 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪浩彦 編 ミネルヴァ書房
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。 なお、その場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内容に関する小テストを実施するため、授業内容について復習を行うこと。 発達心理学に関する概念について、身近なテーマにも関連付けながら授業を進めていく。普段からニュース等に触れ、関連する知識を自主的に得ておくことが望ましい。期末レポートは、学んだ知識を列挙するのではなく、自分なりの考察を踏まえて論じること。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	小テストについては翌回の授業で解説を行う。レポートについては、事前に評価基準について説明する（レポートの個別フィードバックは行わない）。

授業と関連する実務経験	(1)10年 (2)医療機関、行政機関、地域子育て支援拠点 (3)心理士、カウンセラー
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	205001 犯罪の心理	教室	303教室
授業表題	犯罪を多角的に理解する心理学		
担当教員	勝山 幸	実務経験	○

英語名称	犯罪の心理 (Crime Psychology)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜3限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	実際に起きた事件のケースをもとに、犯罪心理学の基礎を学ぶ。特に、犯罪者、被害者、支援者それぞれの視点に基づき、犯罪について理解を深めることを目的とする。
授業の到達目標	1. 様々なケースに触れることで、犯罪心理学に関する基礎的な知識を身につける 2. 犯罪について、多様な立場から客観的に理解する

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> 犯罪心理学とは何か 犯罪の種類について 授業の進め方、成績評価等の説明 <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組みましょう 授業のレジュメを再度確認したうえで、今後の授業への取り組み方を計画しておきましょう（2時間）
2回	<u>財産犯</u> 窃盗、詐欺、横領に関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
3回	<u>粗暴犯(1)</u> 暴行、傷害、脅迫、恐喝に関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
4回	<u>粗暴犯(2)</u> DV、ストーキングに関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
5回	<u>性犯</u> 強制わいせつ、強姦に関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
6回	<u>凶悪犯(1)</u> 強盗、放火に関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
7回	<u>凶悪犯(2)</u> 連続殺人に関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ

	<u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
8回	<u>凶悪犯(3)</u> 大量殺人、テロリズムに関する犯罪の実際とそのメカニズムについて学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト①に取り組みましょう（2時間）
9回	<u>統合的理解に向けて</u> 各犯罪の特徴整理とまとめ 犯罪心理学の歴史と現代における犯罪の捉え方について理解を深める <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
10回	<u>犯罪捜査</u> 犯罪捜査の手法であるプロファイリング、虚偽検出等について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
11回	<u>非行</u> 未成年における非行の実態と非行臨床について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
12回	<u>児童虐待</u> 児童虐待の概要と実態、社会課題に対する福祉支援について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
13回	<u>マス・メディアと犯罪</u> 犯罪報道、人権保護、暴力的メディアについて学び、犯罪加害者/被害者報道の在り方について考える <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
14回	<u>犯罪者処遇</u> 犯罪加害者の処遇について、矯正・更生保護それぞれの概要を学ぶ 矯正や更生保護の場に関わる支援者や処遇の具体的方法について学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト②に取り組みましょう（2時間）
15回	<u>犯罪被害者への心理的援助</u> 総括 犯罪心理における被害者/加害者への臨床心理学的援助アプローチについて学ぶ <u>自宅学習</u> 授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間） 期末レポートに取り組みましょう

評価方法	小テスト2回（40%）、期末レポート（40%）、事後課題（20%） ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	『ケースで学ぶ犯罪心理学』 越智啓太 著 北大路書房 『司法・犯罪心理学』 越智啓太・桐生正幸 編著 北大路書房 『入門 犯罪心理学（ちくま新書）』 原田隆之 著 筑摩書房
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 また、講義では凄惨な事件を扱うこともあるため、自分の適性を判断した上で受講すること。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内に小テストを行うことがあるため、必要に応じて授業内容を復習すること。日常生活の中でも、ニュース等で報道される事件と授業内容を関連づけて考えることが望ましい。期末レポートは、学んだ知識を列挙するのではなく、自分なりの考察を踏まえて論じること。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	小テストについては翌回の授業で解説を行う。レポートについては、事前に評価基準について説明する（レポートの個別フィードバックは行わない）。

授業と関連する実務経験	(1)10年 (2)医療機関、行政機関、民間企業 (3)心理士，カウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	205101 外見の心理	教室	303教室
授業表題	対人認知と印象形成の心理学		
担当教員	勝山 幸	実務経験	○

英語名称	外見の心理 (Appearance Psychology)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	人は外見に関する様々なものから情報を発信するとともに、相手の外見からも情報を得ている。 本授業では、その際手がかりとなる身体的特徴、動作、服飾などを取り上げ、それらが対人認知や印象形成に及ぼす影響について学ぶ。
授業の到達目標	1. 外見がもつ機能について理解する 2. 身の回りの事象を外見心理学の観点から説明できる

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> 外見の心理学とは何か 授業の進め方、成績評価等の説明 <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組みましょう 授業のレジュメを再度確認したうえで、今後の授業への取り組み方を計画しておきましょう (2時間)
2回	<u>身体的特徴が印象に及ぼす影響</u> 体型や容貌は人の印象にどう影響するかについて学ぶ ワークを通して理解を深める <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう (2時間)
3回	<u>目から人の心を読み取る</u> 目は口ほどに物を言うのか 目や視線の印象について学ぶ コロナ禍以降のマスク生活における目や視線の影響について考える <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう (2時間)
4回	<u>表情から人の心を読み取る</u> 表情から何が判断できるのか 表情の持つ機能について学ぶ 表情と感情の関係性について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう (2時間)
5回	<u>対人魅力(1)</u> 社会心理学における対人魅力の概念を整理する 見た目は人からの評価を変えるのか 対人魅力における外見の影響を学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう (2時間)
6回	<u>対人魅力(2)</u> 恋愛関係で魅力的と評価されるには 対人魅力の中でも恋愛関係における外見魅力について学ぶ

	<u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
7回	<u>外見と自己評価</u> 外見に対する自己評価と他者評価のギャップについて学ぶ 自己評価の一例として痩身願望（やせ願望）について取り扱う 自己価値に関するワークを通して理解を深める <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
8回	<u>動作と姿勢</u> 話し方や動作、しぐさが持つ効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 小テスト①に取り組みましょう（2時間）
9回	<u>被服と自己</u> ファッションによって自分はどう変わるのか 被服の持つ自己への効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
10回	<u>被服と他者</u> ファッションは相手に何を伝えるのか 被服の持つ他者に対する効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
11回	<u>化粧と自己</u> メイクによって自分はどう変わるのか 化粧の持つ自己への効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
12回	<u>化粧と他者</u> メイクは相手に何を伝えるのか 化粧の持つ他者に対する効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
13回	<u>身体変工</u> 外見を変えるととはどういうことか 一例としてピアス、タトゥー、美容整形について取り上げ、その心理的効果について学ぶ <u>自宅学習</u> 事後課題に取り組み、授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間）
14回	<u>外見とメンタルヘルス</u> 外見に関する心の問題とは 一例として摂食障害、醜形恐怖、視線恐怖等について取り扱う <u>自宅学習</u> 小テスト②に取り組みましょう（2時間）
15回	<u>総括</u> 外見がもつ心理的機能について振り返る 人の外見と内面について考える <u>自宅学習</u> 授業のレジュメを再度確認しておきましょう（2時間） 期末レポートに取り組みましょう

評価方法	小テスト2回（40%）、期末レポート（40%）、事後課題（20%） ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。

参考書（必要に応じて購入）	『見た目でわかる外見心理学』 齊藤勇 著 ナツメ社 『しぐさのコミュニケーション』 大坊郁夫 著 サイエンス社 『装いの心理学』 鈴木公啓 編著 北大路書房
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。 なお、その場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内容に関する小テストを実施するため、授業内容について復習を行うこと。 また、日常生活の中でも自分や他者の行動、心理状態に目を向け、考察することが望ましい。期末レポートは、学んだ知識を列挙するのではなく、自分なりの考察を踏まえて論じること。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	小テストについては翌回の授業で解説を行う。レポートについては、事前に評価基準について説明する（レポートの個別フィードバックは行わない）。

授業と関連する実務経験	(1)10年 (2)医療機関、行政機関、民間企業 (3)心理士、カウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	。
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	201301 ビジネスマナー概論	教室	407教室
授業表題	社会に必要なビジネスマナーの基本知識		
担当教員	田中 恵子	実務経験	○

英語名称	ビジネスマナー概論 (Introduction to Business Manner)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本を学び、社会での必要な知識とスキルを総合的に身につける。また人間関係を円滑にし、配慮のできる社会人になることが目的である。
授業の到達目標	①社会人としての基本的なビジネスマナーを身につける ②社会人としてのコミュニケーション能力を身につける ③自分の存在をアピールできる

◆授業計画	
1回	【授業ガイダンス・ビジネスマナーとは】 受講の心構えとこれからの進め方についてお話しします。 コミュニケーション実習を通じ、人間関係を良くするコツを掴みましょう。 【自宅学習】 「成長する心構え」において、どのようなことにチャレンジしたいのかを考えましょう（2時間）
2回	【ビジネスマナーの基本・学生と社会人の違い】 学生と社会人の違いを考えることで、社会人として求められる資質を学びます。 ワールド・カフェの話し合いの中で、自分の意見を述べることで、他人の意見を聴くことを体験しましょう。 【自宅学習】 学生と社会人の違いを学んで、課題の新入社員が、今後社会人として成長するために、気づいたことを考えてみましょう（2時間）
3回	【接遇の5原則 / 快い人間関係を築く秘訣】 人との出会いこそが財産です。好印象を与え豊かな人間関係を築くための表現方法を学びます。 社会から求められる人材になる秘訣が身に付きます。 【自宅学習】 豊かな人間関係を築く挨拶に続けるプラスアルファの会話を考えてみましょう（2時間）
4回	【敬語と接客用語】 あなたは自信を持って目上の方と話ができますか？ 敬語は社会人のコミュニケーションに欠かせません。敬語ゲームで楽しく身に付けましょう。 また、より感じ良く相手に伝わる表現も学びます。 【自宅学習】 敬語と接客用語が正しく理解できているか、ワークシートで確認しましょう（2時間）
5回	【ビジネスマナーとルール】 企業人として働くための、仕事の進め方や職場のルールを学びます。 どんな人が企業人として成長できるのか、最近の新社会人事情なども紹介します。 【自宅学習】 仕事の進め方や職場のルールについて、テキストの理解度チェックで確認しましょう（2時間）
6回	【期待に応える仕事の進め方】 仕事を円滑に進めるために欠かせない「ホウレンソウ」のそれぞれの目的を明確にします。 実習により指示の受け方・報告・連絡・相談を体験することにより、多くの気づきを得ることができます。 【自宅学習】 ワークシートで、上司から指示を受けた場合の具体的な質問を挙げ、行動を確認しましょう（2時間）

7回	【電話応対マナー(1)】 ビジネス電話の基本マナーを学びます。 ビジネス電話応対を練習し、身に付けます。 【自宅学習】 今回の電話応対実技試験に向け、しっかり練習を実施しましょう（2時間）
8回	【電話応対マナー（2）】 前回の授業で練習した電話応対の実技試験を実施します（評価対象）
9回	【来客応対マナー】 来客応対における流れと、案内・上席・物の授受・ドアの開閉・名刺交換の仕方等を身に付けます。 就職の面接対策にも役立つ美しい身のこなしを学びましょう。 【自宅学習】 来客応対での席次や名刺交換についてテキストの理解度チェックで確認しましょう（2時間）
10回	【ビジネス文章の書き方】 ビジネス文章の基本的な書き方を学びます。 内容が正しく伝わる明瞭で簡潔な書き方のコツを掴みましょう。 【自宅学習】 ビジネス文章のルールに従って、ビジネス文章を作成してみましょう（2時間）
11回	【ビジネスメール・ビジネス用語】 社会人にとって重要な連絡手段であるメールのスキルを学びます。 マナーを欠いた失礼なメールにならないよう、ビジネスメールの基本的な書き方とマナーを身に付けましょう。また、社会人として知っておきたいビジネス用語を確認します。 【自宅学習】 ビジネスメールのルールに従って、ビジネスメールを作成してみましょう（2時間）
12回	【冠婚葬祭 1】 冠婚葬祭のマナーは社会人にとって必須です。 慶事・弔事に欠かせない水引きと表書きについて学びます。 また結婚式の招待状を受け取ってから当日までの流れに沿って、祝い事のマナーを学びます。 【自宅学習】 慶事のマナーについて、テキストの理解度チェックで確認しましょう（2時間）
13回	【冠婚葬祭 2】 冠婚葬祭のマナーは社会人にとって必須です。 不幸の知らせを受けたときの対応、通夜・葬式での参列の仕方など、 遺族の気持ちに寄り添う心得を学びましょう。 【自宅学習】 弔事のマナーについて、テキストの理解度チェックで確認してください（2時間）
14回	【カラーコーディネートを学ぼう】 社会人として輝くために、色の見分け方を学びましょう。 希望者にパーソナルカラー診断を実施します。 自分に似合う色・似合わない色を知り、ご自分の演出に役立ててください。 【自宅学習】 私たちは、なぜ色を認識できるのでしょうか。また人間が認識できる色はどれくらいあるか考えてみましょう（2時間）
15回	【会食マナー】 西洋料理・日本料理など会食での基本マナーと注意点を学びます。 立食パーティでの立ち振る舞いや知識も確認しましょう。 【自宅学習】 会食のマナーについて、テキストの理解度チェックで確認しましょう（2時間）

評価方法	期末試験、実技試験、課題の提出物の総合により評価します ただし、2/3以上出席しなければ成績評価できません
テキスト（必ず購入）	改訂版「ビジネスマナー基本テキスト」キャリア総研 著
参考書（必要に応じて購入）	得にありません

受講条件・ルール	社会人としてのビジネスマナーの基本が身に付きます 将来必ず役に立ちますので、積極的に受講をしてください
----------	--

授業時間外の学習（予習・復習等）	指定したテキストを読んで、予習してくること 授業後はテキストの理解度チェックを宿題とします 授業の内容を確認し、理解不足な箇所は積極的に質問してください。合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	発表・実技試験に対してコメントします。 試験結果はお問い合わせください（mail:tanaka-ke@tokyorissho.ac.jp・試験終了後1週間）

授業と関連する実務経験	（1）2000年～2025年 （2）株式会社総合教育コンサルティング講師 出向先 三菱電機株式会社 ・富士通中部システムズ・株式会社弘電社 など （3）ビジネスマナー研修
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	○
現3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	○
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	202101 ホスピタリティ論	教室	407教室
授業表題	相手の立場になって考え、思いやりを持って行動できる人になる		
担当教員	田中 恵子	実務経験	○

英語名称	ホスピタリティ論 (Introduction to Hospitality)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	相手の立場になって考え、思いやりをもって行動する「ホスピタリティ・マインド」を持つこと そしてその行動の実践とヒューマンスキルを高めることで自己成長とキャリアの育成につなげる
授業の到達目標	①相手の立場になって考え、行動する「ホスピタリティ・マインド」を養う ②自己を理解し、ヒューマンスキルの力を養う ③自己表現力を高める

◆授業計画	
1回	【授業ガイダンス・ホスピタリティとは】 ホスピタリティの真の意味を確認し、15回の受講が充実した時間になるための秘訣をお伝えします。
2回	【自画像と他画像（ジョハリの窓）】 コミュニケーションワークにより、自分が知っている自分、他人が知っている自分を分析します。 コミュニケーションを円滑にするためには何が必要なのかという気づきに繋がります。 【自宅学習】 あなたのジョハリの窓から自画像と他画像を分析してください（2時間）
3回	【ストローク】 存在認知であるストロークはホスピタリティに欠かせません。 心の栄養であるストロークを学びましょう。 【自宅学習】 ワークシートでストロークの種類と理解を確認しましょう（2時間）
4回	【ストロークキング・プロフィールとリフレーミング】 自分のストローク授受の傾向には、どのような特性があるのでしょうか。 また、物事を見る枠組み（フレーム）を変えるワークによって、物事に肯定的な意味づけができるようになります。大切な人を元気付けたり、前向きにする言葉を身に付けましょう。 【自宅学習】 自分のストローク授受の傾向を分析しましょう。 「ストローク授受の制限について」のレポート提出〔評価対象〕（2時間）
5回	【自我状態・エゴグラム】 思考・感情・行動のもとになる心の5つの機能について学びます。 どの機能を一番使っているのかがわかると、自分のコミュニケーションの癖に気づくことができます。 また、自分の長所を自己成長に繋げることができます 【自宅学習】 心の5つの機能について、ワークシートで理解を深めましょう（2時間）
6回	【自己分析】 エゴグラムから自分の長所と短所を分析しましょう。 今後の目標達成のために、どの働きをどのように伸ばしていけば良いかを考え、今後の行動指針としましょう。 【自宅学習】 エゴグラムを見て、心の機能がどんな時に肯定的に働くのか、どんな時に否定的に働くのかを考えてみましょう（2時間）

7回	【ホスピタリティを実践する接遇表現と心配り】 気配りと心配りの違いはなんでしょうか。 ホスピタリティを実践するために温かな心が伝わる接遇表現を学びます。 【自宅学習】 日常の中でホスピタリティに繋がる3段階のサービスを探してみましょう（2時間）
8回	【私の生き方 ものの見方】 同じ場面でありながら、人はそれぞれ感じ方、捉え方が違います。 対人関係において自分や他人に対してどのような態度で臨んでいるのかを知ること、 社会生活の中で、お互いが協力し上手に関わっていく秘訣を知ることができます。 【自宅学習】 ワークシートで人生の立場の理解を深めましょう（2時間）
9回	【アサーション 自分の気持ちをきちんと伝えるには】 お互いの違いを認め、気持ちのよいコミュニケーションを交わすためのスキルを学びましょ う。 【自宅学習】 事例研究でアサーティブな表現を考えてみましょう（2時間）
10回	【TDLに学ぶ顧客感動の秘訣】 リピーター率93%のTDLには、顧客感動の秘訣が溢れています。 目の前の人と向き合うホスピタリティマインドを学びましょ う。 【自宅学習】 授業の初めに小テストを実施します。 自我状態・ストローク・人生の立場について復習してください（2時間）
11回	【好感もてる言葉遣いと話し方】 私たちは、言葉という道具を使ってコミュニケーションをとっていますが、 相手に好印象を持ってもらうには、どのようなことに気をつけたらよいのでしょうか。 ポイントを抑え、自分の言葉遣いに自信を付けましょ う。 【自宅学習】 クッション言葉、敬語表現をワークシートで復習してください（2時間）
12回	【より良い人間関係を作る会話】 私たちは会話を通して周りの人とコミュニケーションを取っています。 スムーズに続く会話の特徴、相手に違和感を与える会話の特徴を学びながら、 コミュニケーションスキルをアップしましょ う。 【自宅学習】 ワークシートで会話の特徴を確認しましょ う。あなたはどのタイプの会話が多いですか（2時 間）
13回	【スピーチのマナーとプレゼンテーション】 スピーチのマナーとプレゼンテーションにおいて大切なポイントをお伝えします。 次週、スピーチの発表（評価対象）をして頂きますので、必ず受講して下さい 【自宅学習】 次回のスピーチ発表に備え、三段構成法でしっかりとスピーチの内容を組み立ててください（2 時間）
14回	【スピーチ】 スピーチを発表して頂きます（評価対象） 【自宅学習】 スピーチとは、原稿を読むことではありません。5つのPに基づき、自分の言葉で語れるよう、 しっかり練習をしてください（2時間）
15回	【聴くことの大切さ】 相手の話に耳を傾けることは、最大のストロークです。 傾聴実習により、聴き方のポイントを習得しましょ う。

評価方法	小テスト、課題、スピーチの総合により評価します ただし、2/3以上出席しなければ成績評価できません
テキスト（必ず購入）	使用しません 必要に応じて、適宜プリントを配布します
参考書（必要に応じて購入）	特にありません

受講条件・ルール	「ホスピタリティ・マインド」を学び、自己理解することで就職活動に役立ちます ノートを必ず持参すること 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳しく注意します
----------	---

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業で使ったノートを見直すこと (合計60時間)
試験・レポート等のフィードバック方法	発表に対してコメントします。 提出されたレポートについてコメントを記します。

授業と関連する実務経験	(1) 1977年～1993年 (2) 日本航空株式会社 (3) CA
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの議論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難に陥らすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	○
現3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	○
幼1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	202201 エアー・ビジネス論	教室	303教室
授業表題	世界の空港・航空会社など航空業界について理解、関心を高める		
担当教員	田中 恵子	実務経験	○

英語名称	エアー・ビジネス論 (Airline Business)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜3限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	世界の空港・航空会社など、航空業界についての理解、関心を深める また世界に通じるマナーを知り、国際人としての常識を身に付ける
授業の到達目標	①航空業界の専門知識の習得 ②国際人としてマナーを学ぶ ③自分の国の文化を理解し、異文化を理解する柔軟性を身につける

◆授業計画	
1回	【授業ガイダンス】 授業の目的やこれからの進め方などをお話します。 【自宅学習】 国際化の時代だからこそ、自分の国の特質や文化に注目しましょう。 「日本文化のお勧めは何ですか」と尋ねられたらあなたは何を紹介しますか？（2時間）
2回	【空港の基本・世界の空港】 空の玄関口である空港にはどのような顔があるのか、空港の施設などを学びます。 また、世界の空港ランキングから様々な空港の魅力を探ります。 【自宅学習】 日本の空港がアジアにおけるハブ空港としての存在価値を高めるためには、何が必要か調べてみましょう（2時間）
3回	【空港で働く人（1） 空港で利用者をサポートする仕事】 航空機は、出発から目的地に到着するまで見えないところでたくさんのスタッフに支えられています。まずは、空港の運営を地上で支える職業と仕事内容を学びましょう。 【自宅学習】 空港で利用者をサポートする仕事には、どんなものがあるのか調べてみましょう（2時間）
4回	【空港で働く人（2） 空の安全を守る仕事】 航空機は、出発から目的地に到着するまで見えないところでたくさんのスタッフに支えられています。 空港の安全を守る地上の舞台裏をご紹介します。 【自宅学習】 日本を訪れる外国人が非常に多くなっています。日本の入国についての流れを調べましょう。 「入国制限緩和」「水際対策」などについても調べてみてください（2時間）
5回	【空港で働く人（3） 航空機に関わって働く仕事】 航空機は、出発から目的地に到着するまで見えないところでたくさんのスタッフに支えられています。 航空整備、航空管制官パイロットやCAなどの業務を紹介します。プロ意識を感じてください。 【自宅学習】 空港で働く人①②③を通じて [空の安全を守るためのプロ意識とは] をテーマに レポート提出 [評価対象]（2時間）
6回	【空のレストラン・機内食工場】 機内食はどこで作っているのか。どのようなこだわりがあるのか。機内搭載のワインやお酒は、どのように選んでいるのか。国際線機内食のクラスごとの特徴はなにか等を通じて、航空会社のホスピタリティマインドを学びます。 【自宅学習】 機内食は、乗客にとって機内サービスのメインイベントともいえるもので、エアライン各社に

	としては、他社との差別化をはかる重要なサービスコンテンツです。どのような機内食があるのか調べてみましょう（2時間）
7回	【世界の文化と特別機内食】 機内で提供される機内食には、乗客のリクエストより用意された特別機内食があります。世界の様々な宗教や習慣、国籍が交錯する国際線での取り組みから様々なことを学びます。 【自宅学習】 次回の授業では【LCC】について様々な観点から調べたものを発表していただきます。しっかり準備をして発表内容をまとめましょう（2時間）
8回	【LCC】 近年身近になりつつあるLCC。格安航空会社であるLCCのメリットやデメリットなどの特徴を知ること、現代の航空業界に求められているものを学びます。 【自宅学習】 LCCの発表に授業の内容に加筆したものをレポートとして提出してください（2時間） 発表・レポート提出 〔評価対象〕
9回	【業界知識（1）飛行機の構造・フライト豆知識・ルートインフォメーション】 飛行機はなぜ飛ぶのでしょうか。飛行機の燃料は何でしょうか。機内でお酒を飲むと早く酔うのはなぜでしょうか。飛行機の構造やフライト豆知識から、飛行機での旅をいっそう楽しくするノウハウを学びましょう。 【自宅学習】 飛行機が飛ぶ原理を次回の授業で解説できるようにまとめておきましょう（2時間）
10回	【業界知識（2）世界の時差】 世界各国の標準時は何によって決められているのでしょうか？ 日付変更線とは？ サマータイムとは？日本と世界の国との時差を実際に計算してみましょう。世界の大きさを感じて下さい。 【自宅学習】 世界の時差による時刻を、練習問題で確認し、理解を深めましょう（2時間）
11回	【業界知識（3）空の航空路】 空にも航空路という道があることを知っていますか？ そして道があれば交差点や分岐点もあります。とてもユニークな名前が付いている空の交差点の名前を学ぶことで、空への興味がいっそう湧くことでしょう。 【自宅学習】 授業で紹介した他にもユニークな空の交差点の名前があります。調べてみましょう（2時間）
12回	【業界知識（4）海外渡航の流れ】 海外渡航に欠かせない旅券とビザの発行目的と申請について学びます。 出国、帰国の流れと必要書類を確認しましょう。 【自宅学習】 あなたが行ってみたい国に入国するために必要な書類、ビザ、注意すべき事柄を調べましょう（2時間）
13回	【海外旅行のお金について】 海外旅行で使うお金は、様々な形で用意できますが、キャッシュレスが進む中、騙されたりしないよう訪れる国の通貨と価値を理解しておくことは大切なことです。日本人にはなじみの無いチップについても学びましょう。 【自宅学習】 「私の行きたい国」について、入稿に必要な書類、通貨、言語、紹介したい観光名所、注意点などレポートにまとめてください【評価対象】（2時間）
14回	【異文化コミュニケーション】 【私が行きたい国】課題の発表 【自宅学習】 【私が行きたい国】課題の発表に向け、しっかり準備をしてください（2時間）
15回	【国際マナー（プロトコール）】 国際人として世界に通じる国際マナー（プロトコール）を知ることは世界の常識を身につけることです。 また、アジアのビジネス習慣から、おもてなしの違いを確認しましょう。 【自宅学習】 日本の当たり前が、外国では非常識だったということも珍しくありません。どんなことがあるのか調べてみましょう。多様性を認める力がつきます（2時間）

評価方法	期末試験、発表、レポートなどの総合により評価します ただし、2/3以上出席しなければ成績評価できません
テキスト（必ず購入）	特に使用しません 必要に応じ、参考資料を配布します
参考書（必要に応じて購入）	特にありません
受講条件・ルール	航空業界に興味があり、将来就職を考えている人は積極的な受講をすすめます 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳しく注意します

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内で配布したプリント、ノートを復習してください また課題レポートを自宅で書き上げること 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	発表に対してコメントします。 試験結果はお問い合わせください（mail:tanaka-ke@tokyorissho.ac.jp・試験終了後1週間）

授業と関連する実務経験	（1）1977年～1993年 （2）日本航空株式会社 （3）CA
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	○
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	○
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	100701 法学概論（日本国憲法）	教室	407教室
授業表題	憲法と現代社会		
担当教員	内田 裕之	実務経験	○

英語名称	法学概論（日本国憲法）（Outline of Law BJapanese Constitution）		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	木曜3限
必修・選択	選択	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	最近のニュースや過去の事件、これに対する裁判所の判断（判例）、教科書その他文献を通じて、憲法の基本的な考え方を学んでいきます。 その他、普段の生活で役立つ・知っておくべき法律の知識、弁護士としての経験もお話できればと思います。
授業の到達目標	憲法の基本的な考え方を学ぶことで、現代社会の中で起こっている憲法問題について、自分の考え方を持つことができるようにすることが目標です。

◆授業計画	
1回	ガイダンス・授業運営方法
2回	【総論】 憲法とは何か、立憲主義とは、憲法改正議論
3回	【参政権】 選挙の仕組み、選挙権の重要性、議員定数不均衡問題
4回	【国会・内閣】 法律はどのように作られるか、国会と内閣のそれぞれの役割
5回	【裁判所】 裁判所（司法権）の役割、裁判手続の進め方（裁判員裁判）
6回	【天皇制、平和】 天皇制の内容、平和主義とは（憲法9条問題）
7回	【人権総論1】 人権とは何か、人権の理念・歴史・特質、パターナリズム（未成年者の人権）
8回	【人権総論2】 人権の性質、保障の範囲、誰に対して人権を主張できるか
9回	【信教の自由】 信教の自由の意義と保障の範囲（国との関わりの限界、政教分離など）
10回	【表現の自由】 表現の自由の意義と保障の範囲（マスメディア、インターネット、学問の自由など）
11回	【経済的自由】 職業選択の自由、居住移転の自由、財産権の内容

12回	【人身の自由】 人身の自由の意義・内容（逮捕されてしまった場合の権利，弁護人の役割など）
13回	【社会権】 社会権（生存権，教育権，労働権）の意義，内容（生活保護，労働者保護の制度など）
14回	【幸福追求権・平等権】 人権として保障される自由の範囲（プライバシー・名誉権など），法の下での平等とは
15回	まとめ

評価方法	概ね、期末レポート４０％、中間レポート３０％、授業態度３０％で評価します。
テキスト（必ず購入）	駒田圭吾編「プレステップ憲法」第４版（弘文堂・２０２４年） その他、レジュメを配布予定です。
参考書（必要に応じて購入）	
受講条件・ルール	様々な事件や考え方を扱いますので、ぜひ自分で色々と考えてみることをおすすめします。

授業時間外の学習（予習・復習等）	教科書の章に沿って進めていく予定です。毎回教科書の予習ページ（１０～２０ページ程度）を指定しますので、事前に読んできていただければと思います。（合計60時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	弁護士。東京弁護士会所属、２０１１年弁護士登録。 弁護士として各種法務（法人、個人向け）を担当。法教育についても多数経験あり。
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュタリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	202301 ホテルビジネス論	教室	407教室
授業表題	アフターコロナにおけるホテルの現況と実務知識を学ぶ		
担当教員	白土 健	実務経験	あり

英語名称	ホテルビジネス論 (Study of Hotel Management)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜1限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	ホスピタリティ産業の中核ともいべき宿泊産業の中でもホテルに焦点を当て、経営・管理について学びます。欧米におけるホテルの誕生から発展の過程を紐解きながら、アフターコロナにおける訪日外国人の急増の背景とともに人材難に苦慮するホテルに対し、利用客から求められる戦略的なホテル経営の在り方について考察すると共に、映像等補助教材をふんだんに用い宿泊サービス全般に関する知識・ノウハウを身につけ、高度なマネジメント能力を育成します。
授業の到達目標	ホテル・旅館等宿泊産業の経営特質を中心に、諸外国の事例との比較の中で、それぞれの沿革、制度、現状を詳細に認識した上で、現状ならびにこれからのホテルの在り方、宿泊産業の利用者ニーズの理解を深める。具体的にはホテル経営についての概略とホテル産業の現状と将来展望を、実在企業の実例等を取り上げ、理解を深めることができる

◆授業計画	
1回	本授業の進め方とホテル産業と定義 欧米各国におけるｺﾛﾅの影響 [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「我が国におけるホテル・旅館各社の経営理念」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
2回	ホテル産業の社会的な役割 アジア近隣諸国におけるｺﾛﾅの影響 (リゾート地) [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「野宿」「旅籠」「木賃宿」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
3回	ホテルマンについて [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「ホテルで働く人」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
4回	ホテルの歴史 (欧米) [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「欧米と我が国の宿泊産業の違い」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
5回	ホテルの歴史 (日本) ＊旅館含む [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「旅館業の魅力」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
6回	ホテルの種類 シティホテル・リゾートホテル・ビジネスホテル・カプセルホテル・ブティックホテル・会員制ホテル [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「我が国における各種宿泊施設の役割」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
7回	ホテルの組織 [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「ホテルマンの役割と仕事の実際」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
8回	ホテルのサービスと魅力 [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で各ホテルにおける「女子会プラン」「ディナーショー」「お別れの会」「サマープラン」等イベントを調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録」に作成し、復習しておく (90分程度)
9回	ホテル経営の基本-1(経営理念・経営戦略) [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「ホテルにおける計数管理」「用語」を調べておく (90分程度)

	分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
10回	ホテル経営の基本-2(経営・事業計画) 計数管理 [事前学習]辞書、ネット、関連書籍等で「他産業とホテル業の経営の違い」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
11回	事例研究 (国内老舗ホテルと新興ホテル) [事前学習]任意のホテルの「概要」「経営理念」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
12回	事例研究 (外資系ホテル) [事前学習]任意の外資系ホテルの「概要」「経営理念」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
13回	事例研究 (世界のホテルチェーン) [事前学習]任意のホテルチェーンの「概要」「経営理念」「展開する国、地域」を調べておく (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
14回	新しいサービス 理想のホテルとは [事前学習]これまで学んできたホテル業から (今後のホテルの役割と社会的使命を考えた上で)、21世紀に生き残るホテルについて考察してみる (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、復習しておく (90分程度)
15回	ホテル経営のまとめ [事前学習]これまで作成した「講義録」を参考に、ホテルマネジメントで学んだ事柄を記してみる (90分程度) [事後学習]講義内容を「講義録に作成し、まとめも追記すること (90分程度)

評価方法	課題レポート40%(学外研修レポート含む)、テスト60%とします。 レポートについて～インターネット等の資料をコピー＆ペーストしたものや、課題テーマに添っていないものは採点しません。あくまでも授業から得たヒントを基に自分が体験したことを踏まえオリジナルな提言(意見や改善提案等)を求めます。
テキスト (必ず購入)	『エクセレント・サービス+』(創成社・ISBN:978-4-7944-2479-2)
参考書 (必要に応じて購入)	白土健他著「企業経営とマネジメント」八千代出版 平成26年4月発行 2000円 白土健他著(仮)新経営学トレーニング ISBN:978-4-7944-2451-8 この他に講義時に配布する資料を中心とする。
受講条件・ルール	勉強は人から聞いて覚えるだけでは、楽しくありませんし、すぐ忘れてしまいます。役に立つ、本当に身につく勉強をするためには、学んだ上に、知りたい調べてみようの知的好奇心を持って、相手の考えを理解することが大事です。そしてそれが、現代の社会環境に合致するかどうか考えて、その結論を自分一人一人で行うことではないかと考えます。つまり「自分の考えを持つ」ことが大事です。テレビや雑誌、インターネットからホテルに関する情報を吸い上げましょう。

授業時間外の学習 (予習・復習等)	シラバスを参照し、辞書や関連書籍から、各テーマについて予習を万全に、そして学んだことはしっかりと講義録に記入作成すること。 (合計60時間)
試験・レポート等のフィードバック方法	teamsを用い、指導します

授業と関連する実務経験	(株)プリンスホテルにて8年間実務、教育研修を担当
-------------	---------------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
-----------------------	--

共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現Ⅱ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現Ⅱ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	○
現Ⅱ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	○
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	203401 音楽療法の基礎	教室	403教室
授業表題	音楽療法概論		
担当教員	長坂 希望	実務経験	○

英語名称	音楽療法の基礎 (Introduction to Music Therapy)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	音楽療法や対象者の基礎知識の習得、臨床心理学用語の学習
授業の到達目標	①音楽療法の手順、効果、方法を説明できるようになること ②様々な障害、疾病、心理学用語について理解し、使用できるようになること ③音楽の役割や作用を考察し、セルフケアにいかせるようになること

◆授業計画	
1回	オリエンテーション & 音楽療法の定義と手順 予習：「ブレーメンの音楽隊」の演奏動画を視聴し、楽器の奏法を研究する。(1時間)
2回	ウェルネス音楽療法体験 復習：レポート作成の準備として、授業後に体験した感想や考えをまとめておくこと (30分)
3回	ウェルネス音楽療法 体験レポート作成 予習：「ウェル」「ウェルネス」という言葉のつくお店やサービスについて調べる。(30分) 復習：自分の生活の中で「音楽」と触れる。(1時間)
4回	人間の身体発達と音楽活動 復習：YOUTUBE等で乳児、幼児の日常生活に関する動画を視聴すること (1時間)
5回	こころを育てるかわり方 復習：レポート課題をチェックし、自分の子どもの頃を思い出しメモをすること。(1時間)
6回	こころを育てるかわり方 レポート作成 予習：自分の子どもの頃を振り返ってレポート作成の準備をすること。(1時間)
7回	震災時の音楽療法 予習：震災についての新聞記事等を読み、知識を増やす。(1時間) 復習：防災についての記事等を読み、知識を増やす。(1時間)
8回	子どものための音楽療法 予習・復習：子どものためのオモチャや楽器等を検索する (1時間)
9回	精神科領域の音楽療法 予習・復習：様々な精神疾患の診断や症状、治療法について調べる (1時間)
10回	精神科領域の音楽療法 予習：元気の出る曲、やる気の出る曲、落ち着く曲、心慰めてくれる曲を聴く。(1時間) 復習：授業内で紹介された音楽を聴く。(1時間)
11回	精神科領域の音楽療法

12回	高齢者のための音楽療法 予習：「高齢者」の定義について調べる。(30分) 復習：高齢者の生活について調べる。(1時間)
13回	高齢者のための音楽療法 予習：昭和時代の流行歌について調べ、数曲聞いておく。(1時間) 復習：授業内で紹介された音楽を聴く。(1時間)
14回	緩和ケア・ホスピスの音楽療法 予習：加齢に伴う人間の変化について考えておくこと(30分)
15回	筆記テストと解説

評価方法	レポート課題 30% 筆記試験 70% レポート作成、筆記試験すべてを授業内で行います。 筆記試験は教科書、授業内で配布したプリント、自筆ノートの持込可。
テキスト（必ず購入）	なし ※トピックスに合わせた資料を授業内配布。
参考書（必要に応じて購入）	
受講条件・ルール	

授業時間外の学習（予習・復習等）	予習：授業内で発表されたキーワード等をウェブ検索し、知識を得ること（20時間） 復習：授業内で配布された資料等を読むこと（30時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	① レポート課題は授業内で作成し提出します。 ② 筆記試験は、自己採点し、解説を行った後に答案用紙を集めます。 ③ その他、授業内容等についての質問等はTEAMS/Emailを使用。

授業と関連する実務経験	(1) 実務期間：29年 (2) 所属機関：Rhythm in Life (3) 実務内容：教育・福祉・医療現場での音楽療法
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	◎
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	○
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	○
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	

現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	205201 観光サービス論	教室	407教室
授業表題	観光サービスと観光ビジネスの理論と実践		
担当教員	安田 亘宏	実務経験	○

英語名称	観光サービス論 (Tourism Service)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	観光という社会現象は、観光に係わるサービス業によって支えられています。本講義は観光学の入門講座であると同時に、観光サービスの視点から、観光ビジネス、旅行業ビジネス、観光まちづくり、ニューツーリズム、ホスピタリティなどの今日的なテーマを中心とした実践的講義です。観光サービスと観光ビジネスの理論と実態、課題について理解することを目指します。
授業の到達目標	以下の項目について習得・理解することを目標とします。 1. 観光、観光サービスに関する基礎知識。 2. 観光や旅行が果たす、社会的・経済的・文化的な役割と「人」の重要性。 3. 観光ビジネスの実態と課題。 4. 魅力ある持続可能な観光まちづくりの必要性。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション： 授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意 観光とは、観光サービスとは、観光ビジネスとは <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「はじめに」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
2回	観光と観光サービス： 観光・観光サービス・観光の効果・観光市場・観光ビジネス <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第1章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
3回	観光ビジネスの歴史： 日本の観光ビジネスの歴史・外国の観光ビジネスの歴史 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第2章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
4回	日本の観光市場： 国内旅行市場の特徴と課題・海外旅行市場の特徴と課題・インバウンド市場の特徴と課題 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第3・4・5章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
5回	観光ビジネス： 観光ビジネスの定義・役割・種類・特徴・観光商品・観光行政・観光と地域 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第7章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
6回	旅行業ビジネス： 旅行会社の必要性・種類・旅行商品・パッケージツアー・ツアーコンダクター・OTA <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第8章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
7回	宿泊業ビジネス： 宿泊業ビジネスの特徴と課題・旅館・ホテル・公共の宿・民泊・シェアリングエコノミー <u>自宅学習</u>

	予習：テキスト「第9章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
8回	観光交通ビジネス： 観光交通ビジネスの特徴と課題・鉄道交通・道路交通・航空交通・海上交通 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第10章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
9回	観光施設ビジネス： 観光施設ビジネスの特徴と課題・テーマパーク・動物園・博物館・タワー・スキー場・道の駅 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第11章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
10回	インバウンドビジネス： インバウンドビジネスの特徴と課題・ランドオペレーター・観光ビジネス・関連ビジネス <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第5章」を読みインバウンドの現状について調べておく。 復習：重要事項の確認、整理をする。
11回	観光まちづくり： 観光まちづくりの特徴と課題・サスティナブル・観光資源・着地型旅行・まちマーケティング <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第12章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
12回	観光まちづくりとニューツーリズム①： エコツーリズム・フードツーリズムによる観光まちづくりの事例研究 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第13章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
13回	観光まちづくりとニューツーリズム②： コンテンツツーリズム(映画・TV・マンガ・アニメ)による観光まちづくりの事例研究 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第13章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
14回	観光サービスとホスピタリティ・リスクマネジメント： 観光ビジネスのホスピタリティ・オーバーツーリズム・リスク対応(疫病・災害・テロ) <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「第14章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
15回	まとめ 期末試験 <u>自宅学習</u> 予習：テキストおよび講義資料を確認、整理し試験勉強をする。 復習：試験に出た問題を確認、整理をする。

評価方法	学期末試験の成績（60%）、平常点(授業参加度・コメント票)（40%）により総合的に評価します。 ※評価方法については第1回授業（オリエンテーション）にて詳細を説明します。
テキスト（必ず購入）	安田亘宏著『観光サービス論—観光を始めて学ぶ人の14章』古今書院（ISBN 978-4-7722-3166-4） 講義内容によりプリントを配付します。
参考書（必要に応じて購入）	安田亘宏著『観光ビジネス実務主任者認定試験公式テキスト』全日本情報学習振興協会、2024年（ISBN 978-4-8399-8815-9）
受講条件・ルール	旅行が好きで、観光業界に興味や関心を持っている皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学びたいという意欲のある人を歓迎します。指定テキストは必ず用意してください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	各回の予習として、90分程度テキストの該当の章を読み概要を理解し疑問点を整理しておいてください。 また復習として、90分程度各回講義の重要事項の確認と整理を行ってください。 予習・復習・試験勉強合わせて60時間。
------------------	---

試験・レポート等のフィードバック方法	コメント票については次の講義のなかでフィードバックをします。
--------------------	--------------------------------

授業と関連する実務経験	(1)実務期間：1977年~2010年 (2)所属機関：JTB (3)実務内容：旅行営業・添乗業務・マーケティング・事業開発等
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現ミ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現ミ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現ミ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	○
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	201701 旅行業務総論（観光プランニング）	教室	407教室
授業表題	観光プランニングと旅行会社の役割と旅行業務の理解		
担当教員	安田 亘宏	実務経験	○

英語名称	旅行業務総論（観光プランニング）（Study of Travel Business）		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜3限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	観光産業を支えてきたのは、旅行業や鉄道・航空などの運輸業、旅館・ホテルなどの宿泊業などです。本講義では、観光マーケティング、観光プランニング、観光ビジネスに関する基礎を学修し、特に旅行業に焦点を当て、取り扱うマーケット、旅行商品、さらに商品プランニング・カウンターセールス・法人セールス・ツアーコンダクター等の旅行業実務の実態と課題を理解することを目指します。インターネット社会における機能や役割、今後の方向性についても考えます。
授業の到達目標	以下の項目について習得・理解することを目標とします。 1. 観光マーケティングに関する基礎知識。 2. 観光プランニングに関する基礎知識 3. 観光ビジネスに関する基礎知識 4. 旅行業務のマーケットに関する基礎知識。 5. 商品プランニング・カウンターセールス等の旅行業実務の実態と課題。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション —授業計画及び成績評価方法の説明、履修上の注意 —観光とは、観光プランニング、旅行会社とは <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「はじめに」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
2回	観光マーケティングの基礎① —観光・観光スタイル・観光振興 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「Ⅰ-第1章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
3回	観光マーケティングの基礎② —観光商品・観光商品開発・商品コンセプト <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「Ⅰ-第2章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
4回	観光マーケティングの基礎③ —観光マーケティング・4P3C・観光地域マーケティング <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「Ⅰ-第3・4・5・6章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
5回	観光プランニングの基礎① —観光プランニング・地域活性化・コトづくり・モノづくり <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「Ⅱ-第1章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
6回	観光プランニングの基礎② —地域資源・観光資源・観光特産・名物料理 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「Ⅱ-第2・3・4章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。

7回	観光地域ブランドの基礎 —観光地域ブランド戦略・地域連携・地域ブランド開発 <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「III-第1章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
8回	観光ビジネスの基礎 —観光ビジネス・観光コミュニケーション・観光プレゼンテーション <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「IV-第1・2・3・4・5章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
9回	観光マネジメントの基礎 —観光マネジメント・観光ビジネス営業計画・観光マネジメントマーケティング <u>自宅学習</u> 予習：テキスト「V-第1・2・3・4・5章」を読み概要を理解し疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
10回	旅行業務の基礎 —旅行業・旅行会社の役割・旅行業法・旅行業の仕組み <u>自宅学習</u> 予習：旅行会社の役割や業務について調べ疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
11回	旅行業務のマーケット① —国内旅行マーケット・海外旅行マーケット <u>自宅学習</u> 予習：国内旅行や海外旅行について調べ疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
12回	旅行業務のマーケット② —インバウンドマーケット・法人旅行マーケット <u>自宅学習</u> 予習：インバウンドや法人旅行について調べ疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
13回	旅行業務の実務① —カウンターセールス・ツアーコンダクター <u>自宅学習</u> 予習：旅行会社のカウンターセールスやツアーコンダクターについて調べ疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
14回	旅行業務の実務② —旅行商品プランニング・パッケージツアー <u>自宅学習</u> 予習：旅行会社のパンフレットやサイトでツアーについて調べ疑問点を整理。 復習：重要事項の確認、整理をする。
15回	まとめ —期末試験 <u>自宅学習</u> 予習：テキストおよび講義資料を確認、整理し試験勉強をする。 復習：試験問題の確認、整理をする。

評価方法	学期末試験の成績（60%）、平常点(授業参加度・コメント票)（40%）により総合的に評価します。 ※評価方法については第1回授業（オリエンテーション）にて詳細を説明します。
テキスト（必ず購入）	小塩 稲之・安田 亘宏著『基礎から学ぶ観光プランニング(改訂新版)』 日本販路コーディネータ協会、2015年(ISBN978-4990598457) 講義内容によりプリントを配付します。
参考書（必要に応じて購入）	安田亘宏著『観光サービス論—観光を始めて学ぶ人の14章』古今書院、2021年（ISBN978-4-7722-3166-4） 森下昌美著『旅行業概論』同友館、2020年（ISBN 978-4-496-05356-6）
受講条件・ルール	旅行が好きで、観光業界に興味や関心を持っている皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学びたいという意欲のある人を歓迎します。指定テキストは必ず用意してください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	各回の予習として、90分程度教科書の該当の章を読み概要を理解し疑問点を整理しておいてください。 また復習として、90分程度各回講義の重要事項の確認と整理を行ってください。 毎回の予習、復習、試験勉強を含め60時間。
試験・レポート等のフィードバック方法	コメント票については次の講義のなかでフィードバックをします。

授業と関連する実務経験	(1)実務期間：1977年~2010年 (2)所属機関：JTB (3)実務内容：旅行営業・添乗業務・マーケティング・事業開発等
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	。
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	201401 TOEIC Preparation Course	教室	405教室
授業表題	TOEIC対策		
担当教員	山口 かおり	実務経験	○

英語名称	TOEIC Preparation Course (TOEIC Preparation Course)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜5限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	TOEICは国際社会に通用する英語によるコミュニケーション能力を測定する試験である。 このクラスでは、TOEICの受験経験のない学生向けのTOEICのテストの概要とそれぞれのセクションに対する対策について勉強する。
授業の到達目標	(1) TOEIC 500点を目標とする。 (2) そのために必要なTOEIC対策と、語彙力の強化を行う。

◆授業計画	
1回	ガイダンス、TOEICの説明
2回	Part 1 ～ Part 4 リスニング
3回	Part 5 ～ Part 7 リーディング
4回	Part 1 ～ Part 4 リスニング
5回	Part 5 ～ Part 7 リーディング
6回	Part 1 ～ Part 4 リスニング
7回	Part 5 ～ Part 7 リーディング
8回	Part 1 ～ Part 4 リスニング
9回	Part 5 ～ Part 7 リーディング
10回	Part 1 ～ Part 4 リスニング

11回	Part 5 ～ Part 7 リーディング
12回	Part 1 ～ Part 4 リスニング
13回	模擬試験問題（Listening）
14回	模擬試験問題（Reading）
15回	TOEIC IPテスト受験

評価方法	TOEIC IPテスト（7月末ごろ実施）の試験結果 20% 単語テスト 20% 平常点（小テスト、授業への積極的取り組み） 30% 期末テスト 30%
テキスト（必ず購入）	はじめて受けるTOEIC L&Rテスト全パート完全攻略 小石 裕子 著 アルク 9784757430587
参考書（必要に応じて購入）	
受講条件・ルール	受講生は、全員7月実施予定のTOEIC IPテストを受験すること（受験が単位習得の必須条件）

授業時間外の学習（予習・復習等）	TOEICで高得点を取得するために、語彙力を強化し、練習問題を数多く解くこと。 授業外に自主学習をする必要がある。 単語テスト・小テストを行うので、学習した英文内容を理解しながら音読を繰り返し、身につけること。 （合計15時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	随時指示する

授業と関連する実務経験	あり
-------------	----

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること		
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること		
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）		
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		◎
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力		

幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	201801 旅行業務演習（観光プランニング演習）	教室	405教室
授業表題	旅行商品を企画する		
担当教員	山口 かおり	実務経験	○

英語名称	旅行業務演習（観光プランニング演習）（Travel Service Practice）		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜5限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	サービス提供側の視点から旅行商品ならびに旅行者を見ることによって、旅行業の全体構造を捉えることができる。この授業では、旅行商品を学生自ら企画していくことによって、豊かな旅行とは何かを理解することができる。
授業の到達目標	旅行商品の企画を通じて旅行商品の知識を習得できる。また、グループワークを通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。さらに、発表を通じてプレゼンテーション能力を高めることができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション（授業の概要と計画、評価の方法などについて説明）
2回	旅行商品の研究（1）
3回	旅行商品の研究（2）
4回	旅行商品の研究（3）
5回	旅行商品の企画の方法（1）
6回	旅行商品の企画の方法（2）
7回	旅行商品の企画〔グループワーク〕（1）
8回	旅行商品の企画〔グループワーク〕（2）
9回	旅行商品の企画〔グループワーク〕（3）
10回	アクティブラーニングプログラム参加 フィールドワーク
11回	アクティブラーニングプログラム参加 フィールドワーク

12回	旅行商品の企画（グループワーク）（4）
13回	旅行商品の企画（グループワーク）（5）
14回	旅行商品企画のコンペティション
15回	講評：コンペティション結果の発表と評価について

評価方法	中間発表20点と、旅行商品企画コンペ参加80点の合計点にて評価する。 全授業の3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象から外れます。
テキスト（必ず購入）	授業内で指示
参考書（必要に応じて購入）	講義中に適宜紹介する。
受講条件・ルール	本講義は演習のためグループワークを行います。 講義マナー（私語、携帯電話等の使用、遅刻、途中退室など）には厳しく対応します。

授業時間外の学習（予習・復習等）	商品企画作成のために、授業前後の予習復習に多くの時間を割かなければならないことに留意して下さい。また、復習のためのプリント（A41枚程度）を課題として配布することも予定しています。授業で取り上げたキーワードを復習しておくこと（次回授業時にテストする場合があります）。 （合計60時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	ミニテスト、試験のフィードバックは適宜授業中に行います。

授業と関連する実務経験	現役通訳案内士 元ホテル勤務 旅行手配会社勤務経験あり
-------------	-----------------------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	◎
現Ⅲ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現Ⅲ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現Ⅲ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	。
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	106102 パフォーマンスA	教室	第2体育館
授業表題	作品作り		
担当教員	飯田 俊明	実務経験	○

英語名称	パフォーマンスA (Performance A)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	木曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	コミュニケーション力のスキルアップとして、仲間との協調性を身に付けながら表現力を向上させることを目的とします。 グループに分かれて、課題曲の世界観を表現する作品作りを行います。
授業の到達目標	授業内での発表会 スペシャルオープンキャンパスでの発表（希望者） 地域の夏祭りでの発表（希望者）等を予定

◆授業計画	
1回	教室にてガイダンス、受講生の希望調査
2回	身体ならし グループ分け
3回	作品決め
4回	作品作り 1
5回	作品作り 2
6回	作品作り 3 (位置移動を完成させるのを目指す)
7回	作品作り 4 (衣装の決定)
8回	作品作り 5 (仕上げ)
9回	授業内 発表会① 評価をし合い、ブラッシュアップさせる点を明らかにする
10回	作品作り 6 (ブラッシュアップ 1)

11回	作品作り 7 (ブラッシュアップ 2)
12回	作品作り 8 (ブラッシュアップ 3)
13回	作品作り 9 (ブラッシュアップ 4)
14回	授業内 発表会②
15回	発表会②の上映会 振り返り

評価方法	各自が表現することを助長させる参加態度、協調性。 表現力。コミュニケーション力。 以上の観点から総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	なし
参考書（必要に応じて購入）	なし
受講条件・ルール	本授業を通してコミュニケーション力を高めることを希望する方。 経験は問いません。

授業時間外の学習（予習・復習等）	振付や歌の練習など授業時間外の学習が必須となります。 スペシャルオープンキャンパスや地域のお祭りでの発表（希望者）など、授業時間外での発表が予定されています。 (合計15時間)
試験・レポート等のフィードバック方法	積極的な参加態度、作品の評価

授業と関連する実務経験	音楽映像作品制作に音楽面で携わってきた
-------------	---------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュタリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	401903 音楽基礎 [3]	教室	音楽室(右) 304教室
授業表題	ひきうたいの初歩		
担当教員	二木 秀幸、飯田 俊明	実務経験	○

英語名称	音楽基礎 (Basic Music)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	ピアノ初心者のために、こどもと音楽表現 I を始める前段階として、ピアノや歌の基礎部分を学ぶ。
授業の到達目標	子どもの歌を通じ、子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんのこどものうた弾き歌いレパートリーを持つこと。

◆授業計画	
1回	授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定
2回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習 基本的には個人レッスン形態を取る。 全員に割り当てられた電子ピアノを使い、ヘッドフォンにより個人練習、一人ずつ呼ばれてピアノにて指導を受け、助言を生かして個人練習に戻り、その成果を再び個人レッスンで披露しチェックを受ける、ということを繰り返す。 共通した話題の場合は、複数の学生を集めて講義形式で行う場合もある。
3回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
4回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
5回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
6回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
7回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
8回	講師交代、教室変更。 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
9回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
10回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習

11回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
12回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
13回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
14回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
15回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習

評価方法	こどものうた弾き歌い（ピアノ曲含む）のクリア曲数とその難易度を評価の重要なポイントとする。 さらに曲の長さ、本人の進度、努力などを加え、最終的な評価とする。 単位認定については、2年前期の「子どもと音楽表現Ⅱ」が終わった段階で、22曲以上のクリアが必要だが、音楽基礎については、単位認定に関しクリア曲数の条件はない。 またスクーリング、音楽基礎でクリアした曲は最終的なクリア曲数に計上できる。
テキスト（必ず購入）	以下の三つの中から初回授業内に担当教員が指定する。 指定を受けたのちに購入すること。 1.プリント配布によるオリジナルテキスト。 A4サイズの貼付できるスケッチブックを用意し配布されたら目次順に貼っておくこと。 2,ドレミ楽譜出版「こどものうたベストテン」。 3.中級者の場合、「こどものうた弾き歌いベスト50」など（担当教員の判断による）。 上記のうち、2,3どちらかを必ず購入すること。（初回授業までは購入を控えること） 1,は、必要な学生にのみ配布する。
参考書（必要に応じて購入）	特に指定しないが、多くのこどものうたに触れ、曲の知識を広げておく事がおくことが望ましい。
受講条件・ルール	基本的に、8回目に担当講師が変わり、計二人の講師に指導を受ける。 教室も変わることになるので、注意すること。

授業時間外の学習（予習・復習等）	学内で、最低毎週1時間の練習時間を設定しなければならない。合計15時間。 それ以外にも、自宅など各自の環境に応じた場所で必要に応じた練習時間を確保することが望ましい。
試験・レポート等のフィードバック方法	試験は行わず、毎回の個人レッスンによってフィードバックする。

授業と関連する実務経験	現在まで、フリーランスとして、演奏活動、作編曲制作など
-------------	-----------------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	402001 子どもと音楽表現I [1]	教室	音楽室(左) 音楽室(右)
授業表題	こどものうた弾き歌い		
担当教員	飯田 俊明、川崎 亜希子	実務経験	○

英語名称	子どもと音楽表現I (Child and Music Expression I)		
専攻	幼児教育専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜2限
必修・選択	必修（幼必、保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	子どものうたを通じて、子どもの豊かな表現力を導くスキルを身につける、ピアノによる弾き歌い実技。
授業の到達目標	子どもの歌を通じ、子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんのこどものうた弾き歌いレパートリーを持つこと。

◆授業計画	
1回	授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定
2回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習 基本的には個人レッスン形態を取る。 全員に割り当てられた電子ピアノを使い、ヘッドフォンにより個人練習、一人ずつ呼ばれてピアノにて指導を受け、助言を生かして個人練習に戻り、その成果を再び個人レッスンで披露しチェックを受ける、ということを繰り返す。 共通した話題の場合は、複数の学生を集めて講義形式で行う場合もある。
3回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
4回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
5回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
6回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
7回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
8回	講師交代、教室変更。 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
9回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
10回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習

11回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
12回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
13回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
14回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習
15回	個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習

評価方法	こどものうた弾き歌い（ピアノ曲含む）のクリア曲数とその難易度を評価の重要なポイントとする。 さらに曲の長さ、本人の進捗、努力などを加算し、最終的な評価とする。 単位認定については、2年前期の「子どもと音楽表現Ⅱ」が終わった段階で、22曲以上のクリアが必要だが、「子供と音楽表現Ⅰ」については、単位認定に関しクリア曲数の条件はない。 またスクーリング、音楽基礎でクリアした曲は最終的なクリア曲数に計上できる。
テキスト（必ず購入）	ドレミ楽譜出版社「こどものうたベストテン」又は、ブルグミュラー修了程度以上のスキルを持つ学生については、音楽の友社「こどものうた弾き歌いベスト50」などを購入することになる。担当教員が個々の学生にあったテキストを判断する。 初心者には、こどものうたベストテンに入る前に、プリント配布によるオリジナルテキストを配布の上使用する。
参考書（必要に応じて購入）	バイエル、ブルグミュラーなど各種適宜使用する。
受講条件・ルール	基本的に、8回目に担当講師が変わり、計二人の講師に指導を受ける。教室も変わることになるので、注意すること。

授業時間外の学習（予習・復習等）	学内で、最低毎週1時間の練習時間を設定しなければならない。合計15時間。 それ以外にも、学内の他、自宅など各自の環境に応じた場所で必要に応じた練習時間を確保することが望ましい。
試験・レポート等のフィードバック方法	試験は行わず、毎回の個人レッスンによって評価する。

授業と関連する実務経験	現在まで、フリーランスとして、演奏活動、講師活動、作編曲制作など
-------------	----------------------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	。
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	

共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	402110 子どもと音楽表現Ⅱ	教室	音楽室(左)
授業表題	こどものうた弾き歌い		
担当教員	飯田 俊明	実務経験	○

英語名称	子どもと音楽表現Ⅱ (Music II)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜3限
必修・選択	必修(保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	主に子どもと音楽表現Ⅱの単位取得ができなかった学生を対象に、同様の内容を引き続き行う。 個人レッスン及び指摘された問題点を練習する時間を軸に、実践的なレッスンを行なう。 ただし発表会は行なわれない。
授業の到達目標	子どもの歌を通じ、子どもたちに音楽の楽しさを伝えられる術を身につける事。 たくさんの子どものうた弾き歌いレパートリーを持つこと。

◆授業計画	
1回	授業内容の説明、個々の技術状況診断と課題曲決定 個人レッスンと練習時間を軸にした弾き歌い実技講習 基本的には個人レッスン形態を取る。 全員に割り当てられた電子ピアノを使い、ヘッドフォンにより個人練習、一人ずつ呼ばれてピアノにて指導を受け、助言を生かして個人練習に戻り、その成果を再び個人レッスンで披露しチェックを受ける、ということを繰り返す。 共通した話題の場合は、複数の学生を集めて講義形式で行う場合もある。
2回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
3回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
4回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
5回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
6回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
7回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
8回	講師交代。教室変更。 初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
9回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。

10回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
11回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
12回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
13回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
14回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。
15回	初回と同様の形式により、弾き歌い実技を行う。

評価方法	入学時から獲得してきたクリア曲数の総数が22曲に達していなければ、F。 超えている場合は、 子どもと音楽表現Ⅱの中で獲得した、こどものうた弾き歌い（ピアノ曲含む）のクリア曲数とその難易度を評価の重要なポイントとする。 さらに曲の長さ、本人の進捗、努力などを加点し、最終的な評価とする。
テキスト（必ず購入）	子どもと音楽表現Ⅰで使用のテキストを引き続き使用。 ただし、授業中の特に講師の指示のあるものは別途購入を要する場合がある。
参考書（必要に応じて購入）	バイエル、ブルグミュラーなど各種適宜使用する。
受講条件・ルール	基本的に、8回目に担当講師が変わり、計二人の教員に指導を受ける。 教室も変わることになるので、注意すること。

授業時間外の学習（予習・復習等）	学内で、最低毎週1時間の練習時間を設定しなければならない。合計15時間。 それ以外にも、学内の他、自宅など各自の環境に応じた場所で必要に応じた練習時間を確保することが望ましい。
試験・レポート等のフィードバック方法	試験は行わず、毎回の個人レッスンによってフィードバックする。

授業と関連する実務経験	現在まで、フリーランスとして、演奏活動、講師活動、作編曲制作など
-------------	----------------------------------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	

現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	402201 音楽アンサンブル	教室	音楽室(右)
授業表題	歌を中心としたアンサンブルによる表現の追求		
担当教員	飯田 俊明	実務経験	○

英語名称	音楽アンサンブル (Ensemble Music)		
専攻	幼児教育専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜5限
必修・選択	選択 (保選必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	歌を中心としたミュージックビデオの制作や発表を行う中で、自己表現と他者とのコミュニケーション能力の育成を行う。
授業の到達目標	本格的なレコーディングや特別講師との貴重な交流および発表を通し、表現している自分というものを客観的に観察し、臆することなく自分を表現する喜びを体験し、人間としての表現力を高め、またレコーディングディレクションを通じて、他者の力を最大限引き出すためのコミュニケーションを学ぶ。

◆授業計画	
1回	授業内容説明。履修者の習得楽器状況の把握とアンサンブル編成、課題曲相談
2回	課題曲（アンサンブルによるレコーディング曲）動画内容、及び個人曲、決定ミーティング
3回	課題曲練習
4回	課題曲練習
5回	課題曲練習
6回	個人曲レコーディング
7回	課題曲レコーディング
8回	課題曲レコーディング
9回	個人曲レコーディング
10回	特別講師による歌と表現力のレッスン

11回	個人曲レコーディング
12回	個人曲レコーディング
13回	個人曲レコーディング
14回	特別講師による歌と表現力のレッスン
15回	特別講師による歌と表現力のレッスン

評価方法	平常点による。歌唱、演奏クオリティ、音楽性、音楽的アイデア力、学習に対する積極性 制作物に対する貢献度、ディレクションにおけるコミュニケーション能力とその成長を元に、総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	楽譜など、適宜こちらで用意する。
参考書（必要に応じて購入）	授業内にて適宜指導する。
受講条件・ルール	個人レコーディング曲は、ジャンル問わず自分の好きな曲を選択できる。 レコーディングしてみたい曲を考えておくこと。 ただし、カラオケを自分で用意できる曲であることが望ましい。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業ごとに指示される内容に従い、素材集め、歌の練習、動画編集など、週1時間以上の自宅学習が求められる。（合計15時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	提出したものに対しては、適宜コメントする。

授業と関連する実務経験	フリーランスとして、ライブ、CD、TVなどでの幅広いジャンルの演奏活動、作編曲活動。
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	◎
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	

幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	411201 保育内容「表現」の指導法	教室	304教室
授業表題	子どもたちと音楽の楽しさを共有する		
担当教員	飯田 俊明	実務経験	○

英語名称	保育内容「表現」の指導法（Guidance Method : Expression）		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	後期	曜日・時限	木曜4限
必修・選択	必修（幼必、保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	授業では表現を学ぶため、学生が主役となり、様々な課題に取り組み、その成果をライブで、あるいはまた動画により数多く発表していく。 こうした自発的な取り組みを通じて、表現の楽しさを子どもたちと共有する術を、あくまで実践的に習得して行く。
授業の到達目標	この授業には、目標とする外部への発表が用意されている。 最終日にはこどもたちを招いて行う「ちいさなおんがくかい」。 さまざまな演奏や手遊びなどを子どもたちに直接披露する。 また学習発表会でもビデオ発表とベル演奏が予定されている。 これらの準備をする中で、主に音を中心とした様々な表現の魅力を子どもと共有する感性、方法を学ぶ。

◆授業計画	
1回	授業形態説明 五領域「表現」とは何か 課題説明 コミュニケーションの基本について 小さな世界ベル演奏
2回	バベットと読み聞かせ 小さな世界ベル演奏 表現動画の制作課題検討。 幼稚園教育要領を軸に。 豊かな感性と遊びを体感する。
3回	手遊び発表 こどものための楽器 遊びを軸としたパフォーマンス、コップを楽器に。Cups ハンドベル体験
4回	手遊び発表 手遊びメドレー 音のトンネル 遊び心と豊かな感性（替え歌制作）
5回	手遊び発表 ハンドベル演奏 楽器と音のキャラクター 表現動画制作
6回	手遊び発表 表現動画制作日
7回	ピアノを自由に演奏する方法

8回	パペットを自由に使う パペットと読み聞かせによるパフォーマンス体験
9回	パペットと読み聞かせを使ったパフォーマンス ハンドベル演奏練習
10回	学習発表会リハーサル ちいさなおんがくかい「オープニング」練習 音のトンネル復習
11回	学習発表会リハーサル 課題発表。
12回	「ちいさなおんがくかい」練習
13回	「ちいさなおんがくかい」リハーサル
14回	「ちいさなおんがくかい」ゲネプロ
15回	ちいさなおんがくかい 発表

評価方法	テストは行わず、各回の課題を元に成績を決定する。 課題は主に、 1,表現力 2,技術力 3,積極性 4,アイデア力 5,努力 これらを勘案して総合的に判断する。
テキスト（必ず購入）	プリントを配布する。 クリアファイル（20ポケット、A4サイズ）を購入し、記名の上、初日に必ず持参する事。 カラーは自由。 他の人が同様のものを持つので、すぐ識別できるものが望ましい。 A4の紙をノート用に何枚か用意しておく事。
参考書（必要に応じて購入）	パフォーマンスは動画から学ぶのが望ましい。インターネットを活用すること。
受講条件・ルール	配布資料をまとめるため、クリアファイル（20ポケット、A4サイズ）、またはそれに準じたものを購入すること。 また毎回かならずこのファイルを持って受講すること。 合奏では、楽譜を忘れることにより自分だけでなく、他者に迷惑をかけかねない。 したがって、このことは特に注意しておく。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業ごとに指示される内容に従い、動画の素材集め、パフォーマンスの練習、動画編集など、合計15時間の自宅学習が求められる。
------------------	--

試験・レポート等のフィードバック方法	テストは行わないが、常に課題提出に対してのフィードバックが個々に行われる。
--------------------	---------------------------------------

授業と関連する実務経験	フリーランスのピアニスト、作編曲家として、年間90回程度、子どものための音楽のほか、様々なジャンルのコンサート、ライブなどさまざまなパフォーマンスへの出演を行ない、また音源制作、楽譜制作などを通じて表現を追求している。
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		◎
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること		
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること		
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		○
現111：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）		
現112：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		
現113：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力		◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢		
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術		○

授業コード・授業名	405801 保育実践演習	教室	403教室
授業表題	保育者になるにあたって必要な、総合的かつ実践的な学習		
担当教員	鈴木 健史	実務経験	○

英語名称	保育実践演習（Seminars for Practical Childcare）		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期（水曜1限）、後期（水曜2限）
必修・選択	選択（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育者は、子ども理解の上に、子どもの発達や成長を促すねらいや仕組みを基本とした様々な保育の引き出しを持つことが求められます。それは保育者の専門性と呼ばれますが、授業では、保育者の専門性に関する実践や発表を行い、保育者としての「私」の専門性や個性を伸ばしていくとともに、保育者集団としての協働について学びます。
授業の到達目標	・保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、グループワークを通して自らの学びを振り返り把握する。 ・自らの保育体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得し、さらに自分の目指す保育について、自分の言葉で語ることができる。 ・自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。そして、保育者がチームとして協働することの重要性を理解し、チームで保育を実践する方法を考え、協働することができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション、保育者になるとは
2回	保育者に求められる専門性
3回	子どもを理解すること
4回	子どもの気持ちに寄り添う
5回	気になる子どもの理解
6回	一人ひとりに寄り添う保育
7回	保育の目標とカリキュラム
8回	保育におけるPDCA
9回	保育内容とは

10回	世界の保育を知る（１）
11回	世界の保育を知る（２）
12回	世界の保育を知る（３）
13回	指導計画の作成（１）
14回	指導計画の作成（２）
15回	中間レポート作成、協同的な学びとは
16回	保育実践をふりかえる
17回	ふりかえりによる保育の質向上
18回	保護者と協働する保育
19回	保育者同士の支えあい
20回	幼保小の連携とは
21回	幼保小の連携プログラム作成
22回	園の安全管理
23回	リスクマネジメント
24回	保育者の専門性とは
25回	保育者の成長とは
26回	保育者の倫理

27回	理想の保育者像を描く（１）
28回	理想の保育者像を描く（２）
29回	理想の園を描く
30回	まとめ

評価方法	期末試験および授業内の課題・提出物、グループワーク発表内容と、最終レポートにより総合的に評価します。ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象となりません。
テキスト（必ず購入）	『これまでの学びと保育者への歩み』（わかば社）
参考書（必要に応じて購入）	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
受講条件・ルール	保育実践演習は一年を通して、実践を通して保育者としての専門性を高めていく授業です。グループワークへの参加など、積極的に取り組んでください。授業の参加にはテキストが必須です。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 テキスト内の記入は丁寧に、授業内に書ききれなかった場合は、授業後に自分で時間を取り、記入してください。グループ発表の準備も授業内で終わらない場合、グループで授業外に時間を取ってください。 合計30時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（１）実務期間 2002年10月～2006年3月 （２）所属機関 西東京市児童養護施設 （３）実務内容 児童指導員として、2歳半から18歳までの児童の生活支援を行う。児童棟担当兼副リーダーとして、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。 （１）実務期間 2006年4月～2009年3月 （２）所属機関 豊島区私立幼稚園 （３）実務内容 4、5歳児クラス担当教員として、年間計画、月案、週案、日案を作成し、それに
-------------	---

	沿って集団遊び、絵画、音楽表現、鉄棒跳び箱等の運動などの主活動や、遠足や音楽会・発表会などの行事計画を立案・実行した。また保護者会、授業参観、個人面談などを行った。 (1) 実務期間 2009年4月～2012年3月 (2) 所属機関 府中市私立保育園 (3) 実務内容 0,1,2,3歳児担当保育士として、発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また保育園内地域子育て広場事業にて、プログラムの講師担当となり、親支援プログラムを企画・開催した。また、園内外研修担当となり、府中市私立保育園連盟の講座講師や、進行役として、園の保育内容を検討する園内研修を行った。
--	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	412201 子育て支援	教室	401教室
授業表題	子育て支援(Child Care Support)		
担当教員	鈴木 健史	実務経験	○

英語名称	子育て支援 (Child Care Support)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜3限
必修・選択	選択 (保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育所保育指針の第4章は「子育て支援」です。子どもの健やかな育ちのために、子育ての基本的な集団としての家庭を支援するだけでなく、地域ぐるみの視点をもって子育ての支援を実施する必要があります。授業では、子育て支援の具体的な知識・技術の習得とともに、事例を通して支援の内容と方法、技術を学び、保育者としての専門性を身につけます。
授業の到達目標	・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 子どもの保育とともに行う保護者への子育て支援
2回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供
4回	子どもと保護者の状況・状態の把握
5回	子育て支援の計画と環境の構成
6回	子育て支援の実践・記録と評価・カンファレンス
7回	職員間の連携・協働
8回	社会資源の活用と自治体・関係機関との連携、専門職との協働
9回	保育所における子育て支援
10回	地域の子育て家庭に対する支援
11回	障害のある子どもとその家庭に対する支援

12回	特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援
13回	児童虐待の予防と具体的対応
14回	要保護児童などの家庭に対する支援
15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解、まとめ

評価方法	授業内の課題・提出物、グループワーク発表内容、授業内試験等により総合的に評価します。ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象となりません。
テキスト（必ず購入）	『子育て支援 一保育者に求められる新たな専門的実践一』（同文書院）
参考書（必要に応じて購入）	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
受講条件・ルール	グループワークへの参加など、積極的に取り組んでください。授業の参加にはテキストが必須です。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 授業内に終了できなかったグループワークや課題は、授業後に自分で時間を取り、取り組んでください。グループ発表の準備も授業内で終わらない場合、グループで授業外に時間を取ってください。 合計15時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（1）実務期間 2006年4月～2009年3月 （2）所属機関 豊島区私立幼稚園 （3）実務内容 4、5歳児クラス担当教員として、年間計画、月案、週案、日案を作成し、それに沿って集団遊び、絵画、音楽表現、鉄棒跳び箱等の運動などの主活動や、遠足や音楽会・発表会などの行事計画を立案・実行した。また保護者会、授業参観、個人面談などを行った。 （1）実務期間 2009年4月～2012年3月 （2）所属機関 府中市私立保育園
-------------	--

	(3) 実務内容 0,1,2,3歳児担当保育士として、発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また保育園内地域子育て広場事業にて、プログラムの講師担当となり、親支援プログラムを企画・開催した。また、園内外研修担当となり、府中市私立保育園連盟の講座講師や、進行役として、園の保育内容を検討する園内研修を行った。
--	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュタリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	◎
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	405001 保育内容総論	教室	402教室
授業表題	保育者になるにあたって必要な、総合的かつ実践的な学習		
担当教員	鈴木 健史	実務経験	○

英語名称	保育内容総論 (Childcare Content: General Remarks)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	水曜3限
必修・選択	選択(幼必、保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	授業では、保育実践事例動画やアクティブラーニングを通して、各領域のねらいについて理解を深め、保育内容や保育方法、環境や遊びによる保育、特別支援や幼・保・小の連携について具体的に理解し、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を実現する総合的な保育の視点を身につけていきます。
授業の到達目標	・教育要領・保育指針、教育・保育要領における保育内容の全体的な構造を理解する。 ・保育内容の課題を踏まえつつ、多様な保育の展開について具体的に理解する。 ・保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。

◆授業計画	
1回	子ども理解と保育内容
2回	「遊び」から捉えられる保育内容
3回	「生活」から捉えられる保育内容
4回	「環境」から捉えられる保育内容
5回	「発達」から捉えられる保育内容
6回	行事をめぐって
7回	保育内容の捉え方とその背景
8回	要領・指針の保育内容の捉え方
9回	様々な配慮を必要とする子どもの園生活と保育内容
10回	指導計画の構想と実践

11回	小学校との連携・接続
12回	広がりゆく保育と保育内容の工夫・課題
13回	保育者の専門性と保育内容
14回	多様な事例検討
15回	まとめ

評価方法	授業内の課題・提出物、グループワーク発表内容等と、最終レポートにより総合的に評価します。ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象となりません。
テキスト（必ず購入）	『新訂 演習 保育内容総論』（建帛社）
参考書（必要に応じて購入）	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
受講条件・ルール	保育内容総論はこれまで学習した保育理論を、実践へとつなげていく演習科目です。グループワークへの参加など、積極的に取り組んでください。授業の参加にはテキストと予習が必須です。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 各授業前に実施していただきたい予習内容を提示いたします。プリントやレポートの記入は丁寧に、授業内に書ききれなかった場合は、授業後に自分で時間を取り、記入してください。 合計15時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（1）実務期間 2002年10月～2006年3月 （2）所属機関 西東京市児童養護施設 （3）実務内容 児童指導員として、2歳半から18歳までの児童の生活支援を行う。児童棟担当兼副リーダーとして、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。 （1）実務期間 2006年4月～2009年3月
-------------	--

(2) 所属機関 豊島区私立幼稚園 (3) 実務内容 4、5歳児クラス担当教員として、年間計画、月案、週案、日案を作成し、それに沿って集団遊び、絵画、音楽表現、鉄棒跳び箱等の運動などの主活動や、遠足や音楽会・発表会などの行事計画を立案・実行した。また保護者会、授業参観、個人面談などを行った。 (1) 実務期間 2009年4月～2012年3月 (2) 所属機関 府中市私立保育園 (3) 実務内容 0,1,2,3歳児担当保育士として、発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また保育園内地域子育て広場事業にて、プログラムの講師担当となり、親支援プログラムを企画・開催した。また、園内外研修担当となり、府中市私立保育園連盟の講座講師や、進行役として、園の保育内容を検討する園内研修を行った。
--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	404301 保育実習指導 I(保育所) [保育所]	教室	405教室
授業表題	保育実習 I（保育所）に向けての事前事後指導		
担当教員	鈴木 健史、倉持 こころ	実務経験	○

英語名称	保育実習指導 I(保育所) (Instruction of Childcare Training I)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜1限
必修・選択	選択（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育実習（保育所）は、子どもに対する援助・支援を観察し、現場で必要な保育の方法や技術、配慮、施設での援助技術について学ぶことのできる貴重な機会です。授業では、保育実習 I（保育所）の意義や、実習に向けての知識・技術の習得や、実習生としての姿勢や心構えなどについて学びます。
授業の到達目標	・ 保育所実習に向けて、保育者としての自己の課題を明らかにする。 ・ 実習生としての姿勢や心構えについて理解する。 ・ 部分実習に向けて、必要な準備を整える。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 保育実習 I（保育所）について、保育所の一日
2回	実習についての疑問や不安を明らかにする、保育で使用する漢字
3回	実習生の心構えと姿勢、実習のオリエンテーションについて
4回	各年齢・クラスにおける発達や遊び・かかわり
5回	実習日誌の書き方（1）保育所の時間の流れをつかむ、時系列の記録
6回	実習日誌の書き方（2）乳幼児の発達に注目する、気づきを書く
7回	部分実習で用いる保育教材の作成（絵本・手遊び・自己紹介）
8回	実習課題の立て方、一日のふりかえりとエピソード記述
9回	部分実習の指導案の作成（1）
10回	部分実習の指導案の修正・添削
11回	現場の声を聞く（発表と小グループでの質問）

12回	実習で困った時の対処、保育者の動き
13回	公文書（個人票・評価表・出勤簿・誓約書）の準備、実習生連絡票の作成、保育で使用する漢字
14回	職員との関係性、保育観と様々な保育形態、実習前の事前確認
15回	まとめ、レポート作成

評価方法	授業内の課題・提出物、グループワーク発表内容等により総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（わかば社）
参考書（必要に応じて購入）	『保育指導案大百科事典』（一藝社） 『実習日誌の書き方』（一藝社） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
受講条件・ルール	実習生として最も必要な姿勢は謙虚さです。子ども達のように、失敗から学ぶ姿勢、感謝を伝える姿勢、積極性を示すなど、授業中から自己の在り方を意識するようにしましょう。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 テキスト内の記入は丁寧に、授業内に書ききれなかった場合は、授業後に自分で時間を取り、記入してください。グループ発表の準備も授業内で終わらない場合、グループで授業外に時間を取ってください。 合計15時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（1）実務期間 1998年4月～2009年3月 （2）所属機関 静岡県私立保育園 （3）実務内容 保育園園長として0歳児～5歳児の保育を行った。自身での保育指導計画の作成、職員の指導計画の添削等を担当した。また保育実習生や中高生の職場体験の受け入れも行い、実習生の指導を行った。 保育所内での保育士研修企画や、研修講師を担当した。
-------------	--

共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現Ⅱ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現Ⅱ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現Ⅱ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	◎
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	403801 幼児理解	教室	401教室
授業表題	幼児理解とは		
担当教員	鈴木 健史	実務経験	○

英語名称	幼児理解 (Understanding of Children)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜1限
必修・選択	選択（幼必、保選必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	幼児理解の基盤となる発達心理学、カウンセリングマインド等の理論を解説する。また、幼児理解の具体的な方法である観察や記録の取り方や活かし方を教師の姿勢と関連づけて検討する。さらに、幼児理解の実際について理解を深めるために、現場の映像による事例分析を行う。個と集団の育ちの理解、特別支援教育、保護者の心情の理解、幼小接続における幼児理解のあり方についても解説し、検討する。		
授業の到達目標	・ 幼児理解の多様な視点と方法を学び、支援をすることのできる教師の姿勢を身につける ・ 幼児理解の基盤となる理論や原理を理解する。 ・ 幼児理解のための観察法及び記録の方法と、活用の仕方を理解し身につける。 ・ 保護者の心情の理解と、特別支援教育や幼小接続との関連を理解する。 ・ 個と集団の関係を捉える意義と方法を理解する。		

◆授業計画	
1回	オリエンテーション、保育という臨床の場
2回	「わたし」という存在と物語
3回	「わたし」と他者
4回	カウンセリングマインドと遊戯療法
5回	臨床の知と保育臨床
6回	保育の出発点としての幼児の理解
7回	幼児理解の方法
8回	観察と記録
9回	個と集団の理解
10回	幼児理解のための教師の姿勢

11回	子どもの不安を読み取る
12回	親と子と保育者の関係
13回	統合保育
14回	カウンセリングマインドの訓練
15回	まとめ

評価方法	各回のリアクションペーパー（または、ふりかえりシート）の記述内容50%、定期試験内容50%で評価をします。
テキスト（必ず購入）	『子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点から』（萌文書林）
参考書（必要に応じて購入）	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
受講条件・ルール	グループワークへの参加など、積極的に取り組んでください。授業の参加にはテキストが必須です。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 テキスト内の記入は丁寧に、授業内に書ききれなかった場合は、授業後に自分で時間を取り、記入してください。グループ発表の準備も授業内で終わらない場合、グループで授業外に時間を取ってください。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（1）実務期間 2002年10月～2006年3月 （2）所属機関 西東京市児童養護施設 （3）実務内容 児童指導員として、2歳半から18歳までの児童の生活支援を行う。児童棟担当兼副リーダーとして、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。 （1）実務期間 2006年4月～2009年3月 （2）所属機関
-------------	---

豊島区私立幼稚園
(3) 実務内容 4、5歳児クラス担当教員として、年間計画、月案、週案、日案を作成し、それに沿って集団遊び、絵画、音楽表現、鉄棒跳び箱等の運動などの主活動や、遠足や音楽会・発表会などの行事計画を立案・実行した。また保護者会、授業参観、個人面談などを行った。
(1) 実務期間 2009年4月～2012年3月
(2) 所属機関 府中市私立保育園
(3) 実務内容 0,1,2,3歳児担当保育士として、発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また保育園内地域子育て広場事業にて、プログラムの講師担当となり、親支援プログラムを企画・開催した。また、園内外研修担当となり、府中市私立保育園連盟の講座講師や、進行役として、園の保育内容を検討する園内研修を行った。

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	○
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	404702 子ども家庭福祉	教室	401教室
授業表題	子ども家庭福祉概論		
担当教員	鈴木 健史	実務経験	○

英語名称	子ども家庭福祉 (Child and Family Welfare)		
専攻	幼児教育専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	後期	曜日・時限	集中講義
必修・選択	選択 (保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	この授業は子ども家庭福祉制度についての基礎知識と、現代社会における実態とニーズを理解するだけでなく、具体的な援助方法についても学びます。授業では講義以外に話し合いや実習を行い、トピックについてさらに理解を深めます。
授業の到達目標	・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ・子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。 ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。

◆授業計画	
1回	「子ども家庭福祉」を学ぶ前に なぜ「子ども家庭福祉」を学ぶのか、「子ども家庭福祉」とは何かについて学ぶ
2回	現代社会と子ども家庭福祉 現代社会と子ども家庭福祉ニーズについて学ぶ
3回	保育と子ども家庭福祉 保育と子ども家庭福祉の関係性について学ぶ
4回	子ども家庭福祉の歴史 子ども救済の歴史の概要と子どもの救済から子ども家庭福祉への転換の流れ、児童福祉法の改正の内容について学ぶ
5回	子ども家庭福祉の行政の仕組み 子ども家庭福祉推進する仕組みや諸手続きを規定する法律と法律に基づく行政の展開、また財政の部分まで学ぶ。
6回	子ども家庭福祉の機関と施設 子ども家庭福祉にかかわる機関と施設の関係について学ぶ
7回	子ども健全育成サービスとは何か 子ども健全育成の範囲、目標、児童厚生施設の役割などについて学ぶ
8回	母子保健サービス 母子保健の歩み、現状、施策、サービスと今後の課題について学ぶ
9回	保育サービス 保育サービスの対象とその意義、現状、課題について学ぶ
10回	要養護児童への福祉サービス 社会的養護とその体系、現状とサービス内容、課題について学ぶ
11回	障害児福祉サービス 日本の障害児施策のあゆみや障害者自立支援法と障害児福祉サービスについて学ぶ

12回	少年非行への対応 非行の現状、非行の種類、非行少年への対応プロセス、近年の非行の形について学ぶ。
13回	子ども虐待防止とその対応 子ども虐待の種類、予防、防止について学ぶ
14回	子ども家庭福祉での相談援助 事例を通して相談援助について学ぶ
15回	まとめ

評価方法	各回のリアクションペーパー（または、ふりかえりシート）の記述内容50%、定期試験内容50%で評価をします。
テキスト（必ず購入）	「改訂2版 第3巻 子ども家庭福祉」（全国社会福祉協議会）
参考書（必要に応じて購入）	『社会福祉小六法2019』（ミネルヴァ書房編集部）
受講条件・ルール	子ども家庭福祉は保育に携わる者にとって、必須の知識です。グループワークへの参加や、授業内のワークシートの記述など、積極的に取り組んでください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・事前学修：次回の授業に関する配布資料を読み、下記についてまとめる。詳細については ①内容に関する自分の理解（これまでの学習内容と関連づける） ②内容について分からないことや疑問 ③知らない専門用語について調べる ・事後学修：授業内容について、配布資料やワークシートをもとに復習をし下記についてまとめる。 ①内容に関する自分の理解（授業前に書いた内容に加筆する。） ②感想や気づき（印象に残った言葉、学びをどう活かすか、さらに学びたいことなど） ③疑問・質問 テキスト内の記入は丁寧に、授業内に書ききれなかった場合は、授業後に自分で時間を取り、記入してください。グループ発表の準備も授業内で終わらない場合、グループで授業外に時間を取ってください。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（1）実務期間 2002年10月～2006年3月 （2）所属機関 西東京市児童養護施設 （3）実務内容 児童指導員として、2歳半から18歳までの児童の生活支援を行う。児童棟担当兼副リーダーとして、学校や児童相談所など関係機関との連絡調整や、保護者との面接、自立支援計画作成などを担当した。 （1）実務期間 2006年4月～2009年3月 （2）所属機関 豊島区私立幼稚園 （3）実務内容 4、5歳児クラス担当教員として、年間計画、月案、週案、日案を作成し、それに
-------------	---

沿って集団遊び、絵画、音楽表現、鉄棒跳び箱等の運動などの主活動や、遠足や音楽会・発表会などの行事計画を立案・実行した。また保護者会、授業参観、個人面談などを行った。

(1) 実務期間

2009年4月～2012年3月

(2) 所属機関

府中市私立保育園

(3) 実務内容

0,1,2,3歳児担当保育士として、発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また保育園内地域子育て広場事業にて、プログラムの講師担当となり、親支援プログラムを企画・開催した。また、園内外研修担当となり、府中市私立保育園連盟の講座講師や、進行役として、園の保育内容を検討する園内研修を行った。

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ

共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	300801 基礎教養	教室	401教室
授業表題	保育者としての社会への課題意識		
担当教員	鈴木 健史、中山 恵	実務経験	○

英語名称	基礎教養 (Basic Study)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期（火曜4限）、後期（火曜4限）
必修・選択	必修（保必）	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	○ 社会への広い視野を持ち、多様な価値観への理解力と主体的に学ぶ姿勢を身に付けることを目的とする。 ○ 保育を取り巻く現代の諸課題を取り上げつつ、保育者に必要な資料収集や分析力、表現する方法などを学ぶ。
授業の到達目標	・ 社会への関心を持ち視野を広げる。 ・ 資料を収集、分析し、プレゼンテーションすることができる。 ・ 自分の意見を伝え、議論することができる

◆授業計画	
1回	オリエンテーション、教養とは
2回	何をどう学ぶのか ースタディ・スキルズー
3回	より深いリーディングのために ー教養としての時事問題ー
4回	情報収集と整理
5回	アカデミックライティングの基本スキル
6回	わかりやすいプレゼンテーションのために
7回	保育を取り巻く課題①テーマ設定
8回	保育を取り巻く課題②資料収集・整理
9回	保育を取り巻く課題③プレゼンテーション資料の作成
10回	保育を取り巻く課題④プレゼンテーション資料の作成
11回	保育を取り巻く課題⑤発表

12回	世界の保育と子育て①多様な価値観への理解
13回	世界の保育と子育て②多様な価値観とその背景
14回	世界の保育と子育て③子ども観の生成
15回	まとめ・学ぶことは生きること

評価方法	授業時に課した課題、グループワークへの取り組み、発表、期末課題にて総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用せず、プリント・資料を配布します。
参考書（必要に応じて購入）	授業テーマに沿って適宜紹介します。
受講条件・ルール	積極的な姿勢を期待します。

授業時間外の学習（予習・復習等）	自らの問題意識に基づき調べた内容についてプレゼンテーションします。日頃から子ども・保護者・保育を取り巻くニュースや本の内容に関心を持ち、自分の考えが述べられるよう準備して臨みましょう。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○

共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現Ⅱ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現Ⅱ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現Ⅱ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	400201 保育原理	教室	405教室
授業表題	保育の理念や役割、制度、実践の理解および、保育の思想と歴史的変遷、保育の意義など保育の原理、内容の理解		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	保育原理 (Principles of Childcare)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	木曜2限
必修・選択	必修(保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	○ 本授業では、保育の基盤を成す理念や概念について学びます。 ○ 現代における保育をめぐる状況について理解し、「保育」とは何か、その意義や果たすべき役割について考えます。
授業の到達目標	○ 保育の成り立ち、理念を理解する。 ○ 保育の社会的役割と責任、制度的位置づけについて理解する。 ○ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容を理解する。 ○ 現代社会における保育の実態と課題を理解し、保育の今後のあり方を考える。

◆授業計画	
1回	保育の理念と概念 人が育つこと、人を育てることとは何であるか、保育の成り立ちやその仕組みについて学びます。 自宅学習 保育の理念と概念、シラバスを確認する,教科書の目次を読み、関心ある内容を書き出しましょう(4時間)
2回	保育の社会的役割と責任 保育現場における災害の備えについて、社会的責任という視点から具体的に学びます。 自宅学習 教科書第2講を読み、重要箇所をマークし、ノートにまとめましょう(4時間)
3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令 新制度創設の趣旨と概要について学びます。 自宅学習 保育の制度的位置づけ 教科書第3を読み、地域型補遺k、地域子ども・子育て支援事業の概略をまとめておきましょう(4時間)
4回	保育の実施体系 新制度移行後の保育施設の設置や運営基準について学びます。 自宅学習 子ども・子育て支援新制度移行により、保育の実施体系は大きく変化をしましたが、具体的にどのように変化をしたのかを、調べまとめておきましょう(4時間)
5回	保育所保育指針に基づく保育 改定によってより総合性が図られたが、その背景や共通する事項について学びます。

	自宅学習 保育所保育指針、幼稚園教育要領の変遷を理解するために、図書などで調べまわしておきましょう（5時間）
6回	保育の目標と方法 小学校以降の学びと、乳幼児期の遊びがどのように関連しているのか学びます。 自宅学習 乳幼児期の保育に遊びがどのような意味があるのかを考えまわしておきましょう（5時間）
7回	乳児の保育 改訂された保育所保育指針にある乳児保育の内容を理解するとともに、具体的な援助やかかわりについて学びます。 自宅学習 近年、保育の需要が高まり、特に低年連の保育の場が必要となっています。なぜ、保育の需要が高まったのか、調べまわしておきましょう（4時間）
8回	1歳以上3歳未満児の保育 1, 2歳児の発達過程や保育の基本をふまえ、改訂された保育所保育指針に明記された1歳以上3歳未満児の保育の内容の理解について学びます。 自宅学習 1歳以上3歳未満児の保育の具体的な関わりとはどのようなことであるか、調べまわしておきましょう（4時間）
9回	3歳以上児の保育 人権意識や社規制の基礎を培い、世界への関心や多方面への知性の扉を開く、幼児期の保育のあり方について学びます。 自宅学習 3歳以上児の時期は他児への関心が深まり、人格形成の基礎が培われます。どのようにして他児への深まりができるのか、調べまわしておきましょう（4時間）
10回	子ども理解の基づく保育過程①理論編 子どもは主体的に人や事物に興味をもち、探求を深めていく。子の保育の過程（プロセス）について学びます。 自宅学習 子どもへの理解を深め、環境を構成し、援助の工夫を施し、保育の計画を立ててみましょう（5時間）
11回	子ども理解に基づく保育の過程②実践編 子どもにとってふさわしい生活が展開できる計画を全職員が共通理解をもって計画することの必要性について学びます。 自宅学習 学びの連続性を考えた小学校との接続について、自分の言葉で他者に説明できるようにしておきましょう（4時間）
12回	諸外国の保育の思想と歴史 諸外国の保育の思想と歴史の学習を通して、現代の保育の基本理念に関する理解を深めることを学びます。 自宅学習 諸外国の保育の歴史や思想家について事前に調べまわしておきましょう（5時間）
13回	日本の保育の思想と歴史 日本の教育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりを学び、私たちの今をより深く考え学びます。

	自宅学習 日本の保育の歴史や思想家について事前に調べまとめておきましょう（５時間）
14回	諸外国の保育の現状と課題 文化を継承しつつ、より良い未来の保育を創造するために広い視野で学びを深めます。 自宅学習 場所が異なると保育も異なります 地域や国でどのような違いがあるのか調べまとめておきましょう（２時間）
15回	日本の保育の現状と課題 今日的課題を整理し、まとめ、よりよい保育制度は何かを考え学びを深めます 自宅学習 今までの学習を振り返り整理しましょう（１時間）

評価方法	授業態度、授業内課題・提出物（５０％）、期末試験（５０％）により総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	新基本保育シリーズ1「保育原理」,中央法規出版
参考書（必要に応じて購入）	授業内で適宜紹介します。
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机の上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	【事前学習】教科書の該当章を読み、わからないことやさらに知りたいことを明確にする。必要であれば、授業前に自分で調べてノートにまとめる。 【事後学習】配布されたプリント・教科書の該当章を再読し、自身の理解度を確かめる。わからない内容がある場合は、友人や担当教員に質問し理解を深める。 *次回授業までに取り組む課題を出す場合もあります。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経験がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	◎

共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	411001 保育内容「環境」の指導法	教室	401教室
授業表題	領域及び保育内容の指導法に関する科目 環境		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	保育内容「環境」の指導法 (Guidance Method : Environment)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜3限
必修・選択	必修（幼必、保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	○ 保育所保育指針・幼稚園教育要領などに示された領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深めていく。 ○ 双方対話型、グループワークを通して、幼児が経験し身に付けていく内容と実践を関連できるよう考え、実際に取り組み学ぶ。
授業の到達目標	1. 領域（環境）についての理解を深め、保育の現場で活用することができるようになる 2. 領域（環境）の視点から、指導計画や指導案の考え方や具体的な展開方法を身につけ実践できるようになる

◆授業計画	
1回	領域「環境」の意義と課題 現代社会の置かれている現状から領域「環境」の意義を捉えることを学びます 自宅学習 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み解きましょう（4時間）
2回	ねらい及び内容における「環境」 「環境」のねらいや内容とは何か、その意義や役割を学びます 自宅学習 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の意味を説明できるようにしておきましょう（5時間）
3回	子どもの発達と環境 発達と環境の関わりについて学びます 自宅学習 子どもの環境に向かう力と発達、幼児期の環境を通した総合的な学びとは何であるか、参考資料などを用いて、学びを深めましょう（4時間）
4回	0歳児の発達と「環境」 生後から1歳児未満までの発達の特性を踏まえ、物的環境・人的環境を通して、子どもに育つものは何かを考え学びます 自宅学習 保育者は大事な人的環境であると自覚する必要があります。それは、何故であるか自分の言葉で他者に説明できるようにしておきましょう（5時間）

5回	1歳以上3歳未満児の発達と「環境」 1歳児・2歳児それぞれの発達の特性を理解し、「物的環境・人的環境」と関わりを通して、子どもに育つものは何かを考え学びます 自宅学習 1歳児の発達と特性・2歳児の発達と特性について事例をもとに学びを深めましょう（4時間）
6回	3歳以上児の発達と「環境」 3歳児～5歳児の子どもたちにとっての環境づくりと保育者に求められる指導・援助について考え学びます 自宅学習 3歳児・4歳児・5歳児の発達と「環境」の違いや個と集団における発達への援助について自分なりに調べまとめておきましょう（4時間）
7回	5歳児後半の環境と小学校との接続 就学前の子どもたちにとっての環境づくりと保育者に求められる保育内容とその目的について学びます 自宅学習 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の小学校との接続を熟読しておきましょう（5時間）
8回	自然との関わり 自然との関わりを通して育つものを中心に、自然環境と保育内容の関係について、考え学びます 自宅学習 自然とのかかわりを通して学ぶもの、生物を通して自然を意識するとは、どのようなことであるか、調べまとめておきましょう（4時間）
9回	園内環境 保育所、幼稚園、認定こども園の園内環境について学びます 自宅学習 園内環境の意義 安心できる環境、夢中になれる環境とは何であるか、調べまとめておきましょう（5時間）
10回	園外環境 園外環境ならではの意義は何であるか、園外環境で保育を行う際の注意点は何か学びます 自宅学習 第10章の演習問題、自宅学習をしておきましょう（5時間）
11回	指導計画と環境 指導計画と環境について学びます 自宅学習 指導計画作成に向けて相手に伝わる文面を書けるように自主学習をしましょう（4時間）
12回	多文化・障害のある子どもの環境 多文化や障害のある子どもに視点を当てて必要な環境について学びます 自宅学習 インクルーシブ教育・保育とは何であるか自分で調べまとめておきましょう（4時間）
13回	地域環境との関わり 子どもたちの社会性の育ちを育むためには何が必要であるかを学びます

	自宅学習 自分が住む地域には企業、店舗、地域団体、交通機関、教育施設、福祉施設などさまざまな施設、団体に関わる人がいます。どのような関りをしているのか実際に地域の人と交流し、調べまわしましょう（3時間）
14回	保育者の環境 穂いk者が保育の質を上げ、保育を活性化するためには何が必要あるか学びます 自宅学習 保育者の専門性とは何か、資料などから調べまわしましょう（4時間）
15回	まとめ 保育内容「環境」が、理解できているかの確認

評価方法	授業参加態度および課題提出、グループワークへの参加・発発50%、 期末試験50% などから総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	事例と演習でよくわかる 保育内容 領域「環境」 中央法規
参考書（必要に応じて購入）	・幼稚園教育要領（フレーベル館） ・保育所保育指針（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の予習、復習には約2時間程度必要です。 課題に対しては約3時間程度必要となります。 （合計30時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	配布された資料や重要ポイントをまとめ、復習をしましょう

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所(施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	

共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現Ⅱ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現Ⅱ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現Ⅱ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	411501 子どもと環境	教室	405教室
授業表題	子ども 環境		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	子どもと環境 (Child and Environment)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	水曜3限
必修・選択	必修 (幼必、保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	子ども一人ひとりの成長や発達を保障するために、どのような環境が望ましいのかを考え、保育を計画し、子どものニーズに応じた環境構成を学ぶ、また、知識だけでなく、保育者としてのあるべき姿勢を体得していくとともに、事例や写真、演習等多く取り入れながら学んでいく。
授業の到達目標	○ 子どもの発達に応じた環境構成を考えられるようになる ○ 子ども一人ひとりの探究心や好奇心が育ち育めるよう、適切な環境を整えられるようになる

◆授業計画	
1回	○ フォトランゲージ ○ 領域「環境」における保育および教育の目標 子どもの育ちをめぐる環境の変化について学びます 自宅学習 教科書23ページを熟読し、演習を進めておきましょう (2時間)
2回	領域「環境」の意義 子どもと環境との関わりについて学びます 自宅学習 教科書35.36ページを熟読し、演習を進めておきましょう (2時間)
3回	人的環境との関わり 子どもが出合う人的環境について学びます 自宅学習 教科書50ページを熟読し、演習を進めておきましょう (2時間)
4回	身近な生き物や自然との関わり 身近な生き物と関わることの意義について学びます 自宅学習 教科書58ページを熟読し、演習を進めておきましょう (2時間)
5回	身近な素材と道具との関わり 環境と私、保育者の意識について学びます 自宅学習 教科書79ページを熟読し、演習を進めておきましょう (2時間)
6回	地域社会・施設との関わり これからの保育、地域社会との関わりについて学びます

	自宅学習 教科書90ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
7回	情報機器との関わり 社会の情報化、教育の情報化と保育について学びます 自宅学習 教科書106ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
8回	数量や図形との関わり 子どもと数量、子どもと図形との関わりについて学びます 自宅学習 教科書118ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
9回	標識や文字などに関心をもつ 保育における標識について学びます 自宅学習 教科書126ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
10回	文化や伝統、行事などに親しむ 保育の場における年中行事と子どもに育つものについて学びます 自宅学習 教科書139ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
11回	子どもの安全環境 安全のための活動について学びます 自宅学習 教科書149ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
12回	小学校との連携 小学校との連携の必要性について学びます 自宅学習 教科書161ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
13回	領域「環境」と保育の展開 指導計画と実践について学びます 自宅学習 教科書181ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
14回	領域「環境」をめぐる時代的な課題 さまざまな経験を積む環境づくりについて学びます 自宅学習 教科書194ページを熟読し、演習を進めておきましょう（2時間）
15回	まとめ これまでの学び定着と理解度の確認

評価方法	授業参加態度、課題提出、グループワークへの参加及び発表：50%、 確認テスト50%
テキスト（必ず購入）	〈領域〉 環境ワークブック ―基礎理解と指導法― 萌文書林

参考書（必要に応じて購入）	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フレーベル館
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机の上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業計画、各回「自宅学習」記入内容について取り組んでください。 大凡自宅学習要時間は各2時間程度合計30時間程度
試験・レポート等のフィードバック方法	配布資料や参考文献を確認しましょう

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	412001 保育者論	教室	405教室
授業表題	保育者の専門性および向上と研鑽		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	保育者論 (Theory of Nursery Teacher)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択 (保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	本授業では、保育の役割と倫理について・保育士の制度的位置づけ・保育士の専門性についての考察・保育者の連携・協働・資質向上とキャリア形成について理解することを目的とします。
授業の到達目標	○ 保育の役割と倫理について理解する ○ 保育士の制度的な位置づけを理解する ○ 保育士の専門性についての考察し、理解する ○ 保育者の連携・協働について理解する ○ 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する 保育者に求められる専門性を身につける。

◆授業計画	
1回	保育者の役割・職務内容 保育士の役割と幼稚園教諭の役割を学びます。 自宅学習 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読みましょう (4時間)
2回	保育者の倫理 保育者に必要な倫理 (専門的倫理) を押さえるとともに、日々の業務に活かし、高めることについて学びます。 自宅学習 全国保育士会倫理綱領を読みましょう (4時間)
3回	保育者の◇と責務 保育士の法的・制度的な特質を学びながら、その資格のあり方や責務についても学びます。 自宅学習 保育という仕事が法的・制度的にどのような仕事として位置づけられているのか自分で調べまとめておきましょう (5時間)
4回	保育者の資質・能力 保育の対象やチームワーク・協働性に求められる要素について学びます。 自宅学習 保育者は、どのような資質と能力を備えておきべきであろうか。図書など参考資料から調べまとめておきましょう (5時間)
5回	養護及び教育の一体的展開 養護と教育が一体となった保育実践を事例に基づいて学びます。 自宅学習 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読みましょう (5時間)

6回	家庭との連携と保護者に対する支援 保育所等を利用する保護者に対する支援と地域子育て支援の実際について学びます。 自宅学習 子育て支援の基本、地域や関係機関との連携の必要性を理解するために、地域にどのような児童福祉施設があるか調べまわっておきましょう（4時間）
7回	計画に基づく保育の実践と省察・評価 保育の計画と省察 PDCAサイクルのあり方について学びます。 自宅学習 自身の生活の中で行っているPDCAサイクルについて考えてみましょう（4時間）
8回	保育の質の向上 保育の特性をふまえ、その質を向上させるための評価のあり方を、個と仲間の相互関係や個を見る視点、全体を把握する視点について具体的に学びます。 自宅学習 集団保育と個別保育について自分の言葉で他者で説明できるようにしておきましょう（5時間）
9回	保育における職員間の連携・協働 保育における協働の広がりとその可能性について学びます。 自宅学習 保育はチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、職員間の連携が重要である。なぜ、重要であるのか調べまわっておきましょう（5時間）
10回	専門職間および専門機関との連携・協働 保育現場における専門機関との連携や協働がどのように行われているのかを具体的に学びます。 自宅学習 自身の地域には、どのような医療機関があるのか、調べまわっておきましょう（4時間）
11回	地域社会との連携・協働 保育現場における地域社会との連携や協働がどのように行われているのかを具体的に学びます。 自宅学習 昨今多発自然雑質から子どもを守るには保育者はどのようなことが必要であるか、調べまわっておきましょう（4時間）
12回	関係機関等との連携 さまざまな子育て家庭のニーズに対応できる保育制度の選択しとして期待されている地域型保育事業の概要や連携について学びます。 自宅学習 地域型保育事業や家庭的保育の概要や実態を調べまわっておきましょう（5時間）
13回	資質向上に関する組織的取組 保育所保育指針 第5章 職員の資質向上をふまえ、資質向上に関する組織的取組の考え方について学びます。 自宅学習 自身の生活の中での改善点を見つけ、どのようにすると質の向上になるか考えてみましょう（2時間）
14回	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 専門性の発達をふまえたキャリアパス、保育士のキャリア形成の実際について学びます。

	自宅学習 保育者研修はどのような研修があるか調べまわしておきましょう（4時間）
15回	保育におけるリーダーシップ 個々の保育者の力を十分に出し合えるようなリーダーシップについて学びます。

評価方法	授業態度及び提示する課題・提出物（50%）、期末試験(50%)により総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	新 基本シリーズ7 保育者論 中央法規
参考書（必要に応じて購入）	授業内で適宜紹介します。
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机の上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	【事前学習】教科書の該当章を読み、わからないことやさらに知りたいことを明確にする。必要であれば、授業前に自分で調べてノートにまとめる。＊各回1時間程度 合計15時間 【事後学習】配布されたプリント・教科書の該当章を再読し、自身の理解度を確かめる。わからない内容がある場合は、友人や担当教員に質問し理解を深める＊各回1時間程度 合計15時間 ＊次回授業までに取り組む課題を出す場合もあります。
試験・レポート等のフィードバック方法	office365あるいは立短ポータルを使い解答例を配信

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経験がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	◎
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	

現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	402701 教育実習指導	教室	301教室 401教室
授業表題	教育実習事前・事後指導		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	教育実習指導 (Instruction of Teaching Training)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期 (月曜1限)、後期 (木曜1限)
必修・選択	選択 (幼必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	○ 幼稚園実習の目的・内容・方法を理解し実習に臨むための、基礎的知識や技術、心構えを身につける。 ○ 具体的には、関係書類の書き方や観察の仕方、記録の取り方や保育技術を身につける。 ○ 実習後は、実習経験を踏まえたグループディスカッション等を通して振り返りを行い、理論と実践を結びつけながら、自身の保育観の形成を目指す。
授業の到達目標	○ 幼稚園実習Ⅰの意義を理解し、自己課題を明確にした上で万全の準備をする。 ○ 実習の記録、指導案を作成できるようになる。 ○ 実習で求められる保育技術を身につける。 ○ 実習での学びを言語化し、他者に伝えるようになる。 ○ 他者の経験や学びを聞き、自身の視野を広げ、多面的な理解ができる視点を身につける。 ○ 幼稚園実習Ⅱに向けて、目標をたてそのために必要な力を身につける。

◆授業計画	
1回	実習ガイダンス、幼稚園実習の意義と目的、実習園への依頼について
2回	1年時の実習の流れ、内容、方法の理解
3回	教育実習までの手続きと心構え
4回	幼稚園における保育の概要と1日の流れ
5回	実習関係書類について、公文書の記入
6回	実習園とのオリエンテーションに向けて
7回	実習日誌の書き方①
8回	実習日誌の書き方②
9回	公文書の記入 実習後の実習園との関わり

10回	ボランティア実習について
11回	教育実習に向けた自己課題の明確化
12回	巡回指導の意味、評価について
13回	幼稚園実習Ⅰ直前オリエンテーション
14回	幼稚園実習Ⅰの振り返り、自己評価
15回	幼稚園実習Ⅰの体験報告会

評価方法	実習に向けての態度・提出物の状況・授業への参加態度等総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	必要に応じて資料を配布します
参考書（必要に応じて購入）	授業時に適宜紹介します。
受講条件・ルール	○ 本授業は、前期・後期あわせて15回の授業です。 ○ 授業開講日を確認し間違いのないよう受講すること。 ○ 幼稚園教諭免許取得授業です。 ○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	講義内で課題や提出物を指示します。締め切りを守り提出してください。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞）
-------------	--

- ・行政地域福祉実行委員
- ・民間子育てネットワーク監事
- ・双子サークル団体顧問

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	◎
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	411701 保育教材研究	教室	301教室 401教室
授業表題	教材研究		
担当教員	中山 恵、新居 直美	実務経験	○

英語名称	保育教材研究 (Research of Childcare Teaching Materials)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期 (月曜1限)、後期 (木曜1限)
必修・選択	選択 (保選必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育実践の場や、実習で使用する保育教材についての知識や技術を身につけていく。		
授業の到達目標	○ 保育教材を作ることができるようになる ○ 保育教材を用いて演じることができるようになる ○ 保育実践の場に使える教材について理解できるようになる		

◆授業計画	
1回	オリエンテーション、図書館探索 保育教材について学びます。
2回	紙皿シアター製作 紙皿シアターの素案から製作までを学びます。
3回	紙皿シアター発表 自身が製作した紙皿シアターを発表し、学びを深めます (全体発表)
4回	スケッチブックシアター スケッチブックシアターの素案から製作までを学びます。
5回	スケッチブックシアター 自身が製作したスケッチブックシアターを発表し、学びを深めます (全体発表)
6回	名札作り製作 名札作りの素案から製作までを学びます。
7回	名札作り 自身が製作した名札作りの内容を発表し、学びを深めます (全体発表) エプロンシアター製作の素案を考えます
8回	絵本について知ろう 絵本についてのさまざまな事柄を学びます。
9回	絵本の読み聞かせ (グループ) グループごとに分かれて絵本の読み聞かせを行います
10回	エプロンシアター発表

	自身が製作したエプロンシアターを発表し学びを深めます（提出）
11回	絵本の読み聞かせ（全体） 全体で絵本の読み聞かせを行い、学びを深めます
12回	保育のおもちゃ製作 保育のおもちゃについて学びます
13回	手袋シアター製作① 手袋シアターについて素案から製作までを学びます。
14回	手袋シアター製作② 製作続きを行い学びます
15回	手袋シアター 自身が製作した手袋シアターを発表し学びを深めます（提出）

評価方法	授業参加態度・課題提出および授業内の実技試験などから総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	必要に応じて資料を配布
参考書（必要に応じて購入）	適宜紹介する
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の予習、復習には約2時間程度必要です。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・ 1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・ 保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・ 2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・ 保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・ 絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・ 子どもの絵本専門家取得 ○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容
-------------	--

	・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
--	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現11：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現12：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現13：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	411801 保育の記録と計画	教室	401教室
授業表題	保育者の専門性、保育実践における技術		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	保育の記録と計画 (Record and Plan of Childcare)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	月曜3限
必修・選択	選択 (保選必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	○ 保育記録の目的や意義を理解し、演習を通して記録を書く技術を身につける。 ○ 記録や日誌を漢字で書けるようにする ○ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた指導計画（指導案）の内容、作成の手順を理解し、実際に指導計画（指導案）を作成する。
授業の到達目標	○ 保育記録を書く目的を理解し、実際に記録を書く力を身につける。 ○ 指導計画（指導案）の内容、作成手順を理解し、指導計画を作成する力を身につける。 ○ PDCAサイクルを身につける。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション、本科目の目的
2回	保育記録の目的、種類
3回	記録から何を読み取るか
4回	記録の書き方①
5回	記録の書き方②
6回	記録の書き方③
7回	記録の書き方④
8回	保育の計画とは
9回	指導案作成の手順と内容
10回	指導案作成の手順と内容

11回	指導計画の立て方（指導案の書き方）①
12回	指導計画の立て方（指導案の書き方）②
13回	指導計画の立て方（指導案の書き方）③
14回	指導計画の立て方（指導案の書き方）④
15回	まとめ・課題の明確化

評価方法	提出物の状況50%・授業への参加態度等50%総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フルーベル館 「幼稚園教育要領」フルーベル館
参考書（必要に応じて購入）	授業内で適宜紹介します。
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机の上に置かな

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業内で示された課題に積極的に取り組むこと。毎回の授業内容を整理し、確認すること。疑問点は、質問する、自分で調べるなどし理解を深めること。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経験がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	。

共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	410101 乳児保育I	教室	407教室
授業表題	乳児 保育 I		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	乳児保育I (Infant Care I)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜1限
必修・選択	必修（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	乳児保育の意義や目的と役割をはじめとして、乳児保育の現状と課題について理解を深めていく。また、乳児保育の内容や関係機関等との連携について学ぶ。授業計画は予定であり状況に応じて前後することもある。
授業の到達目標	1. 乳児保育の意義、目的と役割、乳児保育の現状と課題について理解する 2. 乳児保育の内容や体制を理解する 3. 職員間の協働や関係機関等との連携を理解する

◆授業計画	
1回	乳児保育とは何か 「乳児保育」の定義や意義について学びます。また、養護および教育の一体性についても学んでいきます。 自宅学習 本日の学びを自分の言葉で他の人に説明できるようにまとめておきましょう。また、乳児保育が行われている場所とその内容についてまとめておきましょう（4時間）
2回	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 子どもや子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学びます。 自宅学習 新聞やデバイスを閲覧し、今現在起きている子育ての課題を調べておきましょう（4時間）
3回	保育所における乳児保育 保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状について学びます。 自宅学習 社会問題となっている待機児童について 自分の地域ではどのような現状であるか調べましょう（5時間）
4回	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 乳児院を中心に、乳児院の役割と支援方法を理解し、乳児保育の基礎的理解を深めていきます。 自宅学習 自分の地域にはどのような児童福祉施設があるのか、また、その施設の機能はどのようなものであるかについて調べまとめておきましょう（5時間）
5回	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 家庭的保育・小規模保育等の地域型保育の概要と乳児保育の実際について学びます。 自宅学習 0歳～2歳を対象とした定員1～19名の保育の特徴、課題を把握し、実際にどのような保育が行われているのかをまとめておきましょう（4時間）

6回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 子育て支援が必要とされる背景を知り、子どもと保護者の現状を理解し、具体的な支援を紹介し、その目的や方法を学びます。 自宅学習 子育て支援において必要とされる保育者の専門性を活かした支援とは何であるか考え、調べておきましょう。（5時間）
7回	3歳未満児の生活と環境 この時期の子どもの生活を環境の側面からとらえ、保育の方法である環境を通した保育とはいかにについて学びます。 自宅学習 子どもが安全・安心で情緒の安定した生活を送るなかで、その育ちを支えるための保育環境を構成するとはどのようなことか、自分で知らべてみましょう（4時間）
8回	3歳未満児の遊びと環境 0歳～3歳未満児が遊びを通してどのように発達していくのか、また、遊びが環境との相互作用によって展開されていくのかについて学びます。 自宅学習 乳児保育室の環境を、自分の言葉で他者に説明できるように調べておきましょう（1時間）
9回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 子どもたちの発達の連続性について指針をふまえ、養護と教育の視点も加えながら、3歳以上児の保育につながる以降までを年連別に学びます。 自宅学習 3つの視点、5領域のねらいと内容の取扱いを再度確認し、ねらいの違い等について確認しておきましょう（5時間）
10回	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり 保育所保育指針の乳児保育に関する記載についてポイントを理解し、乳児保育の原則に沿って発達を考慮しながら保育を進めることを理解します。 自己課題 0歳～3歳未満児の発達の様相と援助のポイント、配慮事項は何であるか調べたり、聞いたりして、自分の意見をまとめましょう（4時間）
11回	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 発達に応じた安全・安心の保育をすすめるためには保育者はどのような配慮をすればよいのか保育所保育指針に即して学びます。 自宅学習 心身の機能が未熟であるため用語の側面、つまり生命の保持と情緒の安定が重要になるのはなぜであるか、これまで学習を振り返りまとめましょう（4時間）
12回	乳児保育の計画・記録・評価とその意義 保育計画の概要を学び、指導計画から実践記録、評価までの流れを事例などとともに理解していきます。 自宅学習 発達にふさわしい保育内容を子どもたちに提供するためには、計画的に保育を進めることが不可欠です。対象年齢を自分で決め、保育計画を作成してみましょう（4時間）
13回	職員間の連携・協働 子どもにとって、保護者にとって、保育者とはどのような存在であるかを考えながら、求められ

	る専門性や人間性に理解し学びます。 自宅学習 保育現場での保育者同士のチームワークの実際や、連携協力はどのように進めているのかを調べておきましょう（4時間）
14回	保護者との連携・協働 乳児保育において、子どもの健やかな育ちを実現するためには、保護者と保育者がどのように連携すればよいのかを学びます。また、自治体や地域の関係機関等との連携・協働についても学びます。 自宅学習 今迄の学習全体を復習しておくこと（6時間）
15回	まとめ 今迄の授業の内容の理解度を確認する。

評価方法	授業参加態度・課題提出50%、期末試験など50% 総合的に評価
テキスト（必ず購入）	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 「保育所保育指針」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フルーベル館 「幼稚園教育要領」フルーベル館
参考書（必要に応じて購入）	適宜紹介する
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の予習、復習に3時間～6時間程度必要です。 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所（施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ

共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	○
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	410201 乳児保育II	教室	405教室
授業表題	乳児 保育 II		
担当教員	中山 恵	実務経験	○

英語名称	乳児保育II (Infant Care II)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜4限
必修・選択	必修（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	3歳未満児の発達や発達に即した生活や遊びについてや、乳児保育の方法や環境の構成について、また、乳児保育における配慮の実際について学ぶ。
授業の到達目標	1．3歳未満児の発達に即した生活や遊びについて理解する。 2．乳児保育の方法や環境の構成について理解する。 3．乳児保育における配慮の実際について理解する。

◆授業計画	
1回	乳児保育の基本 応答的なかわりや共感性が子どもの言葉の発達や社会性の獲得と密接な関係にあることについて学びます。 自宅学習 子どもと環境との相互作用、特に保育者との応答的なかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか考え、まとめましょう（4時間）
2回	子どもの生活の流れ 0歳児クラス 乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしていける方法を学びます。 自宅学習 0歳児の生活ディリープログラムについて調べておく、わからないことは授業内で確認できるようにしておきましょう（5時間）
3回	子どもの保育環境 0歳児クラス 乳児にとって心地よい室温や環境や発達をうながす玩具について学びます。 自宅学習 保育室内における物的環境をどのように取り扱うのか考え、製作する（6時間）
4回	子どもの援助の実際 0歳児クラス 生活の遊びの援助の実際について学びます。 自宅学習 養護が生活の中心であること、3つの視点、遊びからの援助が必要である。どのような遊びの援助が必要であるか、考え自分の言葉で他者に伝えるようにしましょう（4時間）
5回	子どもの生活の流れ 1歳児クラス 子どもの生活を24時間でとらえるために必要となる家庭との連携について学びます。 自宅学習 1歳児クラスのディリープログラムを調べ、確認しておきましょう（4時間）
6回	子どもの保育環境 1歳児クラス 1歳児クラスにおける環境設定や、地域性における工夫などについて学びます。

	1 歳児クラスでは基本的な生活習慣について自分でやろうとする姿が多くみられるようになります。具体的にどのような姿が見られるようになるのか、調べ発表できるようにしておきましょう（5 時間）
7回	子どもの援助の実際 1 歳児クラス 保育者が子ども同士姉妹立ちとして重要な意味をもつ時期。生活と遊びの両面から、具体的な援助について学びます。 自宅学習 保育者は子どもの気持ちを尊重し、余裕をもって見守り、援助を行うことが必要であるが、どのような余裕をもてばよいのかを考え自分の言葉で他者に説明できるようにしておきましょう（4 時間）
8回	子どもの生活の流れ 2 歳児クラス 生活習慣の自立をうながすための環境構成や、保育者のかかわりとは何かについて学びます。 2 歳児クラスの一日の流れを考え、振り返りをしておきましょう（4 時間）
9回	子どもの保育環境 2 歳児クラス 物的環境の玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するのかを学びます。 自宅学習 手指等の身体的な発達に加えて内面の育ちが著しく発達する時期の 2 歳児クラスにとって、適している玩具とはどのような玩具であるか考え、イラストに残しておきましょう（4 時間）
10回	子どもの援助の実際 2 歳児クラス 保育所保育指針に示されている「育みたい資質・能力」について 2 歳児の育ちについて学びます。 自宅学習 3 歳児以降の保育の基盤となる時期の子どもたちの発達をうながす視点が大切ですが、どのような視点が大切であるか自分の言葉で他者に説明できるようにしておきましょう（4 時間）
11回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 子どもが安全に過ごすために必要となる保育者の気づきやかかわりについて学びます。 自宅学習 子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とな何かを保育所保育指針を確認し、現状で起こっている事故などについて調べましょう（4 時間）
12回	集団での生活における配慮 乳児の集団での生活における配慮として、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学びます。 自宅学習 保育所の特性から集団保育の難しさ感じる場面も想定される。どのような場面が想定されるか調べ、自分の言葉で他者に伝えられるようにしましょう（4 時間）
13回	環境の変化や移行に対する配慮 移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助の在り方に関する基本事項を学びます。 自宅学習 3 歳未満児における環境の変化や移行の際に、保育者がどのような配慮をしていくことが望ましいか、いままでの学びを参考にまとめておきましょう（4 時間）
14回	長期的な指導計画と短期的な指導計画ならびに個別的な指導計画と集団の指導計画 保育過程を含む保育計画や食育計画等の先性について学びます。

	自宅学習 一人ひとりの子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態などに即した計画を作成してみましょう（4時間）
15回	まとめ 今迄の授業のまとめとして、理解度、知識の定着を確認する。

評価方法	授業参加態度・課題提出50%、期末試験など50% 総合的に評価
テキスト（必ず購入）	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領」フルーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フルーベル館
参考書（必要に応じて購入）	適宜紹介する
受講条件・ルール	○ 授業時の私語、携帯電話（スマートフォン）等の電子デバイスの使用は厳禁 ○ 必要物は授業前に準備 ○ 授業に不必要物は机上に置かない

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の予習、復習に約1時間程度必要です。 その他、課題等で合計15時間程度となります。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	○ 実務内容及び期間 一時預かり保育（責任者）、公立学童クラブ（非常勤、障害児担当）、民間学童クラブ（施設長）、子育て支援拠点（施設長）、私立保育所(施設長）にて、25年の経歴がある。 ○ 研究学会及び内容 ・一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 子育て・子育て特別研究委員会所属（子育て支援研究） ・一般社団法人日本保育学会 保育者の専門性についての研究 ○ 地域支援 ・任意団体 子育て支援S A Nの会018 役員（令和3年度 東京都女性活躍推進大賞特別賞受賞） ・行政地域福祉実行委員 ・民間子育てネットワーク監事 ・双子サークル団体顧問
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	

現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	402801 教育実習指導（責任実習）	教室	401教室
授業表題	教育実習事前・事後指導		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	教育実習指導（責任実習）（Instruction of Teaching Training）		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	1年次の実習経験を踏まえ、幼稚園実習の目的、内容、方法を確認し、責任実習に臨む知識や技術、心構えを習得する。より詳細な観察、ふさわしい記録、保育技術のありかたを学ぶ。実習後は、経験を踏まえたグループ討議等を通して振り返りを行い、理論と実践を結びつけ自身の保育観の形成を目指す。
授業の到達目標	・ 幼稚園実習IIの意義を理解し、自己課題を明確にした上で万全の準備をする。 ・ 実習時期、年齢、クラスの状況に応じた指導案を作成できるようになる。 ・ 就職を見通しながら、保育技術を高める。 ・ 自分の実習での学びを言語化し、他者に伝える。 ・ 他者の経験や学びを聞き、実践を多面的に理解する。 ・ 今後の実習及び就職に向け、目標を立て、そのために必要な力を身につける。

◆授業計画	
1回	実習ガイダンス、幼稚園実習IIの意義と目的の理解 自宅学習（1時間） 1年生で行った幼稚園実習日誌を見直しておく。
2回	責任実習を想定し、指導計画（案）の作成 実習関係書類の確認 自宅学習（1時間） 事前学習：責任実習に向けて指導計画案（活動）を考えてくる。 事後学習：授業の復習をする。
3回	実習関係書類の作成 自宅学習（1時間） 書類に必要な情報を調べる。 書類作りに必要なものを準備する。
4回	責任実習に向けて①（模擬保育） 自宅学習（1時間） 模擬保育の振り返りをする。
5回	責任実習に向けて②（模擬保育） 自宅学習（1時間） 模擬授業の振り返りをする。
6回	責任実習に向けて③（模擬保育） 自宅学習（1時間） 模擬授業の振り返りをする。
7回	責任実習に向けて（個別指導） 自宅学習（1時間） 幼稚園実習の方は、実習準備をする。 授業の方は、指導案の作成をする。

8回	責任実習に向けて（個別指導） 自宅学習（1時間） 幼稚園実習の方は、実習準備をする。 授業の方は、指導案の作成をする。
9回	責任実習に向けて（個別指導） 自宅学習（1時間） 幼稚園実習の方は、実習準備をする。 授業の方は、指導案の作成をする。
10回	実習の振り返り（個人） 自宅学習（1時間） 実習日誌を整える。
11回	実習の振り返り（個人・グループ） 自宅学習（1時間） 実習日誌を整える。
12回	実習の振り返り（グループ） 自宅学習（1時間） グループ発表に向けての準備をする。
13回	実習の振り返り（グループ） 自宅学習（1時間） グループ発表に向けての準備をする。
14回	実習の振り返り（グループ発表） 自宅学習（1時間） グループ発表の振り返りをする。
15回	まとめ、実習を通した学びの共有 自宅学習（1時間） 課題プリントをする。

評価方法	・実習に向けての態度・提出物の状況・授業への参加態度等総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	1年次と同じものを使用します。「学び続ける保育者をめざす実習の本」,萌文書林, 2017,著者久富陽子,善本真弓、幼稚園教育要領
参考書（必要に応じて購入）	授業時に適宜紹介します。
受講条件・ルール	・授業開講日を確認し間違いのないようにしてください。実習への参加可否への判断も入りますので、積極的かつ慎重に受講すること。 ・実習に向けての重要な連絡事項があります。必ず出席してください。 ・授業時に指定した課題を締切までに提出しなかった場合は、実習を取り消す場合もあります。気をつけてください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・講義内で課題や提出物を指示します。締め切りを守り提出してください。 ・授業前の課題として、指導案の作成や保育活動について調べてきてください。 ・授業後の課題として、模擬授業の振り返りや指導案の見直しを行ってください。 予習・復習 合計15時間
試験・レポート等のフィードバック方法	・指導案等の課題については個別指導を行いフィードバックします。

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年）
-------------	--

	(2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
--	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	403501 幼児教育教師論	教室	401教室
授業表題	保育者の専門性、専門的力量形成		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	幼児教育教師論 (Teacher Theory of Child Education)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	金曜3限
必修・選択	必修 (幼必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	この授業では、保育者・教師の役割を理解し、求められる専門性への理解を深めます。自己の保育者・教職への思いを確認しつつ、近年複雑で多様化する保育・教育ニーズに対応するための視点を身に付けます。保育者の同僚性、他領域の専門家との協働、地域社会との連携について学ぶことを通して、現代の保育者・教師に必要な資質・専門性を理解し、保育観・教育観を形成することを目的とします。
授業の到達目標	(1)保育者・教師の役割、専門性について理解する。 ・保育者の職務内容を理解している。 ・保育者・教師はどのような存在なのかを考える。 (2)現代の保育者・教師を取り巻く課題、諸問題について理解する。 ・保育を取り巻く課題、現代的特徴、その社会的背景を理解している。 ・現代の保育者・教師に必要な資質・専門性について理解し、自分の考えを持つ。 ・保育者の自己研鑽、研修制度の考え方を理解している。 (3)子ども理解に基づいた保育実践の構想過程を理解する。 ・子ども理解の諸側面について学び、その意味について考える。 ・教育要領、保育指針、認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育の基本となる考え方を理解する。 (4)保育者・教師集団の在り方、他領域との協働性について理解する。 ・保育者や教師の集団を取り巻く今日的課題を理解する。 ・保育者の同僚性を育む集団の在り方、職場環境について考える。 ・福祉、医療、心理など近接領域との取り組みを理解する。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 第1章 保育職の意義と保育者の使命 自宅学習 (4時間) 事前学習：教科書P9～18を読んでおく。 事後学習：課題
2回	第2章 幼稚園教諭の仕事と役割 自宅学習 (4時間) 事前学習：教科書P 20～28を読んでおく。 事後学習：課題
3回	第3章 保育士の仕事と役割 自宅学習 (4時間) 事前学習：教科書P 30～41を読んでおく。 事後学習：課題
4回	第4章 幼稚園・保育所・認定こども園「保育者の1日」 自宅学習 (4時間) 事前学習：教科書P 47～58を読んでおく。 事後学習：課題
5回	第5章 保育者の専門性—専門的能力の形成— 自宅学習 (4時間)

	事前学習：教科書P 60～79を読んでおく。 事後学習：課題
6回	第7章 保育者のネットワークと研修 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P100～107を読んでおく。 事後学習：課題
7回	第8章 これからの保育者に求められる多様な役割 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P109～116を読んでおく。 事後学習：課題
8回	保育者の役割①（動画から読み取る課題） 自宅学習（4時間） 今での授業の復習をする。
9回	実習園（幼稚園）での学びの報告会 自宅学習（4時間） 責任実習についてまとめておく。
10回	保育者の役割②（動画から読み取る課題） 自宅学習（4時間） 今までの授業の復習をする。
11回	第9章 保護者と向き合う保育者 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P118～129を読んでおく 事後学習：課題
12回	第10章 保育者の人間性 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P131～139を読んでおく 事後学習：課題
13回	保育者の役割を考える①（グループワーク） 実習から学んだことを話し合う 自宅学習（4時間） 課題
14回	保育者の役割を考える② 現場の声からの検討（グループワーク） 自宅学習（4時間） 課題
15回	保育者の役割を考える③（グループ発表） まとめ 自宅学習（4時間） まとめに向けての取り組む。

評価方法	授業中に提示する課題・提出物（40%）、発表（20%）まとめ（40%）により総合的に評価します。
テキスト（必ず購入）	幼稚園教諭・保育士のための 現代保育者論 改訂版 浅見均・田中正浩他
参考書（必要に応じて購入）	授業内で適宜紹介する。
受講条件・ルール	受講マナーを守り、積極的に受講しましょう。 教科書・ノートを持参してください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	【事前学習】教科書の該当章を読み、わからないことやさらに知りたいことを明確にする。必要であれば、授業前に自分で調べてノートにまとめる。＊各回2時間程度 合計30時間 【事後学習】配布されたプリント・教科書の該当章を再読し、自身の理解度を確かめる。わからない内容がある場合は、担当教員に質問し理解を深める＊各回2時間程度 合計30時間 ＊次回授業までに取り組む課題を出す場合もあります。
試験・レポート等のフィードバック方法	提出課題を添削し個別に対応する

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	404201 教職実践演習（幼稚園）	教室	401教室
授業表題	子どもの主体的な活動を保障する保育		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	教職実践演習（幼稚園）（Seminars for practical teaching）		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	金曜2限
必修・選択	選択（幼必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	現代の社会状況及び時代の変化に伴う子どもが育つ環境の変化を捉えた上で、幼児教育の場に求められる教育内容や、教員の役割について理解する。教員としての使命や職務について考え、自発的、積極的に自己の職務を果たそうとする姿勢を身に付ける。子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる資質・技術を身に付けることを目指す。
授業の到達目標	(1) これまで教職関連科目を通して身に付けた知識、技術を統合し、演習を通して幼稚園教諭としての実践力を高める。 ・幼稚園教育要領に基づく考え方、指導事項や内容を理解している。 ・教員としての使命感を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ・子どもの発達や心理の理論、保育内容に関する知識を根拠として保育内容を検討できる。 ・自ら主体的に教材研究を行い、それを活かした指導計画を作成する。 ・保護者や地域を理解し、連携・協力するためのコミュニケーションスキルを身に付ける。 (2) 教員としての職責や義務を理解し、組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行できる姿勢を身に付ける。 ・教員に求められる使命や倫理観について理解し、説明できる。 ・他の教職員の意見や助言を聞き、理解や協力を得ながら、考えを再構築できる姿勢を身に付ける。 ・教員になる上での自己の課題を認識し、その解決に向け、自己研鑽に励むなど、常に学び続ける姿勢を身に付ける。

◆授業計画	
1回	1. オリエンテーション、学生生活の振り返り・自分の強みと課題点を見つける 自宅学習（4時間） 事後学習：配布プリントの復習と課題をする。
2回	2. 「教職実践演習」の位置付けと制度 自宅学習（4時間） 事前学習：最近の幼稚園・保育園・認定こども園についてのニュースを3つ以上探してくる。 事後学習：復習
3回	3. 幼稚園教諭とは（保育者）の専門性の発達と「実践演習」 4. 保育の現場にふれる 自宅学習（4時間） 事前学習：配布プリントを読む。 事後学習：復習
4回	5. 幼稚園教諭（保育者）の使命感・責任感 6. 幼稚園教育における社会性や対人能力 自宅学習（4時間） 事前学習：配布プリントを読む。 事後学習：復習
5回	7. 子ども理解と集団づくり 8. 保育内容と援助

	自宅学習（4時間） 事前学習：配布プリントを読む。 事後学習：復習
6回	9. 自己課題の克服 10. 自分の「強み」をいかす取り組み 自宅学習（4時間） 事前学習：配布プリントを読む。 事後学習：復習
7回	11. 保育実践に向けての検討 自宅学習（4時間） 事前学習：保育活動を考える。 事後学習：グループで話し合いを進める。
8回	12. 保育実践に向けての取り組み① 自宅学習（4時間） 実践準備
9回	13. 保育実践に向けての取り組み② 自宅学習（4時間） 実践準備
10回	14. 保育実践に向けての取り組み③ 自宅学習（4時間） 実践準備
11回	15. 保育実践リハーサル①（グループ活動） 自宅学習（4時間） 保育実践準備
12回	16. 保育実践リハーサル②（グループ活動） 自宅学習（4時間） 保育実践準備
13回	17. 保育実践本番 自宅学習（4時間） 事前学習：保育実践の準備 事後学習：保育実践の片付け・レポート課題
14回	18. 保育実践の振り返り（グループ発表） 自宅学習（4時間） 事前学習：課題プリントをする。（保育実践の評価・反省） 事後学習：まとめに向けての課題プリントをする。
15回	19. 学修のまとめ 20. 自己の振り返り 21. 履修カルテ作成 自宅学習（4時間） 履修カルテをまとめる。

評価方法	授業中に提示する課題・提出物（60%）、発表（40%）と総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
参考書（必要に応じて購入）	授業時に適宜紹介する。
受講条件・ルール	課題を必ず提出してください。実践的な学びを深めるために積極的な参加を求めます。

	履修カルテを作成するため、A4のクリアファイルを一冊必ず準備してください。 ファイルのポケット数は30ポケット位が好ましい。
--	---

授業時間外の学習（予習・復習等）	次回授業に向けた課題を課すので、毎回課題に取り組むこと。 事前・事後学習 合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	適宜、個別・グループに対して助言を行います。

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	◎
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現ミ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現ミ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュタリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現ミ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	404101 幼児教育課程総論	教室	403教室
授業表題	幼児教育、保育課程、指導計画		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	幼児教育課程総論 (Preschool Education: General Remarks)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	金曜3限
必修・選択	選択（幼必、保選必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	この授業では、幼児の実態を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を念頭において編成される教育課程の意義と役割について学びます。実際に指導計画を策定することを通して、領域を超えて教育課程が編成され、日々の保育がなされることについても理解を深めていきます。		
授業の到達目標	・幼稚園教育要領をもとに編成される教育課程について、その意義や役割を学ぶ。 ・幼稚園教育において実際にどのような教育課程が編成されているのかを理解する。 ・実勢に指導計画を作成することを通して、教育課程全体と日々の実践のつながりを意識する。		

◆授業計画	
1回	ガイダンス 教育課程とは何か 1. 幼児期の特徴 2. 教育課程,全体的な計画の意義と方向 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P1～P38を読んでおく。 事後学習：復習
2回	3. 「3つの資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P39～P47を読んでおく。 事後学習：復習
3回	4. 幼児教育課程の基本 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P93～P114を読んでおく。 事後学習：復習
4回	5. 基礎となる幼児の姿 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P115～P134を読んでおく。 事後学習：復習
5回	6. 教育課程,全体的な計画の編成と指導計画の作成 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P157～P177を読んでおく。 事後学習：復習
6回	7. 目的・目標とねらい及び内容 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P135～P156 事後学習：復習
7回	8. 指導計画の実践 自宅学習（4時間） 事前学習：配布プリントを読んでおく。 事後学習：課題を行う。

8回	9. 実践の振り返り① 自宅学習（4時間） 事前学習：先週の課題と実習に向けて指導案の作成をする。 事後学習：幼稚園実習に向けて指導案を見直す。
9回	10. 実践の振り返り② 自宅学習（4時間） 事前学習：7回の課題と実習で行った指導案の見直し。 事後学習：課題を行う。
10回	11. 幼稚園・保育所・認定こども園 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P49～67を読んでおく。 事後学習：復習
11回	12. 教育課程,全体的な計画の基準 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P69～P91を読んでおく。 事後学習：復習
12回	13. 教育課程,全体的な計画の評価 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P179～185 事後学習：復習
13回	14. 基礎となる子どもの姿② 自宅学習（4時間） 事前学習：前回配布したプリントを行う。 事後学習：課題を行う。
14回	15. 前回の課題の発表 16. 今までの振り返り 自宅学習（4時間） 事前学習：発表準備する。 事後学習：振り返り課題を行う。
15回	17. 教育課程,全体的な計画と指導計画の実例 18. まとめ 自宅課題（4時間） 事前学習：教科書P187～221を読んでおく。まとめプリントの見直し

評価方法	授業中に提示する課題および提出物（40％）発表（20％）まとめプリント（40％）により総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	『あたらしい幼児教育課程総論』 第二版 / 岸井勇雄・横山文樹/ 同文書院
参考書（必要に応じて購入）	授業時に適宜紹介していく。
受講条件・ルール	積極的な授業参加をお願いします。授業内容に関して分からない点に関しては各授業時に必ず確認しましょう。

授業時間外の学習（予習・復習等）	【事前学習】教科書の該当章を読み、分からないことやさらに知りたいことを明確にする。必要であれば、授業前に自分で調べてノートにまとめる。 【事後学習】配布されたプリント・教科書の該当章を再読し、自身の理解度を確かめる。わからない内容がある場合は、友人や担当教員に質問し理解を深める。 ＊次回授業までに取り組む課題を出す場合もあります。 事前・事後学習 合計60時間
------------------	---

試験・レポート等のフィードバック方法	提出された課題を個別に添削し返却します。
--------------------	----------------------

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ		
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること		
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること		
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	○	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること		
現㊦1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）		
現㊦2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュタリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）		
現㊦3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）		
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢		
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎	

授業コード・授業名	410901 保育内容「人間関係」の指導法	教室	403教室
授業表題	保育内容「領域：人間関係」の理論と方法		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	保育内容「人間関係」の指導法 (Teaching Method of the Contents of Early Childhood Care: Human Relations)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	金曜4限
必修・選択	必修 (幼必、保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	この授業では、乳幼児の姿と保育実践に関連させ、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深めます。グループワーク（主に指導計画の作成、模擬保育、振り返り、校外学習など）を通して、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的な学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付けます。
授業の到達目標	(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育の基本を踏まえて、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 ・領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な経験と身に付ける内容について指導上の留意点を理解している。 ・保育における評価の考え方を理解している。 ・小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。 ・幼児の心情、認識、思考及び動きを踏まえた環境構成や教材研究の重要性を理解し、保育実践に活用することができる。 ・領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を理解し、保育実践に活用することができる。また、情報機器について幼児の体験との関連を考慮し活用するなど留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育やロールプレイとその振り返りから、保育を改善する視点を身に付ける。 ・領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題を知り、保育実践の質の向上に取り組むことができる。

◆授業計画	
1回	第1章 保育の基本 保育の基本について学びます。 自宅学習 (1時間) 事前学習：教科書P2～P13を読んでおく。 事後学習：復習
2回	第2章 領域「人間関係」 自宅学習 (1時間) 事前学習：教科書P16～P29まで読んでおく。 事後学習：復習
3回	第3章 0歳児以上3歳児未満児の子どもの人間関係の発達 自宅学習 (1時間) 事前学習：教科書P32～P49を読んでおく。 事後学習：復習
4回	第4章 3歳児以上児の子どもの人間関係発達 自宅学習 (1時間) 事前学習：教科書P54～P64を読んでおく。 事後学習：復習

5回	第5章 乳幼児の子どものひ人とかかわる力を育む保育者のかかわり 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P 66～P76を読んでおく。 事後学習：復習
6回	第6章 自立心を育む 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P 78～P88 事後学習：復習
7回	第7章 道徳性・規範意識の芽生え 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P 90～P101を読んでおく。 事後学習：復習
8回	第8章 協同して物事に取り組む 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P104～P117 事後学習：復習
9回	第9章 社会生活とのかかわり 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P120～P130を読んでおく。 事後学習：復習
10回	第10回 遊びと人間関係の発達 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P132～P143を読んでおく。 事後学習：復習
11回	第11章 人とかかわる力を育む指導計画の作成 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P146～P155を読んでおく。 事後学習：復習
12回	第12回 特別な配慮をする子どもの保育 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P158～P171を読んでおく。 事後学習：復習
13回	第13回 子どもの育ちを支える保育者の人間関係 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P174～P187を読んでおく。 事後学習：復習
14回	第14回 ICTを活用した保育 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P190～P203を読んでおく。 事後学習：復習
15回	第15回 人間関係における今日の課題 まとめプリント 自宅学習（1時間） 事前学習：教科書P206～P218を読んでおく。

評価方法	授業中に提示する課題・提出物（40%）、発表（20%）、まとめプリント(40%)により総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	保育内容『人間関係』と指導法 考える 調べる 学び合う / 近喰晴子・小泉裕子 中央法規

参考書（必要に応じて購入）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
受講条件・ルール	受講マナーを守り、積極的に受講してください。

授業時間外の学習（予習・復習等）	【事前学習】教科書の該当章を読み、わからないことやさらに知りたいことを明確にする。必要であれば、授業前に自分で調べてノートにまとめる。 【事後学習】配布されたプリント・教科書の該当章を再読し、自身の理解度を確かめる。わからない内容がある場合は、教員に質問し理解を深める。 ＊次回授業までに取り組む課題を出す場合もあります。 事前・事後学習 合計15時間
試験・レポート等のフィードバック方法	提出された課題を個別に添削し返却します。

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	405101 保育の計画と評価	教室	403教室
授業表題	保育の計画及び評価		
担当教員	新居 直美	実務経験	○

英語名称	保育の計画と評価 (Childcare Theory)		
専攻	幼児教育専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	前期	曜日・時限	金曜2限
必修・選択	選択（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	・教育課程や全体的な計画を『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園・保育要領』に沿って学び、指導計画の作成と実施のために必要となる方法や技術、その評価を一元的に学ぶことより、カリキュラムマネジメントの考え方とその実行のための知識を習得する。
授業の到達目標	・カリキュラムマネジメントの考え方を理解し、指導計画の作成とその評価の為の具体的な方法や技術を習得する。 ・教育課程や全体的な計画を理解し、指導計画の作成プロセスを習得する。

◆授業計画	
1回	3 法令における保育の目標と計画の考え 自宅学習（4時間） 事前学習：3 法令について予習をする。 事後学習：授業の復習をする。
2回	保育におけるカリキュラムとは 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P 20～28を読んでおく。 事後学習：授業の復習をする。
3回	子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P32～39を読んでおく。 事後学習：授業の復習をする。
4回	全体的な計画（教育課程）と指導計画の関係 長期的な指導計画の作成（0・1・2 歳児） 長期的な指導計画の作成（3・4・5 歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P41～79を読んでおく。 事後学習：授業後の復習をする。
5回	短期的な指導計画の作成（3歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：指導案の作成をする。 事後学習：指導案の見直しをする。
6回	短期的な指導計画の作成（4歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：指導案の作成をする。

	事後学習：指導案の見直しをする。
7回	幼短期的な指導計画の作成（5歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：指導案の作成をする。 事後学習：指導案の見直しをする。
8回	短期的な指導計画の作成（0～2歳児） 自宅学習 事前学習：指導案の作成をする。 事後学習：指導案の見直しをする。
9回	短期的な指導計画の作成（0～2歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：指導案の作成をする。 事後学習：指導案の見直しをする。
10回	短期的な指導計画の作成（0～2歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：指導案の作成をする。 事後学習：指導案の見直しをする。
11回	保育計画作成上の留意事項（3～5歳児） 自宅学習（4時間） 責任実習で作成した指導案の見直しをする。
12回	保育計画作成上の留意事項（0～2歳児） 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P114～131を読んでおく。 事後学習：授業の復習をする。
13回	保育計画作成上の留意事項（異年齢児） 指導計画に基づく保育の柔軟な展開 自宅学習（4時間） 事後学習：責任実習で作成した指導案の見直しをする 事後学習：教科書P144～165を読んでおく
14回	保育の記録と省察 保育の評価と改善 自宅学習（4時間） 事前学習：教科書P168～189を読んでおく。 事後学習：まとめに向けて全体の復習をする。
15回	生活と発達の連続性を踏まえた要録の書き方 ＜まとめ＞ 今までの学習の理解度と知識の定着を確認する。 自宅学習（4時間） 14回までの復習をする。

評価方法	授業内の課題提出60%、授業内の試験40%などから総合的に評価する。
------	------------------------------------

テキスト（必ず購入）	「保育の計画と評価 演習ブック」 ミネルヴァ書房
参考書（必要に応じて購入）	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」フレーベル館を授業内で適宜紹介する。
受講条件・ルール	授業時の私語は控えてください。 授業への積極的な参加を求めます。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の予習、復習には約4時間程度必要です。 その他、課題を含め合計で60時間程度必要です。
試験・レポート等のフィードバック方法	授業の課題、指導計画など個別指導を行います。

授業と関連する実務経験	(1)実務経験 ・1993年～2022年の期間内（計15年） (2)所属園 公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育所・企業内の保育施設運営部に所属 (3)実務内容 ・保育士・幼稚園教諭として0～5歳児に関わる ・2歳児プレ保育の立ち上げと親子教室を長年担当する ・保育施設の円滑な運営をマネジメントする ・絵本の読み聞かせ歴30年（幼児～小学生） ・子どもの絵本専門家取得
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	411901 子どもと健康	教室	401教室
授業表題	子どもの心身の発育・発達、運動と遊び、健康で安全な生活、子どもの育ちを保証する保育者の役割		
担当教員	尾近 千鶴	実務経験	○

英語名称	子どもと健康 (Child and Health)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	木曜3限
必修・選択	必修 (幼必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育内容「健康」のねらい「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを達成するための知識を身につける。専門的事項として、子どもの心身の発育・発達、運動発達を促す遊び、健康で安全な生活を保証する安全管理と安全教育、子どもを取り巻く健康に関する課題などを学び、子どもの持てる力を養い全面発達を保証する保育者の役割について理解する。 グループワーク・ディスカッション等アクティブラーニングを中心に授業を展開する。
授業の到達目標	①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領における「健康」のねらい、内容について理解する。 ②子どもの心身の発育発達の特徴、運動発達と遊びについて理解する。 ③現代社会における子どもの健康に関する課題を挙げることができる。 ④健康で安全な生活を送るための保育者の役割と保護者との連携、子どもに必要な体験とは何かを知ることができる。

◆授業計画	
1回	ガイダンス 授業の進め方 子どもの健康をとらえる視点 子どもの健康な育ちの保証 ・健康とは ・保育のガイドライン 予習2時間、復習2時間
2回	健康な子ども、元気な子どもの姿 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」 予習2時間、復習2時間
3回	生涯の各時期の健康観 「子どもからだ」と「大人のからだ」それぞれの特徴 予習2時間、復習2時間
4回	子どもの全面発達と、現代っ子の健康課題 (個人・グループワーク) 予習2時間、復習2時間
5回	大人も子どもも整えたい、生理的発達の保証 予習2時間、復習2時間
6回	生活リズムの獲得 ヒトの睡眠の法則 恒温の獲得 高体温児、低体温児 予習2時間、復習2時間
7回	五感の獲得 命を守る五感 子どもを育てることとは、五感を育むこと 予習2時間、復習2時間
8回	心身の発達の概要 運動能力検査・幼児期運動指針 予習2時間、復習2時間
9回	子どもの運動発達の保証と体力① 予習2時間、復習2時間

10回	子どもの運動発達の保証と体力② 予習 2 時間、復習 2 時間
11回	脳の発達と概念の獲得 予習 2 時間、復習 2 時間
12回	子どもの生活と健康 基本的生活習慣獲得の保証 予習 2 時間、復習 2 時間
13回	子どもの視点に立った安全生活の保証 予習 2 時間、復習 2 時間
14回	子どもの健康を支える協働 子どもに関わる大人と保育者の役割 予習 2 時間、復習 2 時間
15回	まとめ、及び、保育内容「健康」についての各自の課題と振り返り

評価方法	授業への参加度（20%）、課題レポート（30%）、授業内試験（50%）
テキスト（必ず購入）	演習保育内容健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点（井狩芳子著 萌文書林）
参考書（必要に応じて購入）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
受講条件・ルール	授業形式は対面、及び、オンデマンド（2 回前後）となる。オンデマンド授業では、課題提出をもって、出席とみなす。 授業中、私語は慎み、無断で携帯電話を使用しないなど、マナーを守ること。 積極的に課題に取り組むこと。他者と協力してグループワークに取り組むこと。 授業資料の無断転載は禁止とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	【予習（各回所要時間：2時間）】 ・各回の授業内容についてテキストの該当箇所を読み、わからない用語等を調べておく。 ・日頃から子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、各授業時に提示された課題に取り組む。 【復習（各回所要時間：2時間）】 ・授業内容を振り返り、要点をまとめる。 ・わからない内容がある場合は、次回の授業で質問する。
試験・レポート等のフィードバック方法	グループワークなどは、発表後にコメントをする。 課題レポートなどは、好事例を取り上げる。

授業と関連する実務経験	実務経験：20 年（民間・行政・大学）国内外の教育機関/医療保健・社会福祉施設等 実務内容：幼稚園・保育所、幼児教育保育職養成機関、子育て支援センター等
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	

現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	410801 保育内容「健康」の指導法	教室	301教室
授業表題	子どもの心身の健康、運動発達を促す遊び、季節と生活文化、健康教育・指導法		
担当教員	尾近 千鶴	実務経験	○

英語名称	保育内容「健康」の指導法（Teaching Method of the Contents of Early Childhood Care and Education: Health）		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	後期	曜日・時限	木曜1限
必修・選択	必修（幼必、保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	前期「子どもと健康」で学んだ「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことを保育場面で活かせるよう、指導法について学ぶ。 子どもの心身の発達・発達や運動発達をふまえ、子どもが健康で安全な生活を送る力を持てるよう具体的な指導場面を想定する。季節や生活文化をふまえ、様々な遊びを立案し、模擬保育を行う。 グループワーク・ディスカッション等アクティブラーニングを中心に授業を展開する。
授業の到達目標	①「健康」のねらいと内容を活かした保育を立案し、模擬保育を行うことができる。 ②子どもの心身の発達発達の特徴、運動発達と関連付けて遊びを展開する方法を身につけることができる。 ③現代社会における子どもの健康課題に対応した指導法を立案することができる。 ④子どもが健康で安全な生活を送るため、保護者と保育者がどのように子どもに働きかけるのか、どのように必要な体験を促すのか、具体的な指導場面を想定することができる。

◆授業計画	
1回	ガイダンス 授業の進め方 保育内容「健康」の指導法とは 前期「子どもと健康」の確認と後期「保育内容（健康）の指導法での模擬保育の展開について 予習・復習で1時間
2回	子どもの心身の健康を支える教育・指導法 予習・復習で1時間
3回	恒温の獲得、五感の獲得を促す教育・指導法 予習・復習で1時間
4回	多様な動きの経験を促す教育・指導法 予習・復習で1時間
5回	大型遊具を使った遊び①個人・グループワーク 予習・復習で1時間
6回	大型遊具を使った遊び②個人・グループワーク 予習・復習で1時間
7回	小型遊具を使った遊び①：個人・グループワーク 予習・復習で1時間
8回	小型遊具を使った遊び②：個人・グループワーク 予習・復習で1時間

9回	運動遊びの指導①（指導案の立案）：個人・グループワーク 予習・復習で1時間
10回	運動遊びの指導②（指導案の立案・修正）：個人・グループワーク 予習・復習で1時間
11回	運動遊びの指導③）：発表 予習・復習で1時間
12回	季節と生活文化を取り入れた遊び①：個人・グループワーク 予習・復習で1時間
13回	季節と生活文化を取り入れた遊び②：発表 予習・復習で1時間
14回	伝承遊び：発表 予習・復習で1時間
15回	まとめ 小テスト 健康の指導法についての各自の課題と振り返り：個人・グループワーク 予習・復習で1時間

評価方法	教材研究への取り組み、指導計画の立案、模擬保育の取り組み、課題レポート、小テスト等、総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	演習保育内容健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点（井狩芳子著書 萌文書林）
参考書（必要に応じて購入）	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
受講条件・ルール	授業形式は対面、及び、オンデマンド（2回前後）となる。オンデマンド授業では、課題提出をもって、出席とみなす。 授業中、私語は慎み、無断で携帯電話を使用しないなど、マナーを守ること。 積極的に課題に取り組むこと。他者と協力してグループワークに取り組むこと。 授業資料の無断転載は禁止とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	【予習（各回所要時間：2時間）】 ・各回の授業内容についてテキストの該当箇所を読み、わからない用語等を調べておく。 ・日頃から子どもの健康に関するニュースに関心を持ち、授業時に提示された課題に取り組む。 【復習（各回所要時間：2時間）】 ・授業内容を振り返り、要点をまとめる。 ・わからない内容がある場合は、次回の授業で質問する。
試験・レポート等のフィードバック方法	グループワークなどは、発表後にコメントをする。 課題レポートなどは、好事例を取り上げる。

授業と関連する実務経験	実務経験：20年（民間・行政・大学）国内外の教育機関、医療保健、社会福祉施設等 実務内容：幼稚園・保育所、幼児教育保育職養成機関、子育て支援センター等
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	。
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	

共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	406001 児童館・児童クラブの活動内容と指導法	教室	401教室
授業表題	児童館及び児童クラブで実践されている活動及びその方法を理解する		
担当教員	鈴木 良東	実務経験	児童館勤務歴 36年

英語名称	児童館・児童クラブの活動内容と指導法 (Activity of Children's House)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜5限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	<u>児童館 児童クラブってどんなところ？（活動内容と指導法から理解を深めます。）</u> 「児童館」は18未満の全ての児童を対象とした、児童厚生施設で、遊びを通して、心と体の健全な育ちを支援します。 「児童クラブ」は放課後に、保護者が主に就労等で昼間家庭にいない小学生を預かり、遊びや生活を通して、健全育成を行っています。 近年では、中高生向けの児童館や乳幼児向けの児童館など、多様な児童館がみられます。児童虐待や子どもの貧困、学校になじめない子への対応など、様々な課題に対しても、その解決に向けて努力しています。 かけがえのない子ども時代の素敵な居場所としての児童館、児童クラブについて、その内容と指導法（多様な自由遊び・グループ活動・季節行事等）について、演習も含めながら学びます。 子育てに切れ目はありません。幼児は小学生になります。小学生の遊びや生活を知ること、また、乳幼児親子の居場所としての児童館を理解することは、保育士としての専門性を高めます。
授業の到達目標	児童館・児童クラブの活動内容と指導法について、説明できるようになります。 児童館の利用対象は、0才から18才と幅が広いです、さらに保護者対応や地域ボランティアとの関り等、多様な人達とのコミュニケーションスキルが求められます。 小学生及び中高生の居場所である児童館、保育園を卒園した後の児童クラブを理解すること、また子育てには沢山の人の力を借りることが大切なこと等を知ること、保育士としての幅を広げていきます。

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション 授業の内容と進め方 子どもにとって遊びとは</u> 子どもにとって遊びとはなんでしょう？皆さんと共に、事例を交えながら、遊びの本質について考察します。 <u>自宅学習</u>（4時間） 自分が幼少時代に経験した遊びを、その年齢別にまとめておきましょう。
2回	<u>児童館・児童クラブのプログラム① 運動遊びと室内遊び、児童館訪問</u> 近隣の児童館に出向き、主に、小学生に人気のある運動遊び（いろんなルールのボール遊び）や室内遊び（ボードゲームや工作）について学びます。特にボードゲームは児童館の子どもと実際に遊んでみて、その楽しさや、子どもの成長を促すことを学びます。 <u>自宅学習</u>（4時間） お勧めのボードゲーム等を調べ、その特徴（対象年齢や面白いところ、子どもの発達を促す内容等）をまとめておきましょう。
3回	<u>児童館・児童クラブのプログラム② 工作に挑戦</u> 小学生向けの紙工作に挑戦し、遊びます。小学生が身近な材料（紙、布、箱、毛糸など）を使って思い思いに工作することが、成長を促し、心の安定にもつながることを学びます。

	<u>自宅学習（4時間）</u> 小学生向きの工作を調べましょう。
4回	<u>児童館・児童クラブのプログラム③中高生のプログラム</u> 中高生向きの交流を促進するゲームを各自が考えて、実施します。ゲームリーダーと参加者に分かれ、実施後、講評し合います。 <u>自宅学習（4時間）</u> 中高生向きのゲームを調べましょう。
5回	<u>児童館・児童クラブのプログラム④児童青少年センター訪問</u> 中高校生が主な利用者である杉並区児童青少年センターを訪問し、利用者の声を運営に反映する取り組みなど、中高校生への対応について理解を深める。 <u>自宅学習（4時間）</u> 自分が中高校生の時に経験した、遊びや、生活についての感想をまとめておきましょう。
6回	<u>児童館・児童クラブでの子どもとのコミュニケーションスキル</u> 発達も異なる、個性豊かな子ども達です。どのような言葉かけをすればよいのか、どうやって話を聴くことが大切なのか、状況に応じた、子どもとのコミュニケーションスキルについて、ロールプレイも交えながら学習します。 <u>自宅学習（4時間）</u> ロールプレイで学んだ傾聴法について、実際に、友達や家族に協力してもらい、実践しましょう。
7回	<u>児童館・児童クラブでの子どもとのコミュニケーションスキル②児童館訪問</u> 近隣の児童館を訪問し、職員からお話を伺います。友達とのトラブルへの対応、集団をまとめるための言葉かけ等、職員から直接コミュニケーションスキルを学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> ロジャーハートの参画の梯子について、調べましょう。
8回	<u>子どもの参画</u> 子どもの声を児童館・児童クラブの運営に反映させます。利用者の声を聴くことは大切です。子ども達の声を、行事や居場所づくりに反映させている事例を紹介します。 <u>自宅学習（4時間）</u> 貧国の子どもの生活（教育、生活、あそび等）について調べましょう。
9回	<u>あそびの力、被災地や途上国での遊びの支援</u> 子どもの遊びは、被災地や途上国（スラム街やストリートチルドレンの施設等）の子ども達の生活を豊かにしてくれます。 講師が自らの経験に基づいた、事例を交えて講義し、何ができるのかを考えます。 <u>自宅学習（4時間）</u> テーマに基づいた、行事実施計画書を作成しましょう。
10回	<u>乳幼児保護者への対応、子育てプラザ訪問</u> 乳幼児保護者への対応として、何が求められているのか。子育てプラザを訪問し、乳幼児保護者に対する支援の方法や内容について深めます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 児童虐待の予防としての児童館の役割について、調べましょう。
11回	<u>子ども家庭支援</u> 児童館や学童クラブでは、特に配慮すべき子ども、困難を抱えた家庭などへ対応しています。虐待を受けた子ども、貧困家庭、外国にルールをもつ子ども、ヤングケアラーなど、他機関と連携しながら、解決策を模索することも多くあります。講師が対応した事例なども紹介しながら、学習を深めます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 子どもの貧困および、ヤングケアラーの実態等について調べ、保育士として何ができるのか考え、まとめておきましょう。
12回	<u>地域との連携</u> 子ども達の活動が豊かになるためには、地域の様々な人の応援が必要です。職員は地域ボランティアと共に、子どもの活動を支援します。また、誰もが健やか育つ地域を目指して、関係機関や個人と連携し、地域づくりをすすめます。 <u>自宅学習(4時間)</u> 子どもを対象にした地域活動（町会のえんにち、地域のNPOの行事、餅つき、凧揚げ大会等）を調べましょう。
13回	<u>障害のある子の理解と支援</u> 障害があってもなくても、児童館は全ての子ども達の居場所です。しかし、障害のある子への配慮は必要です。児童クラブでは障害のある子も共に生活しています。だれもが気持ちよく過ごせるようにするヒントについて学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u>

	自らの障害のある子（大人も含む）との交流経験についてまとめておきましょう。交流経験がない人は絵本や映画などの感想でよいです。
14回	<u>まとめ</u> KJ法により、まとめます。多様な意見を付箋に書いて、それをカテゴリーごとに模造紙にはり、まとめていく手法を使います。 <u>自宅学習</u>（4時間） 主に印象的であったテーマを三つ選択し、感想を書きます。
15回	<u>まとめ②</u> KJ法でまとめた資料をもとに発表します。また、1年間の授業を振り返り、学習したことを、どのように将来の保育実践に生かすのか、話してもらいます。 <u>自宅学習</u>（4時間） KJ法でのまとめや、個々人のまとめを参考にし、レポートにまとめておく。

評価方法	筆記試験はありません。 ①授業態度 （講師の話を聴く姿勢、発言内容など） ②まとめの文（授業終了15分前に記入）
テキスト（必ず購入）	講師の資料により授業を行います。購入の必要はありません。
参考書（必要に応じて購入）	児童健全育成推進財団が発行している 「健全育成論」がお勧めですが、購入の必要はありません。
受講条件・ルール	・「児童館・学童クラブの機能と運営」 前期月曜4限 鈴木担当 ・「児童館・児童クラブの活動内容と指導法 前期月曜5限 鈴木担当 ・「施設実習」 他の先生が担当・杉並区内の児童館で実習します の3つを選択すると児童館・児童クラブ職員に必要な 「児童厚生二級指導員」の資格を取ることができます。 半年間で資格が取れるので、お勧めです。

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業時間外の学習時間は60時間です。内容は、授業計画の自宅学習に記されています。また、下記の文献なども参考にしてください。 子どもに関するテレビのニュースに関心を持ちましょう。必要に応じて新聞を読み、（統計や事例など掲載されています）理解を深めましょう。 事件などがありますが、何故その事件が起こったのか背景を考えてみましょう。 様々な課題に関して、保育士として、何ができるのか考えましょう。 ●児童館?児童クラブについては WEBでいろいろなデータをダウンロードできます。 以下のサイトに目を通してくと 日本の児童館と児童クラブの成り立ちについて学べて 授業への理解が深まります。 「児童館・児童クラブについて」児童健全育成推進財団 https://www.jidoukan.or.jp/kenzenikusei/
------------------	---

	「児童館ガイドライン」厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/content/11906000/000361016.pdf 「放課後児童クラブ運営指針」厚生労働省 https://www.city-matsuura.jp/material/files/group/41/uneisisin.pdf https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000158828.pdf 「新・放課後子ども総合プラン」文部科学省 https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/shin_houkago_plan.pdf https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/shin_houkago_plan_tsuchi.pdf 「子ども子育て支援新制度」内閣府 https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/sukusuku.html 授業時間外の学習は、合計60時間
試験・レポート等のフィードバック方法	自宅学習の課題は、次回の授業で発表し、受講者全員で共有していきます。講師が毎回コメントしていきます。

授業と関連する実務経験	子育てに切れ目はありません、保育士として、小学生の遊びや生活を理解したり、保育園を卒園した後に通う、児童クラブを知ることが、重要です。乳幼児の居場所としての児童館を知ることが、乳幼児に関わる保育士として、子育て支援の知識を広げます。幅広い知識をもったプロになるためにも受講をお勧めします。 私は杉並区の児童館で36年間（館長として10年）勤務してきました。その中で、乳幼児から高校生までの健全育成や、保護者の子育て支援に関わってきました。子ども達の成長を目の当たりにできる喜び、保護者の悩みを受け止め、支援した経験など、皆さんにお伝えできればと思います。児童館職員のフィールドは児童館内だけではありません。地域の全てが活躍の場なのです。児童館職員は、地域の人達の力を引き出し、子どもの成長をサポートする輪を広げていきます。そして、子ども達は、地域の中で、多様な人との交流経験を積み成長します。私の地域での実践として紹介されたのは、赤ちゃん和小学生の交流事業「赤ちゃんが教室にきたよ（岩崎書店）」幼児と障がい者の交流事業「みえないってどんなこと？（岩崎書店）」があります。授業の中でも紹介します。現在は、都内の区や市の児童館や児童クラブへの巡回指導もしています。タイムリーな、子ども達の様子や、子ども対応について、随時お伝えします。
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	◎
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	405901 児童館・児童クラブの機能と運営	教室	401教室
授業表題	児童館・児童クラブの成り立ちや変遷を知ると共に、その機能と運営について理解します。子どもたちの現状や、課題などについて理解し、その解決に向けての、制度や職員の役割などを学びます。		
担当教員	鈴木 良東	実務経験	児童館勤務歴 36年

英語名称	児童館・児童クラブの機能と運営 (Management of Children's House)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	月曜4限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	<u>児童館、児童クラブって、どんなところ？</u> 「児童館」は18未満の全ての児童を対象とした、児童厚生施設で、遊びを通して、心と体の健全な育ちを支援します。 「児童クラブ」は放課後に、保護者が主に就労等で昼間家庭にいない小学生を預かり、遊びや生活を支援し、健全育成を行っています。 近年では、中高生向きの児童館や乳幼児向きの児童館など、多様な児童館がみられます。児童虐待や子どもの貧困、学校になじめない子への対応など、様々な課題に対しても、その解決に向けて努力しています。 かけがえのない子ども時代の素敵な居場所としての児童館、児童クラブについて理解を深めます。
授業の到達目標	0～18才の全ての子どもたちを対象とした「児童館」、預かるだけではなく、遊びや生活支援を通して健全育成を行う「児童クラブ」の機能と役割について、説明できるようにします。

◆授業計画	
1回	<u>オリエンテーション</u> この授業の進め方と、児童館と児童クラブの成り立ちについてお話しします。 <u>自宅学習</u> (4時間) 昭和から令和にいたるまでの子どもの遊びの変遷を調べておきましょう。
2回	<u>子ども遊びの変遷</u> 昭和から令和までの子どもの遊びの変遷を学び、遊びの環境や内容の変化が子どもへ与える影響について、学びます。 <u>自宅学習</u> (4時間) 児童館と児童クラブの機能の違いについて調べておきましょう。
3回	<u>児童館の機能の基本</u> 児童館の法的根拠・事業目的・ガイドライン等について理解をします。 <u>自宅学習</u> (4時間) 児童館ガイドライン第1章を読み、要点をまとめておきましょう。
4回	<u>児童クラブの機能の基本</u> 児童クラブの法的根拠・事業目的・運営指針等について理解をします。 <u>自宅学習</u> (4時間) 放課後児童支援員認定資格研修の目的や内容について調べておきましょう。
5回	<u>健全育成の具体的な内容と職場倫理</u> 健全育成とは、为什么呢。事例なども交え、具体的な内容を理解します。また児童館・児童クラブの職場倫理について学びます。 <u>自宅学習</u> (4時間) 健全育成の内容を、自らの経験に基づいた事例発表ができるようにまとめておきましょう。
6回	<u>児童館ガイドラインより（児童館における遊び及び児童館の特性）</u> 児童館における遊び及び児童館の特性について理解します。

	<u>自宅学習（4時間）</u> 幼児から高校生までの発達段階について、調べておきましょう。
7回	<u>児童館ガイドラインより（小学生、中高生の発達）</u> 主に小学生、中高生の発達について理解を深めます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 中高生の発達を、小学生の発達と比較し、まとめておきましょう。
8回	<u>児童館ガイドラインより（中学生対応）</u> 中高生のニーズに対応した児童館の機能について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 保護者への相談援助で特に留意すべき個所をまとめておきましょう。
9回	<u>児童館ガイドラインより(保護者の子育て支援)</u> 子育て支援（主に乳幼児から小学生）について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 子どもの権利条約について（特に12条、31条）調べておきましょう。
10回	<u>児童館ガイドラインより（子どもの意見）</u> 子どもが意見を述べる場の提供について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 自治体の子どもの権利条例について調べ、発表できるようにしましょう。
11回	<u>児童館ガイドラインより（地域の子育て支援）</u> 地域の子育て支援について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 地域における健全育成の環境づくりを推進することについて、事例を交えながら、まとめておきましょう。
12回	<u>小型児童館・児童センター・大型児童館</u> 小型児童館・児童センター・大型児童館の設置と運営について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 児童館ガイドライン第7章子どもの安全対策・衛生管理について、読んでおきましょう。
13回	<u>安全対策</u> 安全管理・危機管理・事故防止活動などについて学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 事業実施（野外活動）に当たり、安全管理上の留意事項をまとめておきましょう。
14回	<u>障害児支援</u> 児童館・児童クラブにおける障害児支援について学びます。 <u>自宅学習（4時間）</u> 今までの授業を振り返り、要点をまとめておきましょう。
15回	<u>(まとめ)</u> 何を学んだか、グループでディスカッションしたあとで発表します。 <u>自宅学習（4時間）</u> グループディスカッションの内容や、個々の発表を参考にして、まとめましょう。

評価方法	筆記試験はありません。 ①授業態度 （講師の話を聴く姿勢、発言内容など） ②まとめの文（授業終了15分前に記入）
テキスト（必ず購入）	児童館論（児童健全育成推進財団）1000円程度
参考書（必要に応じて購入）	児童健全育成推進財団が発行している 「健全育成論」に授業の内容が載っています。 参考程度にご覧になってください。購入は必須ではありません。

受講条件・ルール	●「児童館・学童クラブの機能と運営」 前期月曜4限 鈴木担当 ●「児童館・児童クラブの活動内容と指導法」 前期月曜5限 鈴木担当 ●「施設実習」 他の先生が担当・杉並区内の児童館で実習します の3つを選択すると児童館・児童クラブ職員に必要な「児童厚生二級指導員」の資格を取ることができます。 半年間で資格が取れるのでお勧めです。
----------	--

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業時間外の学習時間は60時間です。内容は、授業計画の自宅学習に記されています。また、下記の文献なども参考にしてください。 子どもに関するテレビのニュースに関心を持ちましょう。必要に応じて新聞を読み、（統計や事例など掲載されています）理解を深めましょう。 事件などがありますが、何故その事件が起こったのか背景を考えてみましょう。 様々な課題に関して、保育士として、何ができるのか考えましょう。 ●児童館・児童クラブについて、ダウンロードして理解を深めましょう 「児童館・児童クラブについて」児童健全育成推進財団 https://www.jidoukan.or.jp/kenzenikusei/ 「児童館ガイドライン」厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/content/11906000/000361016.pdf 「放課後児童クラブ運営指針」厚生労働省 https://www.city-matsura.jp/material/files/group/41/uneisisin.pdf https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000158828.pdf 「新・放課後子ども総合プラン」文部科学省 https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/shin_houkago_plan.pdf https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/shin_houkago_plan_tsuchi.pdf 「子ども子育て支援新制度」内閣府 https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/sukusuku.html
試験・レポート等のフィードバック方法	自宅学習の課題は、次回の授業で発表し、受講者全員で共有していきます。講師が毎回コメントしていきます。

授業と関連する実務経験	子育てに切れ目はありません、保育士として、小学生の遊びや生活を理解したり、保育園を卒園した後に通う、児童クラブを知ることは、重要です。乳幼児の居場所としての児童館を知ることは、乳幼児に関わる保育士として、子育て支援の知識を広げます。幅広い知識をもったプロになるためにも受講をお勧めします。 私は杉並区の児童館で36年間（館長として10年）勤務してきました。その中で、乳幼児から高校生までの健全育成や、保護者の子育て支援に関わってきました。 子ども達の成長を目の当たりにできる喜び、保護者の悩みを受け止め、支援した経験など、皆さんにお伝えできればと思います。 児童館職員のフィールドは児童館内だけではありません。地域の全てが活躍の場なのです。児童館職員は、地域の人達の力を引き出し、子どもの成長をサポートする輪を広げていきます。そして、子ども達は、地域の中で、多様な人との交流経験を
-------------	--

	積み成長します。 私の地域での実践として紹介されたのは、赤ちゃんと小学生の交流事業「赤ちゃんが教室にきたよ（岩崎書店）」幼児と障がい者の交流事業「みえないってどんなこと？（岩崎書店）」があります。授業の中でも紹介します。 現在は、都内の区や市の児童館や児童クラブへの巡回指導もしています。 タイムリーな、子ども達の様子や、子ども対応について、随時お伝えします。
--	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	410601 子どもの保健	教室	403教室
授業表題	子どもの身体と健康の特徴を学び、健康を守り子ども自身の健康習慣や健康の概念を育む関わりが持てるようになる		
担当教員	手塚 和美	実務経験	○

英語名称	子どもの保健 (Child Health)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	木曜1限
必修・選択	必修(保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	人の一生の中で最も変化の大きい時期である小児期は、様々な機能や能力、習慣を獲得する大切な時期である。心と体の基礎を築くこの時期に健康を増進し、健全な育成を図って行くために子どもの発育発達を理解し、疾病とその予防、子どもの事故、健康に関する知識を習得し健康のための生活習慣の獲得に向けた教育活動を実践していく力を身につけることを目標とする。
授業の到達目標	1. 子どもの生理的な特徴を学び、健康状態と発育状態の観察と評価ができるようになる 2. 子どもの発達と健康についての相関を学び、健全な発育発達に必要な環境を整えることができるようになる 3. 子どもの代表的な疾患について学び、病気の早期発見と適切な対処ができるようになる 4. 子どもの先天性疾患や慢性疾患について学び、個別的な配慮や対処ができるようになる 5. 保護者とのコミュニケーションについて学び、育児の連携が取れるようになる 5. 子ども自身が身体や健康についての知識を得て健康習慣や生活習慣を習得し実践していくよう 教育的な関わりを持つことができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 出席確認の方法と授業進行、課題、試験と評価について 1.子どもの保健で学ぶこと 教科書 p1～13、p21～29 子どもと大人の違い、子どもの健康と保健とは 2.子どもの発育について 胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期 3.子どもの発育の年次変化 4.母子保健の現状 出生と死亡に関する統計とその内容から読み取れる子どもの健康 5.母子健康手帳について ワーク 1. ①子どもの健康の特徴とは何か、大人と異なる点に注意してまとめましょう。 ②また、子どもの健康のためにどのような取り組みが必要か考えましょう。 *第1回課題 1. 「子どもの健康」で学ぶ内容について興味を持ったことを全て挙げてください。 2. 子どもの保健を学ぶことによって達成したい目標を3つあげて下さい。 例：「子どもの身体の仕組みを知る」「アレルギーについて学び対処法が分かるようになる」など
2回	第1回の課題の解説、質疑応答 子どもの健康の特徴について、子どもの健康のために必要な取り組みについて発表とまとめ 「身体の仕組みについて」配布資料あり *教科書参考ページp45～52、 1. 肺の仕組みと働きについて 2. 心臓の仕組みと働きについて 3. 消化器の仕組みと働きについて 4. 腎臓・泌尿器の仕組みと働きについて

	5. 免疫の仕組みと働きについて 6. 脳・神経の仕組みと働きについて 7. 骨と筋肉の仕組みと働きについて 【ワーク】 1. 身体の器官とは何か、 2. それぞれの器官を構成する臓器を調べて下さい。 ①呼吸器 ②循環器 ③消化器 ④泌尿器 ⑤免疫系 ⑥脳神経系 ⑦運動器 ＊第2回課題 1. 各器官の働きについてのまとめ問題を出題します。解答し提出してください。
3回	第2回の課題の解説、質疑応答 「子どもの発育・発達と保健」 1.子どもの発育・発達と保健 教科書 P31～43 子どもの発育と発達—身体発育— 2.胎児循環と新生児循環 3.標準的な子どもの身体発育 4.発育の評価の仕方 5.乳幼児の身体計測の仕方 6.身体発育に影響を与える因子 7.原始反射と発達 【ワーク】 1. 発育評価が健康評価に必要な理由をまとめましょう ＊第3回課題 1. 胎児の健康状態が子どもの健康を評価する上で必要な理由をまとめましょう 2. ①発育と発達の違いについてまとめて下さい。 ②原始反射とは何か調べましょう。原始反射で見られる反応を説明できるようにしましょう
4回	第3回の課題の解説、質疑応答 「子どもの体調不良時に見られる症状」 教科書p66～67 1. 発熱 2. 疼痛 3. 嘔気・嘔吐 4. 下痢 5. 便秘 【ワーク】 1.自分自身が経験したことのある体調不良時の身体症状についてまとめましょう 2.その時の症状から観察するべきことは何かをまとめましょう ＊第4回課題 体調不良について（主に発熱と消化器症状）についてのまとめ問題を出題します。 解答し提出してください
5回	第4回課題の解説と質疑応答 「子どもの体調不良時に見られる症状2」 教科書p67～69 6. 咳 7. 鼻水・鼻詰まり 8. 発赤・発疹 【ワーク】 咳や呼吸器症状があるときに観察することは何でしょうか 症状が見られた場合の具体的な対処法はどのようなことでしょうか ＊第5回課題 1. 体調不良についてのまとめ問題（呼吸器・皮膚）を出題します。解答し提出してください。
6回	第5回課題の解説と質疑応答

	「感染症について」 教科書p71～73 1.感染症の成り立ちについて (1)感染症と免疫 (2)感染症の種類 (3)感染経路 (4)感染予防 (5)感染症の関係法規 【ワーク】 1. 知っている感染症を3つあげ、原因となる病原体は何かを調べて下さい。 ＊第6回課題 1. 感染症についてのまとめ問題を出題します。解答し提出してください。
7回	第6回の課題の解説と質疑応答 「子どもに多い感染症とその対処」 ※配布資料あり 教科書p74～79 (1) インフルエンザ (8) RSウイルス感染症 (2) ウィルス性胃腸炎 (9) 伝染性紅斑 (3) 咽頭結膜熱 (10) 麻疹 (はしか) (4) 手足口病 (11) 風疹 (5) マイコプラズマ感染症 (12) 水痘 (6) 溶連菌感染症 (13) 流行性耳下腺炎 (おたふく) (7) ヘルパンギーナ ＊第7回課題 1. 子どもに多い感染症についてのまとめ問題を出題します。解答し提出してください。
8回	第7回の解説と質疑応答 「集団生活における感染症対策」 ※配布資料あり 教科書 p81～87 (1) 日常の感染対策 (2) 感染症の疑いのある子どもへの対処 (3) 感染症発生時の対処 「予防接種」 教科書 p82～85 (1) 予防接種の意義 (2) 定期予防接種 (3) 任意予防接種 (4) 予防接種の注意事項 【ワーク】 1. 集団生活を送る上で必要な感染対策としては具体的にどのようなことがあるか、3つ、理由とともに挙げて下さい ＊第8回課題 以下についての課題に解答し提出してください。 「集団生活における感染症発生時の対処」 1. 集団生活における日常の感染対策として必要なことを挙げましょう 2. 集団生活の場で感染症の発生が確認された時の対処法についてまとめましょう
9回	第8回の課題解説と質疑応答 「感染症以外の急性・慢性疾患1」 教科書 p89～99、109～120 (1) 子どもの慢性疾患とは (11) 筋肉・関節疾患 (2) 心疾患 (12) 眼科疾患 (3) 腎疾患 (13) 耳鼻科疾患 (4) 呼吸器疾患 (14) 皮膚疾患 (5) 血管炎症症候群 (15) 慢性疾患の支援制度 (6) 消化器疾患 (16) 病棟保育、病児保育 (7) 血液疾患 (8) 悪性新生物 (9) 内分泌疾患 (10) 神経疾患

	＊第9回課題 【予習】 1. 感染症以外の子どもの病気で代表的なものを3つ挙げ、その症状や特徴についてまとめて下さい 【復習】 急性・慢性疾患についてのまとめ問題を出題します。解答し提出してください。
10回	第9回課題解説と質疑応答 「障害を持つ子どものケア」 教科書 p115～127 1. 障害とは 2. 障害を伴う病気、症状とそのケア (1) 脳性麻痺 (2) ダウン症候群 (3) 摂食・嚥下障害 (4) 聴覚障害 (5) 視覚障害 (6) 発達障害 (7) 神経症 【ワーク】 1. 子どもの障害で、身体的な障害と発達の障害、それぞれどのようなものがあるかを調べましょう 聞いたことがあるもの、興味があるものを挙げてみましょう ＊第10回課題 障害を持つ子どものケアについてのまとめ問題を出題します。解答し提出してください。
11回	第10回課題解説と質疑応答 「感染症以外の急病と慢性疾患2」（アレルギー疾患） 教科書 p106～114 1. アレルギー疾患 (1) アレルギーとは (2) アトピー性皮膚炎 (3) 食物アレルギー (4) 気管支喘息 (5) 花粉症 (6) アナフィラキシー (7) 集団生活上の注意点 【ワーク】 1. アレルギーはありますか？ 2. 具体的な症状や困っていることはありますか？ 3. アレルギーについて知りたいことを具体的にしてみましょう 第11回 課題 授業中のワークで具体的になった内容をもとにゲストスピーチで聞きたいことをまとめて提出してください
12回	ゲストスピーチ ＊外部講師の講演です 「アレルギーについて」 食物アレルギーのメカニズム アナフィラキシーショック アナフィラキシーショック時の対応について 質疑応答 第12回 課題 ゲストスピーチを聞いての感想をまとめてください
13回	「保護者や地域との連携について」 教科書 p129～146 (1) 保護者との連携 (2) 健康診断（母子保健法に基づく健診、定期健診、臨時健診、身体計測） (3) 保護者との連携、地域における専門職との連携・協働 GW

	健康や発達で「困りごと」のある子どもや保護者への支援について保護者との連携、地域の連携の実際を図などを使ってまとめましょう ※保護者と共有する情報は、保育に必要な情報を聞くことと（情報収集）、育児に役立つ情報や継続して関わることを伝える（伝達事項）という2つの意味があります。 情報収集と伝達事項の具体例をそれぞれ考えてまとめてみましょう。 ＊第13回課題 生活リズムや生活習慣の獲得に向けての保護者連携と地域連携の実際（社会資源の活用と連携先など）についてまとめ提出してください
14回	第13回課題解説、質疑応答 子どもの保健まとめ 1. 子どもの健康状態把握 健康観察、健康診断、身体計測、発育評価、発達評価 2. 子どもの病気（感染症）について 3. 感染症以外の子供の病気について 4. 病気の症状に対する対処法について 5. アレルギーについて 6. 慢性疾患と障害児のケア 7. 家族支援と地域ネットワークについて 【ワーク】 1. 第13回までの内容でわからないところ、確認したいところを明確化し質問してください ＊第14回 課題 次の内容に解答し提出してください 1. 子供の保健で学んだこと、興味を持ったことは何ですか？ 2. 最初に挙げた3つの目標が達成できたか評価してください。 まとめてください。
15回	第14回授業の振り返り後、60分の試験を行います 解答書き込みの問題を出題します。 持ち込みは教科書のみとします ＊第15回課題 第15回の課題はありません

評価方法	各回の課題の提出状況とテストの合計点で評価します。 課題は毎回あります（第15回は授業内試験のためありません） 課題が提出され内容が学習目標に到達していれば各回1点ずつ加点します。テストに加点し評価とします。欠席の場合も授業ファイルと教科書を参考に課題に取り組んでみて下さい。 授業ファイルは科目チャンネル内にあげます。 出席は2/3以上としますが、どの回も一度きりの不可欠の内容となっておりますのでなるべく出席するよう心がけてください。 授業で分からない言葉や内容があった場合、そのままにせず質問して下さい。質問が無い場合、理解が得られたという認識で授業を進めます。 演習や発表も評価の対象としますので観察や処置の方法を必ず実際に行ってみて下さい。授業に来ていても実技の実施をしなかった場合や未提出の課題は評価できないため加点できないことをご理解下さい。遅刻や欠席時のワークシートや課題についてのご質問などにはTeamsのチャットをご活用下さい。
テキスト（必ず購入）	「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂第3版」 編著 小林美由紀 編集協力 森脇浩一 診断と治療社 ISBN 978-4-7878-2701-2
参考書（必要に応じて購入）	※授業の資料作成に使用した資料です。購入の必要はありません 「トートラ 人体の構造と機能 第3版（原書12版） 桑木 共之他 共訳 丸善出版 ISBN987-4-621-08231-7

	「カラー図解 免疫学の基本がわかる事典」 鈴木 隆二著 西東社 ISBN978-4-7916-19339-9 「よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」2021改訂版 独立行政法人環境再生保全機構 「子どものからだど心白書 2021」 子どものからだど心・連絡会議 ISBN978-4909011428
受講条件・ルール	座席は出席番号順にお座り下さい。 遅刻、早退、欠席のルールは学内規定に則って行います。体調不良などの際は考慮しますので相談して下さい。直接でもTeamsのチャットでもいいので連絡をお願いします。 止むを得ず欠席した場合は、次の授業参加時に配布資料の有無を確認し、配布資料のある授業については配布資料を取得できるよう調整して下さい。 また、欠席時はできる限り授業内容の資料に目を通し、分かる範囲でいいので課題に取り組み提出して下さい。わからない箇所は質問して下さい。どの回も大切な内容なので課題も評価対象としています。 質問や意見交換は相互理解や新しい学びになりますので、積極的な発言をお願いします。 専門用語の多い科目なので、授業中にわかりにくい内容があった場合には質問し、わからないことをそのままにしないようにお願いします。スライドの文字の大きさや講義の声の大きさについては見やすいよう、聞きやすいようにしていますが、改善の必要がある場合はその都度ご指摘ください、改善いたします。
授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の理解を深めるため、必ず予習と課題に取り組んでください。 予習では、該当回のワークに取り組み、授業時間に実施して知識を確実なものにできるようにしましょう。ワークの自己学習がおおよそ30分程度かかります。また、授業後に出題している課題は各回ごとに設けてあります。実施した授業のまとめになっていますので必ず取り組むようにして下さい。30分程度でまとめられる内容になっています。 第14回は総まとめの回ですので、第1回から13回までの振り返りをして、あやふやなところ、わかりにくいところをピックアップし、授業内に質問して下さい。総まとめなので2時間くらいの時間が必要になると思います。試験勉強も兼ねますので、1日に集約せず小分けにして取り組んでみてください。第15回は試験ですので第15回の予習は試験勉強になりますので必ず学習して試験に臨んでください。各回の課題の内容についての解説は皆さんが理解を深められるよう、わかりやすく説明するよう努めます。わかりにくい時、初めて聞く内容の際はご質問して下さいようお願いします。 日常生活の中で、子どもの事故や流行している感染症についてのニュースを見て情報の収集に努めましょう。またアレルギーや体調不良など自分の健康管理や周りの人の健康状態にもアンテナをはり、健康や保健についての意識を高めておきましょう。
試験・レポート等のフィードバック方法	授業内容をワークショップかグループワークで確認しながら授業をすすめ、課題で確かな知識にしたり、応用できるようにしています。 課題は基本的に個別に確認、添削しお返しします。確認とコメントに時間を要するので締切は授業の2日前です。スケジュールや体調不良などで間に合わない場合は対応しますのでご連絡下さい。課題に取り組み、わからない点を明確にし個別に対応することで理解を深められるようにしていきます。
授業と関連する実務経験	子どもの健康・病気：NICU,GCU,MFICU・産科7年 感染：中央手術部 6年、NICU・GCU・MFICU・産科7年、腎・透析センター1年、救命救急センター1年 救急時の対応：中央手術部6年、NICU,GCU,MFICU・産科7年、救命センター1年 保育、家族への援助：NICU,GCU,MFICU・産科7年、保育園6ヶ月
◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	

共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	。
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	410701 子どもの健康と安全	教室	401教室
授業表題	子どもの健康と発達の特徴から、安全で健康に育つ環境を整えていける知識と技術の獲得を目指します。また子ども自身が健康と安全に対する知識を持つことができるように教育的な関わりについても学びます。保育環境として不可欠な職員や保護者、関係機関との連携も学びます。		
担当教員	手塚 和美	実務経験	○

英語名称	子どもの健康と安全 (Child Health and Safety)		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	後期	曜日・時限	木曜2限
必修・選択	選択 (保必)	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	子どもの健康と発達、発育が健全に進むためには安全な保育環境と人的・物理的支援が不可欠である。子どもの保育、養育に関わる者としての自覚を持ち、安全で健全な保育環境を整えていくための知識と技術の獲得を目指していく。 知識の充実のため、疾患への対処、事故や怪我の際の応急処置、地域や保護者との連携について学んでいく。 演習による技術の獲得を目指し、GWやケースワークを通して実例を学ぶ。
授業の到達目標	1. 子どもの健康と安全の特徴を理解する。 2. 発育と発達を考慮した健康と安全のための関わりについて理解する。 3. 子どもの健康を理解し、疾病の予防、病気の早期発見と対処ができるようになる。 4. 安全管理について学び、環境整備、リスクマネジメントができるようになる。 5. 安全のための地域連携について学び、地域での子どもの安全管理がわかる。 6. 災害時の対策について考え、実践方法と災害時の安全教育について学ぶことができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション ①授業について ②出欠席と課題について ③試験について ④評価について 「子どもの健康と安全」で学ぶこと 1. 子どもの健康の特徴 教科書p1～17 (1) 子どもの健康と保育環境 (2) 子どもの健康の個別対応と集団の健康管理について 2. 子どもの安全の特徴 (1) 子どもの事故の特徴 (2) 子どもと災害 (3) 家庭や地域での子どもの安全 【ワーク】 1. 「子どもの健康と安全」に興味を持ったことを全て挙げてください。 2. 「子どもの健康と安全」を学び獲得したい知識と技術それぞれ3つずつあげて下さい ＊第1回課題 1. 子どもの健康と安全に必要な保健活動とはどのようなものか、子どもの健康や安全の特徴に注目し てまとめて下さい。
2回	保育における健康及び安全管理について 1 「保育環境と保健、衛生管理」 教科書p25～29 1. 施設環境管理 2. 屋内の衛生管理 3. 屋外の衛生管理 「基本的生活習慣の確立」 1. 食習慣 2. 排泄習慣 3. 衣服の着脱と清潔 4. 睡眠 【ワーク】

	1. 子どもの健康と安全のために必要な環境とはどのようなものをまとめましょう。 2. 「生活環境が整っている状態」を人的要素、物理的要素、社会的な要素に分けて具体的な言葉で まとめて下さい ＊第2回課題 1. 衛生管理についてのまとめ 解答フォームを課題に出題します。まとめを記入し提出してください。
3回	第2回課題解説と質疑応答 保育における健康及び安全の管理について 2 教科書p30～35 「子どもの事故の特徴と事故や怪我の理解」 「安全管理・事故防止」 1. 子どもの事故防止の重要性 2. 発達段階別の怪我や事故の種類と特徴 3. リスクマネジメントについて（SHELL分析） 3. 事故防止のための具体的な方法 4. 事故後の精神的支援 5. 安全対策 【ワーク】 実習時やきょうだいのお世話をしている時などに起こったヒヤリハットや事故（転倒などの怪我も含む）をまとめましょう。 ＊第3回課題 ヒヤリハットの事例をまとめて、発表できる状態に仕上げて提出してください
4回	「ヒヤリハット事例の発表」 ヒヤリハット事例発表を聞き、実際の保育場面で起こった事故を学び「安全」について考察する 「安全教育」 保育における安全教育とは（事故の傾向と発達の考慮） 安全教育が必要な場面とは 保護者に対する安全教育 【ワーク】 安全教育の立案 誰に対して何の安全教育をするのか、テーマと方法を具体的にする ＊第4回課題 安全教育の内容を完成させ、発表できるようにしてください
5回	「安全教育の発表」 各自で考えた安全教育を対象者に向けて実施する形で発表する。 安全教育を受けて感じたこと、学んだことを意見交換し共有する。 【ワーク】 安全教育を受けて学んだこと、感想をまとめる ＊第5回課題 以下の内容についてワークシートに解答し提出してください 1. 安全管理の具体的な方法をまとめてください 2. 安全教育を実施する際の注意点をまとめてください
6回	「体調不良や傷害発生時の対応と応急処置」 p53～62、p77～89 1. 子どもに多い病気：感染症 2. 子どもに多い感染症 ・感染症発生時と罹患後の対応（集団感染の予防と対策） ・子どもがよくかかる感染症の出席停止期間の基準を知っておく ・子どもの感染症罹患後の対応を知っておく ・感染症発生時と予防のため、保護者や関係機関などの連携を知っておく ・予防接種について 3. アレルギー疾患

	4. 急性・慢性腎疾患 5. てんかん 6. 小児がん 7. 小児糖尿病 8. 生活習慣病 【ワーク】 1. 体調不良時の対処法（主に観察項目、応急処置についてのワークシート） 2. 感染成立の3要素の視点に基づき、「感染源対策」「感染経路対策」「感受性対策」としてどのようなことができるか具体的にまとめる。 ＊第5回課題 体調不良時の対応についてのまとめ問題を出題します。解答し提出して下さい。
7回	第6回課題のまとめ 「応急処置」 教科書 p56～62 1. 応急処置が必要な場合の判断と対応方法を身につける （＊出血、傷、骨折・打撲・捻挫、歯の外傷、鼻血、熱中症、虫刺され、目・耳・鼻の異物、咽頭異物、与薬、医療機関の受診） 【ワーク】 教科書p70 課題1、p72 課題7について考えてみましょう ＊応急処置についてのまとめ問題について解答し提出してください
8回	第7回課題解説 「救急処置」 講義・演習 教科書 p63～69 1. 救急処置が必要な場合の判断と対応方法を身につける （＊誤嚥、溺水、アナフィラキシーショック、頭部外傷、痙攣時の観察と対応） 2. 子どもの心肺蘇生法を身につける（人形を用いて心臓マッサージを実施する） 3. エピペン使用法と実際の使い方 【ワーク】 1. 救急処置時の手順をまとめてください ＊第9回課題 1. 救急処置の手順のまとめを完成させてください 2. エピペン使用時の手順のまとめを完成させてください
9回	第8回課題の発表と共有 「救急蘇生法」講義と演習 1. 子どもの心肺蘇生法を身につける（人形を用いて心臓マッサージを実施する） 2. エピペン使用法と実際の使い方 3. 子どもに対するAEDの使い方を理解する（第11回で救急救命士の方からの講習あり） 【ワーク】 心肺蘇生のABCとは何か調べ、実施する際の注意点をまとめましょう ＊第9回課題 以下の内容についてのまとめを完成させて提出してください 1. 救急蘇生時の手順と観察について 2. エピペン使用時手順と観察について 3. AED使用時の手順と観察について
10回	演習 1. 汚物処理 2. 手洗い（紫外線ランプで洗い残しの確認をします） 3. 救急蘇生法（窒息時の対応と心臓マッサージ、救急要請） 【ワーク】 1. 実践時に不安なことを明確にする。

	2. 汚物処理時に必要な注意点を明確にして、学生同士で良い点・改善すべき点をレビューできるようにする 3. 背部叩打法、胸部突き上げ法、ハイムリック法、心臓マッサージを実施できるようにする ＊第10回課題 1. 演習のまとめと感想 演習内容についてまとめ、①注意点と、②実際に演習を行い難しかった点と感想をまとめてください。 2. 演習をやってみての感想や救急処置を学んで生じた興味や疑問について救急隊の方に聞いてみたい質問を3つ以上考えて来て下さい 例えば「夏場の救急出動で多いものは何か」など
11回	演習 「AEDの使い方」 実際にAEDのデモ機を用いて演習を実施する（消防隊員の講習を受けます） 1. AED装着の方法について 2. AED使用時の注意点について 3. 実際にデモ機と人形を用いて1次救命を行う 4. 子どもの救急などについての質問コーナー ＊第11回課題 1. AED講習についての感想や学んだことをまとめてください (内容は消防署へもお伝えします)
12回	「職員間の連携、保護者との連携、関係機関との連携について」 教科書p144～148 1. 保育時間以外に支援が必要なケースとは 2. 職員間の連携・協働と組織的取り組みを理解する 3. 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携の仕方を理解する 4. 子どもの健康及び安全管理の実施体制における協働の仕方を知っておく G.W. 地域連携とはどのようなものか教科書の該当ページを読んで、地域連携が必要なケースにはどのようなものがあるか調べて下さい。 ＊第12回課題 1. GWと発表を聞いて保護者や地域との連携の必要性について分かったことをまとめて下さい。 2. 地域連携について、今後実践の場で必要になる自分の課題を明確にして下さい。 (社会資源について学ぶなど)
13回	第12回課題解説 「防災対策について」 教科書p36～38 1. 災害とは 2. 防災対策 3. 防災教育 G.W. 東京立正短期大学で下記の災害が起こった際に必要な対処を乳児・2・3歳児・4歳以上に分けて具体的に考え、発表しましょう ①地震 ②台風(大雨も含む) ③火災 ④不審者の侵入 ＊第13回課題 GWの発表を聞いて1. 学んだことと、2. 感想をまとめて下さい
14回	第13回課題振り返り 「子どもの健康と安全」まとめ 1. 子どもの健康と子どもの安全の特徴（大人の健康と安全への対処との違い） 2. 健康状態の把握と評価、健康教育 3. 子どもに多い病気 4. 症状があるときの対処 5. 応急処置と救急処置

	6. 事故予防と安全教育 7. 災害対策 【ワーク】 1. 「子どもの健康と安全」で興味を持ったことについて理解や興味が深まったかどうか評価し、 まとめて下さい 2. 学びたかったこと、獲得したいと思っていた技術、それぞれについて目標達成できたかどうか 評価し、まとめて下さい ※第14回課題 1. 子どもの健康と安全を学んでの感想を教えてください。 2. 子どもの健康と安全の要点を振り返り、テスト勉強をしておいてください。 提出できる方は提出してください。
15回	子どもの健康と安全まとめ 「小テスト（授業内テスト）」 60分の記述式テスト（レポート様式ではなく書き込みです） 持ち込みは教科書のみ可です ※後期日程の中で実習や就職活動で欠席人数が多い場合は、十分な授業時間の確保ができないため、 第15回を通常の授業とし、試験週間に試験を実施いたしますのでご注意ください。進行状況により第12回頃までには授業時間内か、試験週間の実施をお伝えいたします。

評価方法	各回出題する課題の提出状況とテスト、演習の参加状況により評価します。 テストは100点満点で各回の課題との合計点で評価します。 課題の評価は、提出され且つ学習目標が達成できていれば各回1点ずつ加点します。 出席は学内規定に沿って2/3以上としますが、演習や実践に即した内容でどの回も一度きりの不可欠な内容となっておりますのでなるべく出席するよう心がけてください。 授業で分からない言葉や内容があった場合、そのままにせず質問して下さい。質問が無い場合、理解が得られたという認識で授業を進めます。 演習は実技の評価もしますので観察や処置の方法を必ず実際に行ってみて下さい。 授業に来ていても実技の実施をしなかった場合は評価できないため加点できないことをご理解下さい。
テキスト（必ず購入）	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの健康と安全演習ノート」改訂第3版 編著 小林美由紀 出版社 診断と治療社 ISBN:978-4-7878-2702-9
参考書（必要に応じて購入）	※前期「子どもの保健」の教科書も感染症対策などが載っていますので参考になさってください
受講条件・ルール	出席番号順にご着席下さい。出欠席や遅刻・早退のルールは学内規則に則って行います。 欠席の連絡はTeamsのチャットでご連絡をお願いします。（授業内の配布資料等についての連絡のため）やむを得ず欠席した場合は教科書や授業ファイルを参考にわかる範囲で課題に取り組んで下さい。課題は予習と復習で構成されています。授業ファイルは各回授業チャンネルのファイルへ投稿します。 携帯電話の使用は出席の入力と授業に関する調べものや発表に使用のみ可とします。 演習は見学だけではなく実際に実技に参加してください。見学だけの場合は演習点の加点をしません。また、演習のまとめも知識や手技を忘れないためにも必ず提出して下さい。 演習の回（第8回、9回、10回、11回）に都合がつかない方は相談に応じますので早めにご連絡ください。＊第4回～6回頃、参加についての確認をします 専門用語の多い科目なので、授業内容や課題でわからないことがあった場合はご質問

	問下さい。
--	-------

授業時間外の学習（予習・復習等）	授業の理解を深めるため、必ず予習と課題に取り組んでください。 予習では、該当回のワークに取り組み、授業時間に実施して知識を確実なものにできるようにしましょう。ワークの自己学習がおおよそ30分程度かかります。また、授業後に課題が出題している課題は各回ごとに設けてあります。実施した授業のまとめになっていますので必ず取り組むようにして下さい。30分程度でまとめられる内容になっています。予習と復習で1時間程度の自己学習が必要です。演習の回や発表のある回の際は予習時間が長くなることが予測されます（安全教育の発表など）。 第14回は総まとめの回ですので、第1回から13回までの振り返りをして、あやふやなところ、わかりにくいところをピックアップし、授業内に質問してください。総まとめなので2時間くらいの時間が必要になると思います。試験勉強も兼ねますので、1日に集約せず小分けにして取り組んでみてください。第15回は試験ですので第15回の予習は試験勉強になりますので必ず学習して試験に臨んでください。各回の課題の内容についての解説と授業は皆さんが理解を深められるよう、わかりやすく説明するよう努めます。わかりにくい時、初めて聞く内容の際はご質問してくださいますようお願いいたします。 スライドの文字が見えにくい、説明のペースが早いなどありましたら改善しますので、その都度教えて下さい。 日常生活の中で、子どもの事故や流行している感染症についてのニュースを見て情報収集しましょう。またアレルギーや様々な疾患、自分や周囲の人の健康状態にも気をつけてみましょう。
試験・レポート等のフィードバック方法	課題はTeams内の課題に出題します。課題は試験実施回以外毎回あります。 授業内容をワークシートで確認し、わからない点を明確にし、課題で知識を確実なものにし応用できるようにします。授業は座学だけではなく、GWや演習により知識の応用や技術の獲得を目指します。GWでは各グループの発表を通し多角的な視点から理解を深められるようにします。学生間の意見交換や経験の共有も大切な学びなのでGWや授業での発言、質問は積極的にご参加下さい。 課題は基本的に個別返却のため時間が必要になるので、授業予定日の2日前までとします。締め切りまでに記入し提出して下さい。間に合わない場合は連絡を下さい。質問や連絡はTeamsのチャットを利用して下さい。 欠席の場合は、授業ファイルも見られるようにしておくので、教科書と授業ファイルを参考にして課題に取り組んでみて下さい。

授業と関連する実務経験	子どもの病気・家族への対応・地域連携：NICU,GCU,MFICU,産科 7年 保育園：6ヶ月 感染・安全管理：中央手術部 6年NICU・GCU・MFICU・産科 7年、保育園 6ヶ月 救命救急センター1年 救急時の対応：中央手術部（同上）、救急救命センター1年
-------------	---

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	。
現1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	◎
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	。

授業コード・授業名	400901 子どもの食と栄養	教室	405教室 調理室
授業表題	子どもの育ちと食のあり方について理解する		
担当教員	金親 未樹	実務経験	○

英語名称	子どもの食と栄養 (Child Food and Nutrition)		
専攻	幼児教育専攻	学年	1
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期（水曜2限）、後期（水曜2限）
必修・選択	選択（保必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	子どもの発育段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、保育との関連のなかで保育者として対応できる知識と技術を身につけることを目標とする。さらに子どもの食生活を学びながら、家族の健康や生活、地域との密接な関係や環境についても学び、保育者自身の望ましい食生活の構築にも取り組んでほしい。
授業の到達目標	保育との関連のなかで保育者として対応できる食に関する知識と技術を身につけること

◆授業計画	
1回	子どもの栄養と食生活の意義
2回	子どもの食生活の現状と課題
3回	栄養の基礎知識（1） 栄養とはなんだろう
4回	栄養の基礎知識（2） たんぱく質について理解する
5回	栄養の基礎知識（3） 脂質について理解する
6回	栄養の基礎知識（4） 糖質について理解する
7回	栄養の基礎知識（5） 多量ミネラルについて理解する
8回	栄養の基礎知識（6） 微量ミネラルについて理解する
9回	栄養の基礎知識（7） 脂溶性ビタミンについて理解する
10回	栄養の基礎知識（8） 水溶性ビタミンについて理解する

11回	栄養の基礎知識（9） 食物繊維、機能性成分について理解する
12回	栄養の基礎知識（10） 消化について理解する
13回	栄養の基礎知識（11） 吸収について理解する
14回	栄養の基礎知識（12） 代謝について理解する
15回	栄養の基礎知識（13） エネルギー代謝について理解する
16回	食事摂取基準について理解する
17回	胎児期・妊娠期の栄養について理解する
18回	授乳期の栄養について理解する
19回	乳児期の成長と母乳栄養について理解する
20回	人工栄養について理解する
21回	調乳について理解する 実習【調乳】
22回	離乳期の栄養・食べる機能の発達について理解する
23回	幼児期の栄養について理解する
24回	学童期・思春期の栄養について理解する
25回	児童福祉施設の栄養・食事について理解する
26回	【実習】離乳食
27回	【実習】間食
28回	食育の基本と内容

29回	媒体等作成
30回	食育発表

評価方法	授業への参加態度（グループワーク・実習参加態度等）・課題、実習レポートの提出・食育媒体作成発表などから総合的に評価する。
テキスト（必ず購入）	子どもの食と栄養（児玉浩子編集・株式会社中山書店）
参考書（必要に応じて購入）	カラーグラフ成分表（実教出版）【食の科学テキスト】
受講条件・ルール	実習日には、エプロン・三角巾・タオルを用意し、爪は短く切りそろえる。マニキュア・アクセサリー等はしない。グループワーク・実習では、グループのメンバー全員が参加できるよう、協力し合うこと。

授業時間外の学習（予習・復習等）	・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく（1時間/回） ・実習を通じて理解を深めた内容は、レポートを作成し、理論的な考察を行う（2時間/回） ・講義や実習から得た知識を深めるため、次回授業に向けて質疑をまとめておく（1時間/回） （合計60時間）
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	(1)実務期間 2021年4月～ (2)所属機関 認定こども園 (3)実務内容 幼児期の献立作成
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○
現31：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現32：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現33：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	○
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	◎

授業コード・授業名	300201 仏教と文化	教室	402教室
授業表題	仏教的視点から日本文化を学ぶ		
担当教員	佐藤 妙晃	実務経験	○

英語名称	仏教と文化 (Buddhism and Culture)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	1
授業開始学期	後期	曜日・時限	火曜2限
必修・選択	必修	基礎・専門	基礎教育科目

授業概要・目的	仏教の伝来と歴史をたどりながら、日本文化の根底にある仏教思想を学ぶ。 また、仏教文化をとらえて、人々の「願い」や「祈り」を知ることを目的とする。
授業の到達目標	授業の到達目標 仏教と文化に関する基礎的な知識を得ること。 仏教の思想と、人々の「祈りのかたち」として文化を学び、仏教的視点を養うこと。

◆授業計画	
1回	ガイダンス 本講義の目的及び、全15回の講義概要と成績評価方法について説明する。
2回	私たちと仏教の接点 自身のこれまでの生活を振り返り、仏教との接点を確認する。また、自ら意識していなくても、私たちの生活には、仏教由来の文化があるということを再確認することを目的とする。 自宅学習 生活の中に仏教由来の言語や風習がないか調べてみる (2時間)
3回	身近なところにある仏教 日本の年中行事や、葬儀、祭礼などの儀礼から、私たちの生活に根付いている仏教を確認する。 参考文献 中村圭史『教養としての仏教』幻冬舎(2016/9/30) 自宅学習 講義中に配付した資料を活用して復習すること、また、次週からお釈迦様の生涯について学ぶため、自分の知っている仏様のイメージについて考えてみる (2時間)
4回	釈尊の生涯 仏教の教主であるお釈迦様の生涯をたどり、お釈迦様の苦悩や「悟り」について順に解説する。 参考文献 中村元『ブッダ伝 生涯と思想』角川学芸出版(2015/5/2) 自宅学習 図書館でお釈迦様に関する伝記を読み、お釈迦様は何故仏教を開かれたのかについて考えてみる (2時間)
5回	仏の教えと経典 お釈迦様はその生涯において様々な教説を説かれた。それらの教えは経典として現代の私たちに伝わっている。これらの経典の内容を概観する。 参考文献 中村元『仏教経典散策』KADOKAWA(2018/2/24) 自宅学習 葬儀などで読まれるお経には何が書いてあるのかについて調べる。「法華経」や「般若心経」など。(2時間)
6回	経典の文字に対する信仰 お釈迦様の教えは文字となり、経典として編纂されてきた。これらの文字を単なる記号としてではなく、「——文々は真仏」、すなわち、一文字一文字が仏であるという文字信仰の面から、仏教美術の鑑賞を行う。 参考文献 図録『古写経 聖なる文字の世界』京都国立博物館(2004) 自宅学習 経典の文字を仏そのものと認識したことがわかる「一字一仏写経」や「一字蓮台写経」をインターネットで調べて、鑑賞してみる。(2時間)

7回	仏教の伝来と聖徳太子 日本に仏教が伝来してから、仏教を中心とした国作りがなされる飛鳥時代までの歴史と文化を概観し、聖徳太子の仏教史における功績を確認する。 参考文献 曾根雅人『聖徳太子と飛鳥仏教』吉川弘文館(2007/2/1) 自宅学習 仏教の伝来についての復習と、聖徳太子に関する逸話をしらべてみる(2時間)
8回	奈良・平安時代における仏教と文化 国家的に信仰された奈良仏教から、主に貴族へと信仰が変わっていった平安仏教までの仏教史を概観する。また、両時代の仏教芸術を鑑賞する。 参考文献 速水侑『奈良・平安仏教の展開』吉川弘文館(2006/8/6) 自宅学習 「国家仏教」とは何か自分の言葉でまとめてみる。また、写真集やインターネットなどで、奈良・平安仏教の代表的な仏像等を鑑賞し、感想をまとめる(2時間)
9回	鎌倉時代における仏教と文化 鎌倉時代においては社会不安や政治的混乱などから新しい仏教教団があらわれ、念仏、題目、座禅などの方法で万人が救われるということが説かれた。それによって前時代の貴族仏教に対してより民衆化していくことを確認する。 参考文献 松尾剛次『鎌倉新仏教の誕生』講談社現代新書(1995/10/1) 自宅学習 鎌倉時代の災害や社会不安について調べてみる。また、鎌倉新仏教の祖師達について調べる(2時間)
10回	日本人の末法思想について 仏教の教えが正しく世の中に届かなくなり、それによって成仏という救いがなくなるといわれる末法。このような時代を仏教者たちはどのように受けとめ、活動がなされてきたのかを概観する。また、絵画資料等から地獄という存在についても解説する。 参考文献 速水侑『平安仏教と末法思想』吉川弘文館(2006/10) 自宅学習 仏教の時間論である「末法」という時代認識は、鎌倉時代の人々によってどう受け止められていたのか、また、現在の私たちが生きている「今」も「末法」であるが、当時の人々との認識の違いがあるかについて考えてみる(2時間)
11回	『法華経』の教えについて 仏教経典の中でも『諸経の王』といわれる『法華経』。日本の文化史においても、仏像・絵画・彫刻等だけではなく、文学作品にまで多大な影響を及ぼしている。その『法華経』には何が説かれているのか解説する。 参考文献 北川前肇『法華経へのいざない』大法輪閣(2021/5) 自宅学習 「法華経」の内容について、講義中に配付した資料を復習し、この経典が成立した背景を理解する(2時間)
12回	日蓮聖人の生涯 鎌倉時代の僧で、日蓮宗の開祖である日蓮聖人。「法華経の行者」としての生涯をたどり、その時代背景や、末法における仏教信仰の姿を学ぶ。 参考文献 姉崎正治『法華経の行者日蓮』講談社学術文庫(1983/1/1) 自宅学習 日蓮宗の開祖である日蓮聖人は、何故、末法の世において衆生を救うのは「法華経」の教えであるとしたのか、その本意を理解するため、鎌倉時代の様相と仏教的歴史観の確認と、日蓮聖人の生涯について復習する(2時間)
13回	日蓮著『立正安国論』について 自らを「法華経の行者」と規定された日蓮聖人の代表的著作である『立正安国論』。本書の執筆動機、さらには執筆当時の社会情勢を確認し、日蓮聖人の思想と行動について学ぶ。 参考文献 北川前肇『立正安国論を読む』日蓮宗新聞社(2009/7/1) 自宅学習 日蓮聖人の代表的著作である『立正安国論』は、何故執筆され、なぜ幕府へと上進されたのかについて復習する。授業内で配布した資料と参考文献をよく読むこと(2時間)
14回	江戸～明治時代の仏教と文化 江戸時代から明治期における仏教各宗派の動向と、江戸幕府の宗教政策のうち「寺請制度」、「本寺制度」を概観し、明治時代における「廃仏毀釈」について学ぶ。 参考文献 畑中章宏『廃仏毀釈』筑摩書房(2021/6/10) 自宅学習 江戸幕府の宗教政策のうち「寺請制度」、「本寺制度」の二つを理解した上で、明治期以降の仏教界の衰退について復習する。また、「廃仏毀釈」の発端について理解する。(2時間)

15回	まとめ 日本における仏教の伝来と歴史をたどり、学んできた仏教思想と、文化にみる人々の「願い」や「祈り」について総括する。 自宅学習 全15回の配付資料を再度復習すること(2時間)
-----	---

評価方法	全15回の講義のうち10回(3分の2)の出席を前提として、レポート提出(100%)
テキスト（必ず購入）	講義中にプリントを配布する。
参考書（必要に応じて購入）	必要に応じて、授業内において紹介する。
受講条件・ルール	私語を慎み、他者へ配慮すること。

授業時間外の学習（予習・復習等）	1）授業で配布されたプリントを復習し、授業で紹介した参考文献を読むこと。 2）博物館、美術館、資料館、寺社等に足を運び、様々な仏教文化にふれること。 この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされています。予習として2時間程度の関連書籍の読書、また、授業ごとの復習を行ってください。
試験・レポート等のフィードバック方法	

授業と関連する実務経験	日蓮宗僧侶
-------------	-------

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	○
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現ミ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現ミ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現ミ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	

授業コード・授業名	405501 保育実習指導Ⅱ[保育所]	教室	401教室
授業表題	保育実習Ⅱ（保育所）に向けての事前事後指導		
担当教員	村山 久美、倉持 こころ	実務経験	○

英語名称	保育実習指導Ⅱ（Instruction of Childcare TrainingⅡ）		
専攻	幼児教育専攻	学年	2
授業開始学期	前期	曜日・時限	前期（水曜4限）、後期（水曜4限）
必修・選択	選択（保選必）	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	保育実習における様々な自己の課題について、計画・実践・反省・再構成することを通じて、学びを深めていきます。実習において、子どもと共に過ごす楽しさや成長を間近で見られる喜びを感じ、専門職としてのやりがいを実感するために、授業では、実習に向けての知識・技術の習得についてさらに学びを深めていきます。
授業の到達目標	・保育所実習に向けて、保育者としての自己の課題を明らかにする。 ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・責任実習に向けて、必要な準備を整える。また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション 保育実習Ⅱについて、保育実習Ⅰ（保育所）のふりかえり
2回	復習：実習生の心構えと姿勢、挨拶、マナー、実習のオリエンテーションについて
3回	復習：各年齢・クラスにおける発達や遊び・かかわり
4回	復習実習日誌の書き方（1）保育所の時間の流れをつかむ、時系列の記録
5回	復習：実習日誌の書き方（2）乳幼児の発達に注目する、気づきを書く
6回	実習課題の立て方、一日のふりかえりとエピソード記述
7回	部分実習の指導案の作成
8回	責任実習の指導案の作成（1）
9回	責任実習の指導案の作成（2）

10回	責任実習の指導案の修正・添削
11回	現場の声を聞く（発表と小グループでの質問）
12回	実習で困った時の対処、保育者の動き
13回	公文書（個人票・評価表・出勤簿・誓約書）の準備、実習生連絡票の作成、保育で使用する漢字
14回	職員との関係性、保育観と様々な保育形態、実習前の事前確認
15回	実習前の事前確認、まとめ

評価方法	授業内の課題・提出物、グループワーク発表内容等により総合的に評価します。ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は、成績評価の対象となりません。
テキスト（必ず購入）	『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』（わかば社）
参考書（必要に応じて購入）	『実習日誌の書き方』（一藝社・ISBN：9784863590427） 『保育指導案大百科事典』（一藝社・ISBN：9784863590410） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
受講条件・ルール	実習生として最も必要な姿勢は謙虚さです。子ども達のように、失敗から学ぶ姿勢、感謝を伝える姿勢、積極性を示すなど、授業中から自己の在り方を意識するようにしましょう。

授業時間外の学習（予習・復習等）	実習に必要な書類の作成や準備、部分実習で用いる保育教材の作成や指導案の作成、保育活動発表の準備など、有意義な実習となるように授業内での提出・発表期日を必ず守ってください。
試験・レポート等のフィードバック方法	レポートや授業内の課題終了後、解説を行うことでフィードバックする。

授業と関連する実務経験	（１）実務期間 1999年4月～2009年3月 （２）所属機関 静岡県袋井市私立保育園 （３）実務内容 保育園園長として、0歳～就学前までの乳幼児保育、障がい児の加配保育を行った。発達や年齢に応じた活動や遊び、生活体験等の中で、総合的な関わりを通して成長・発達を促す関わりを行った。また実習指導担当教員として実習生の指導も行った。
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	○
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	○

現コ1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	
現コ2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現コ3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	○
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	◎
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	○

授業コード・授業名	202901 臨床心理の基礎B	教室	403教室
授業表題	臨床心理学		
担当教員	横尾 瑞恵	実務経験	○

英語名称	臨床心理の基礎B (Introduction to Clinical Psychology B)		
専攻	現代コミュニケーション専攻	学年	カリキュラムにより異なります。
授業開始学期	後期	曜日・時限	水曜3限
必修・選択	選択	基礎・専門	専門教育科目

授業概要・目的	心の問題の治療法や心理臨床現場での援助の在り方を学ぶ。 基本的に講義形式で進め、テーマに応じてワークを行う。毎回の授業終了時には考察や疑問点を簡単にまとめて提出してもらい、次回の授業で解説する。
授業の到達目標	心の問題とその援助方法に関する基礎的な知識を理解し、説明することができる。 心の在り様は人それぞれで異なることを理解するとともに、自分の心を見つめ、心の問題について自分の頭で考え、表現することができる。

◆授業計画	
1回	オリエンテーション： 授業の進め方、留意点などの説明
2回	カウンセラーの役割： カウンセリングの意義について学ぶ
3回	カウンセラーの役割： カウンセラーの職業倫理について学ぶ。
4回	心の問題を扱う現場：教育領域 (スクールカウンセラーの仕事内容について学んだうえで、いじめの心理教育について考える)
5回	心の問題を扱う現場：医療領域 (病院のカウンセラーの仕事内容を学ぶとともに、コラボレーションについて考える)
6回	心の問題を扱う現場：福祉領域 (児童相談所の心理職の仕事内容を学ぶとともに、児童虐待について考える)
7回	心の問題を扱う現場：産業領域 (産業カウンセラーの仕事内容を学んだうえで、キャリアカウンセリングについて考える)
8回	心の問題を解決する治療法：心理療法とは何か (三大療法の特徴を比較検討するとともに、カウンセリングにおいて重要なことを学ぶ)
9回	心の問題を解決する治療法：精神分析 (精神分析の特徴、諸理論、悩みの解決に至る流れを学ぶ)
10回	心の問題を解決する治療法：行動療法 (行動療法の特徴、諸技法を学んだうえで、心と環境の結びつきについて検討する)
11回	心の問題を解決する治療法：来談者中心療法 (来談者中心療法の特徴、諸理論を学んだうえで、傾聴訓練を体験する)

12回	心の問題を解決する治療法：認知行動療法 (認知行動療法の特徴、諸技法を実践的に学ぶ)
13回	心の問題を解決する治療法：芸術療法 (芸術療法の定義・特徴を学んだうえで、コラージュ技法を体験する)
14回	心の問題を解決する治療法：家族療法 (家族療法の定義・特徴、諸技法、悩みの解決に至るまでの流れについて学ぶ)
15回	まとめ

評価方法	授業への参加態度（授業態度、リアクションフォームなど）および定期試験の結果により、総合的に評価する。 ただし、2/3以上出席しなければ成績評価はできないものとする。
テキスト（必ず購入）	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書（必要に応じて購入）	「完全カラー図解 よくわかる臨床心理学」 岩壁 茂 監修 ナツメ社 2020年 「図解雑学 臨床心理学」 松原達哉 編著 ナツメ社 2002年
受講条件・ルール	授業の課題以外の私語など、授業の妨げとなる行為は厳禁とする。 受講ルール・マナーがあまりにも守られない場合は退室を命じる。なおその場合は欠席とする。

授業時間外の学習（予習・復習等）	この授業には60時間の授業時間外学習が必要とされている。これを満たすために以下の内容に取り組むこととする。 ①毎回の授業で配布した資料を整理し、まとめること。 ②毎回のテーマに応じた考察課題に取り組むこと。 ③定期試験に向けて、授業内容を理解し、考察を深め、説明できるようになっておく ④日常生活において、授業内容を活かせる機会を探し、理解を深める。
試験・レポート等のフィードバック方法	各回に学生から提出されたリアクションフォームに対しては、次回授業で適宜コメントをする。

授業と関連する実務経験	(1)13年 (2)中学校・高等学校 (3)スクールカウンセラー
-------------	--

◆ディプロマ・ポリシーとこの授業の位置づけ	
共通1：社会の一員であることを認識し、自己を分析して自らの役割を見出し、発信できる言語能力とコミュニケーション能力を修得していること	
共通2：授業などでの討論に主体的に参加し、他者との違いを恐れず、激動する現代社会に安易に流されない価値観を確立していること	
共通3：他者と異文化を理解し、市民社会を形成するための知識・能力を有するとともに、地域ボランティア活動などにも積極的に取り組み、共に生きる姿勢と能力を獲得していること	◎
共通4：問題に直面したときに、他者を困難にさらすことなく、自らその原因を追究し、行動に活かそうとする独立と協働の姿勢を有していること	
現㉓1：心理学基礎の知識と能力を有し、現代社会の中で発揮できる豊かなコミュニケーションの能力（心理コース）	○
現㉓2：現代社会経済の仕組みを理解し、コンピュータリテラシー、簿記、秘書学などを通じて得られるビジネスの実務能力（ビジネスコース）	
現㉓3：日本と世界の現状、歴史、文化を理解し、広範な知見に基づく優れたホスピタリティ能力（観光コース）	
幼教1：保育現場の状況に応じて適切に自己を表現することのできるコミュニケーション能力	
幼教2：慈悲の心をもって他者と関わり、進んで他者のために行動しようとする姿勢	
幼教3：子どもの生命を尊重し、子どもの発達の特徴をとらえ、子ども一人ひとりの個性を認める保育技術	